

福生市・羽村市
多文化共生実態調査
報告書

令和3年1月

ふっさ・はむら多文化共生事業協議会

目 次

第 1 章 調査の概要	1
1 調査実施の目的	3
2 調査の種類	3
3 調査方法と回収状況	3
4 調査項目	4
5 調査結果を見る上での注意事項	4
第 2 章 日本人住民用調査結果の詳細	5
1 ご自身について（調査回答者の属性）	7
（1）性別	7
（2）年齢	7
（3）住んでいる市	8
（4）居住年数	8
2 暮らしの実感	9
（1）近所に外国人が住むことについての考え	9
（2）近所に外国人が住むことの良さ	11
（3）外国人が多くいることで心配なこと	14
（4）外国人に期待すること	17
3 日常生活	19
（1）外国人との付き合いの程度	19
（2）外国人とのトラブルの経験	23
（3）外国人と生活していくために大切なこと	24
4 多文化共生のまちづくり	26
（1）「多文化共生社会」という言葉の認知度	26
（2）多文化共生を理解促進するための事業の認知度	29
（3）多文化共生を理解促進するための事業に参加しなかった理由	32
（4）市の取組みとして力を入れるべきだと思うこと	32
（5）「多文化共生のまちづくり」のためにできると思うこと	35
（6）自由意見	38
第 3 章 外国人住民用調査結果の詳細	47
1 ご自身について（調査回答者の属性）	49
（1）性別	49
（2）年齢	49
（3）国籍	50
（4）住んでいる市	52
（5）日本での居住期間	53
（6）現在の市での居住期間	54

(7) 来日目的	54
(8) 仕事	55
2 日本での暮らし	56
(1) 現在の市に住み続けたい期間	56
(2) 現在の市に住んでいて良かったこと	58
(3) 日本の生活での困り事、心配事	61
(4) 日本の生活での困り事、心配事の内容	64
(5) 近くに住む日本人との付き合い	67
(6) 日本人と付き合いがない理由	70
(7) 今後の近くの日本人との付き合い方	70
(8) 市にある建物で、いつもよく行く場所	72
3 日常生活でのトラブル	73
(1) 近くに住む日本人とのトラブルについて	73
(2) 同じ地域で日本人と生活するために大切なこと	76
4 ことば	78
(1) 日本語について	78
5 多言語化の対応について	82
(1) 多言語での案内について	82
6 新型コロナウイルス感染症や災害時・緊急時の対応	84
(1) 新型コロナウイルス感染症や災害の情報の収集方法	84
(2) 昨年(2019年)の台風(台風第19号)の避難指示の認知度	87
(3) 新型コロナウイルス感染症や災害の対策で困ったこと	90
7 必要な情報・サービスについて	94
(1) 市や地域のお知らせなどの情報入手媒体	94
(2) 生活する上で知りたい情報	97
8 多文化共生のまちづくり	99
(1) 「多文化共生のまちづくり」の推進のために市でやるべきこと	99
(2) 「多文化共生のまちづくり」の推進のために自分でできること	102
(3) より住みやすいまちにするためにできること	105

資料編(調査票)	109
----------	-----

第1章 調査の概要

1 調査実施の目的

両市の外国人比率は、福生市が約6.35%、羽村市が約2.56%（令和2年4月1日現在）で都内26市中でも非常に高い地域であり、これまでもある程度の多言語化等対応を行っているが、さらに踏み込んだ施策の展開が求められている。

そこで、本調査は、地域で共に暮らす日本人・外国人の現状、様々な国籍の人々が同じ地域で生活することで生じる課題を把握し、これからの多文化共生の施策の推進に向けた基礎資料を得ることを目的として実施した。

2 調査の種類

調査名	調査対象
1. 福生市・羽村市多文化共生実態調査 (日本人住民用)	福生市および羽村市居住の20歳以上の 日本人住民
2. 福生市・羽村市多文化共生実態調査 (外国人住民用)	福生市および羽村市居住の20歳以上の 外国人住民

3 調査方法と回収状況

調査地域：福生市・羽村市全域

調査対象：住民基本台帳から無作為に抽出した20歳以上の日本人住民2,000人および
外国人住民1,500人

調査方法：郵送配布・郵送回収

なお、外国人住民には、抽出した対象者の国籍に合わせて、スペイン語・中国語・ベトナム語・韓国語・ネパール語・英語・タガログ語のいずれかの言語の「外国語調査票」と、平易な日本語による「やさしい日本語調査票」の2種類を組み合わせで配布した。

調査期間：令和2年10月8日（木）～10月31日（土）

<回収状況>

調査名	発送数			有効回収率（回収数）
	福生市	羽村市	2市合計	
1. 福生市・羽村市多文化共生 実態調査(日本人住民用)	1,000件	1,000件	2,000件	45.1% (901件)
2. 福生市・羽村市多文化共生 実態調査(外国人住民用)	1,000件	500件	1,500件	22.1% (332件)

第1章 調査の概要

<外国人住民用 回答言語別回収状況>

単位：件

回答言語	発送数			回収数
	福生市	羽村市	2市合計	
やさしい日本語表記	1,000	500	1,500	146
中国語	185	78	263	31
英語	195	120	315	42
ベトナム語	234	52	286	29
スペイン語	70	108	178	31
タガログ語	105	93	198	31
ネパール語	137	10	147	15
韓国語	74	39	113	7
外国語計	1,000	500	1,500	186
合計				332

4 調査項目

調査名	調査項目
1. 福生市・羽村市 多文化共生実態調査 (日本人住民用)	1. ご自身について（調査回答者の属性） 2. 暮らしの実感 3. 日常生活 4. 多文化共生のまちづくり
2. 福生市・羽村市 多文化共生実態調査 (外国人住民用)	1. ご自身について（調査回答者の属性） 2. 日本での暮らし 3. 日常生活でのトラブル 4. ことば 5. 多言語化の対応について 6. 新型コロナウイルス感染症や災害時・緊急時の対応 7. 必要な情報・サービスについて 8. 多文化共生のまちづくり

5 調査結果を見る上での注意事項

- (1) 集計は小数第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答率を合計しても100.0%にならない場合がある。
- (2) n (Number of Casesの略) は比率算出の基数であり、100.0%が何人の回答者数に相当するかを示している。
- (3) 本文やグラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (4) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数nとして算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (5) クロス結果の帯グラフや表について、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、表側のカテゴリーの件数の合計が全体の件数と一致しないことがある。
- (6) 分岐のある設問の対象者、あるいはクロス集計の属性等によってnが少なくなる場合がある。nが少ない場合、1人の回答がその属性全体の結果に大きく影響するため、定量的には適切な分析をすることが難しい。このため本報告書では分析軸の項目のうち20未満の場合、参考値としてコメントでふれていないことがある。

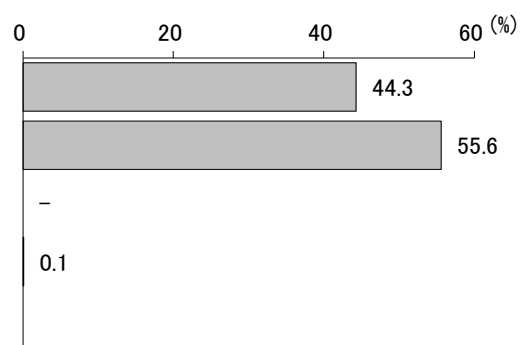
第2章 日本人住民用調査結果の詳細

1 ご自身について（調査回答者の属性）

（1）性別

問1 あなたの性別は次のどれですか。

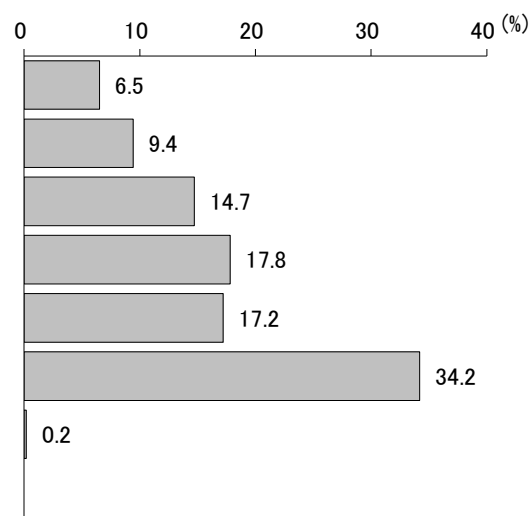
	基数	構成比
男性	399	44.3%
女性	501	55.6%
その他	-	-
無回答	1	0.1%
全体	901	100.0%



（2）年齢

問2 あなたの年齢は次のどれですか。

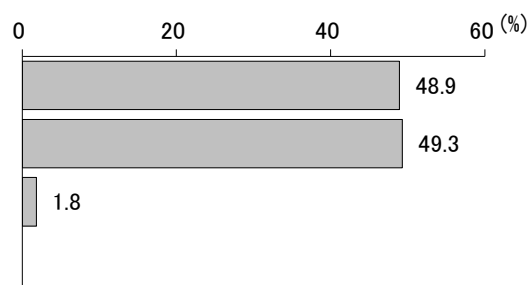
	基数	構成比
20～29歳	59	6.5%
30～39歳	85	9.4%
40～49歳	132	14.7%
50～59歳	160	17.8%
60～69歳	155	17.2%
70歳以上	308	34.2%
無回答	2	0.2%
全体	901	100.0%



(3) 住んでいる市

問3 あなたはどちらの市にお住まいですか。(○は一つだけ)

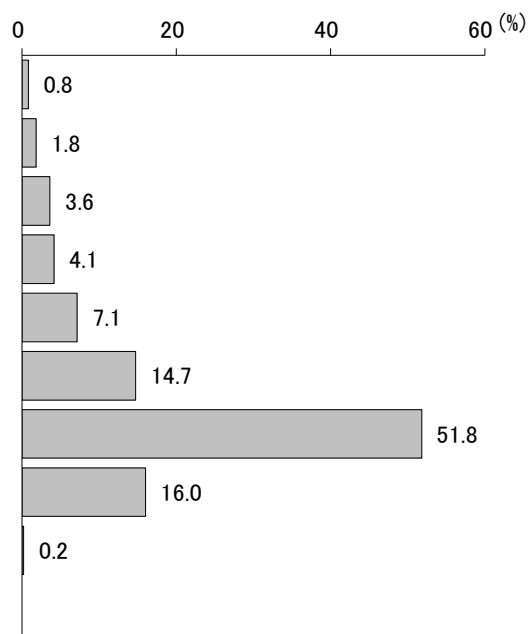
	基数	構成比
福生市	441	48.9%
羽村市	444	49.3%
無回答	16	1.8%
全体	901	100.0%



(4) 居住年数

問4 あなたは現在の市に住んで何年になりますか。(○は一つだけ)

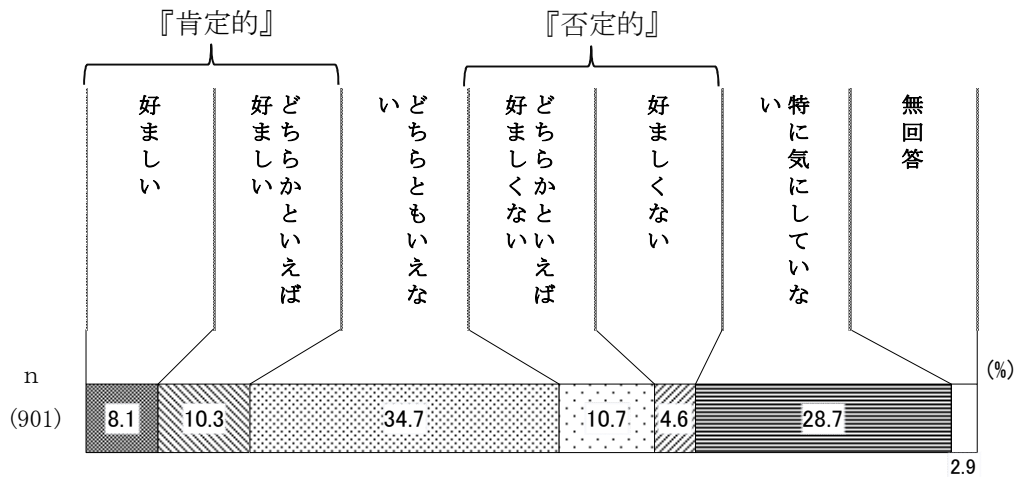
	基数	構成比
6ヵ月未満	7	0.8%
6ヵ月以上～1年未満	16	1.8%
1年以上～3年未満	32	3.6%
3年以上～5年未満	37	4.1%
5年以上～10年未満	64	7.1%
10年以上～20年未満	132	14.7%
20年以上～50年未満	467	51.8%
50年以上	144	16.0%
無回答	2	0.2%
全体	901	100.0%



2 暮らしの実感

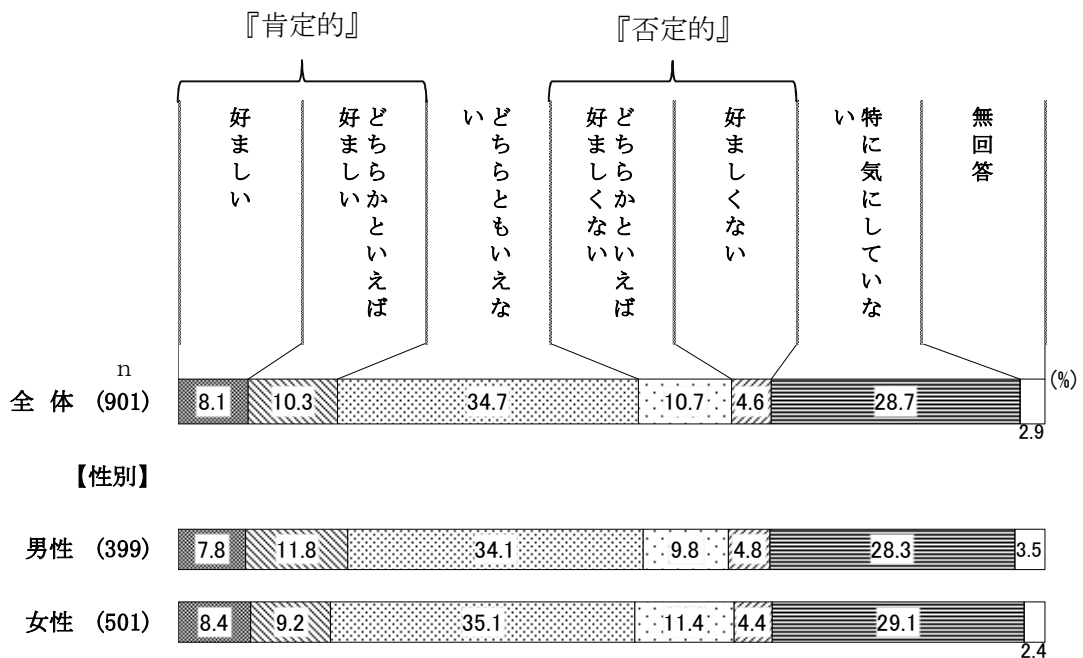
(1) 近所に外国人が住むことについての考え

問5 あなたは、近所に外国人が住むことについてどう思いますか。(○は一つだけ)



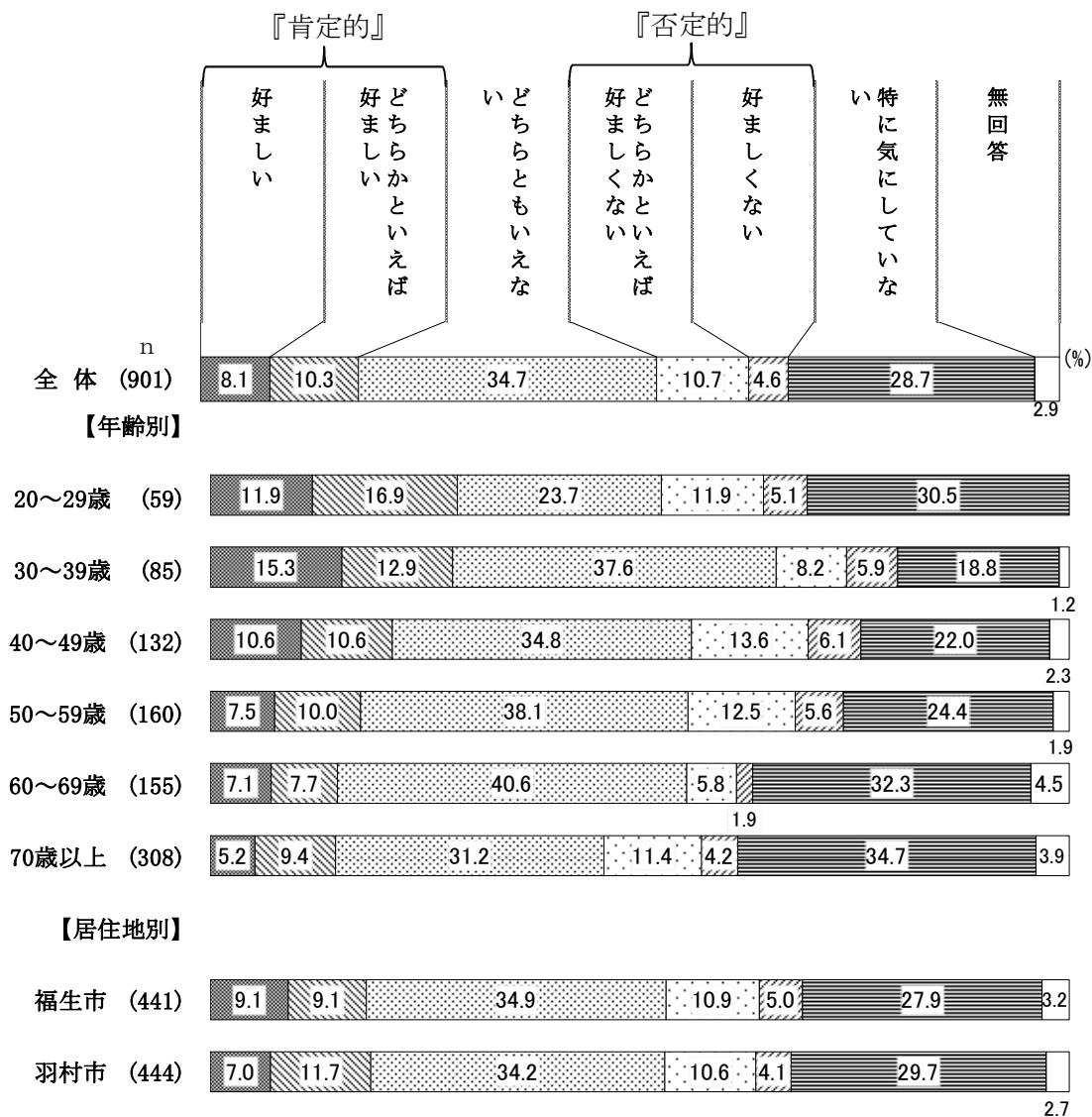
近所に外国人が住むことについての考えでは、「どちらともいえない」が34.7%で最も多く、次いで「特に気にしていない」(28.7%)となっていた。一方、「好ましい」(8.1%)と「どちらかといえば好ましい」(10.3%)を合わせた『肯定的』な回答は18.4%、「どちらかといえば好ましくない」(10.7%)と「好ましくない」(4.6%)を合わせた『否定的』な回答は15.3%となっている。

近所に外国人が住むことについての考え 性別



性別にみると、男女の間に大きな差は見られなかった。

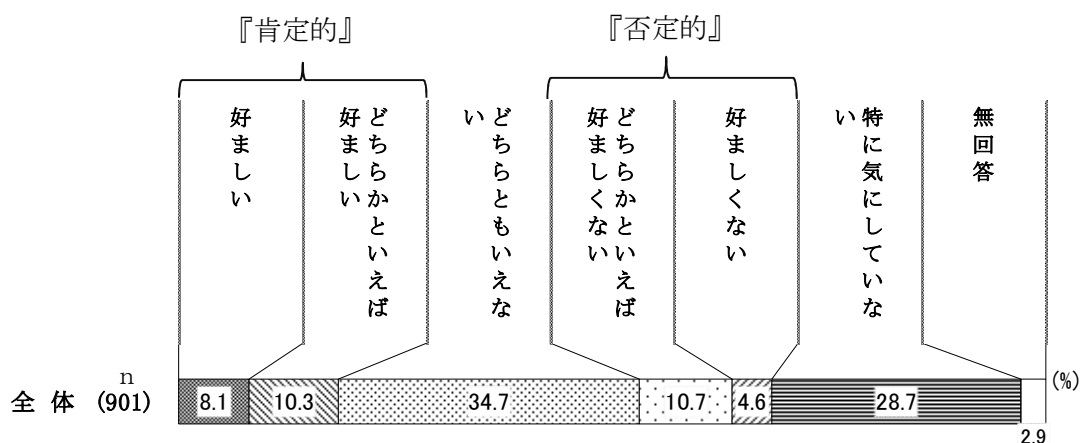
近所に外国人が住むことについての考え 年齢・居住地別



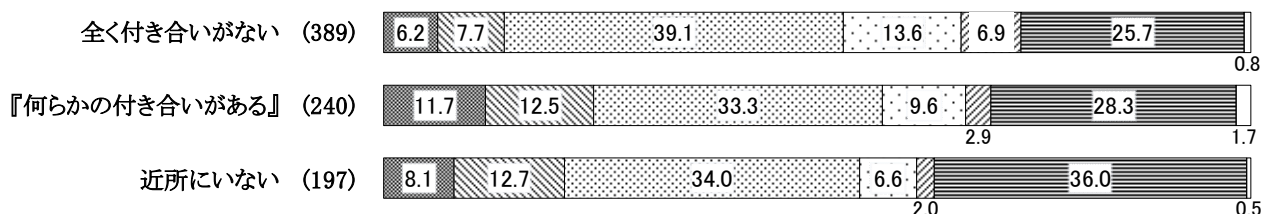
年齢別にみると、『肯定的』な回答については20～29歳(28.8%)、30～39歳(28.2%)が全体より高くなっている。また、「どちらともいえない」について60～69歳(40.6%)、「特に気にしていない」については70歳以上(34.7%)が全体より高くなっている。

居住地別にみると、両市の間に大きな差は見られなかった。

近所に外国人が住むことについての考え 外国人との付き合いの頻度(現在)別



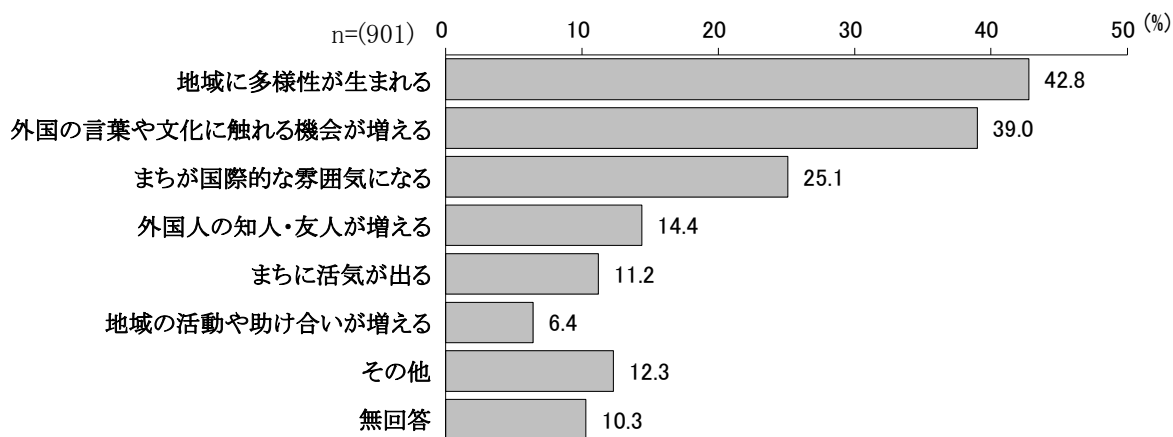
【外国人との付き合いの頻度(現在)別】



外国人との付き合いの頻度(現在)別にみると、『肯定的』な回答については『何らかの付き合いがある』人(24.2%)が全体より高くなっている。また、『否定的』な回答については全く付き合いがない人(20.5%)が全体より高くなっている。

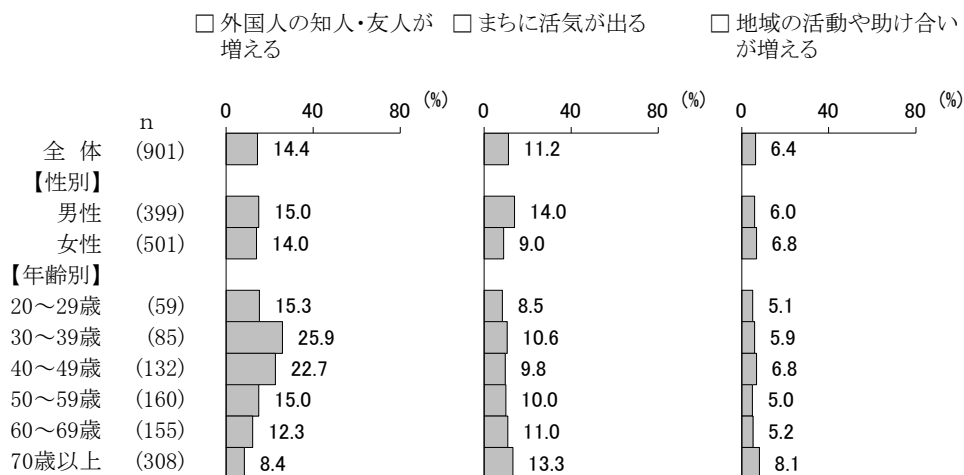
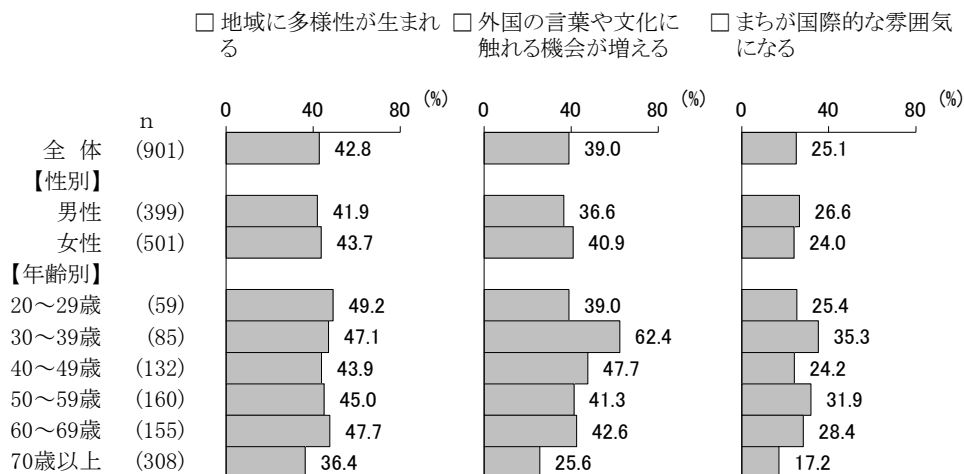
(2) 近所に外国人が住むことの良さ

問6 福生市と羽村市は他市に比べて外国人の住む割合が多い状況ですが、近所に外国人が住むことで良いと思うことはどんなことですか。(〇はいくつでも)



近所に外国人が住むことの良さでは、「地域に多様性が生まれる」が42.8%で最も多く、以下、「外国の言葉や文化に触れる機会が増える」(39.0%)、「まちが国際的な雰囲気になる」(25.1%)、「外国人の知人・友人が増える」(14.4%)となっている。

近所に外国人が住むことの良さ 性・年齢別

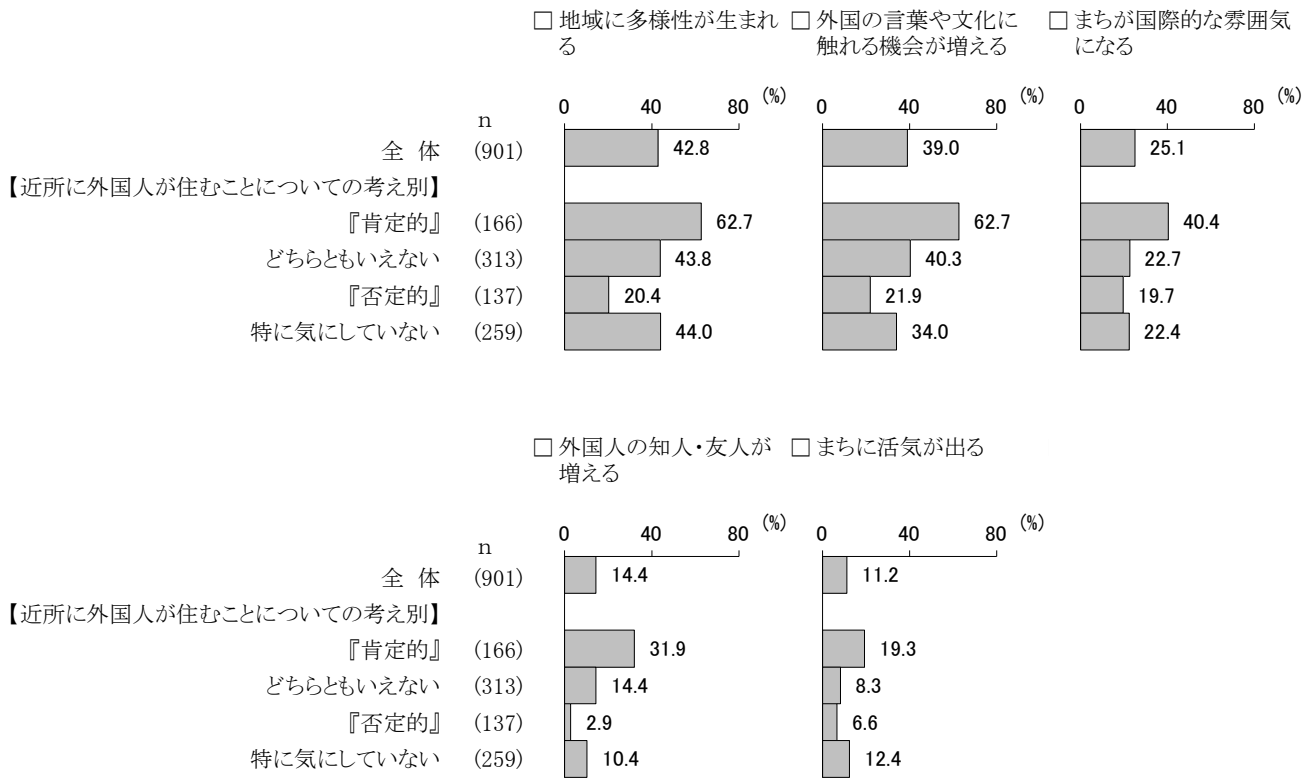


「その他」、「無回答」は非表示

性別にみると、「まちに活気が出る」については男性(14.0%)が女性(9.0%)より 5.0 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「外国の言葉や文化に触れる機会が増える」については30～39歳(62.4%)、40～49歳(47.7%)が全体より高くなっている。また「まちが国際的な雰囲気になる」については30～39歳(35.3%)、50～59歳(31.9%)、「外国人の知人・友人が増える」については30～39歳(25.9%)、40～49歳(22.7%)が全体より高くなっている。

近所に外国人が住むことの良さ 近所に外国人が住むことについての考え別

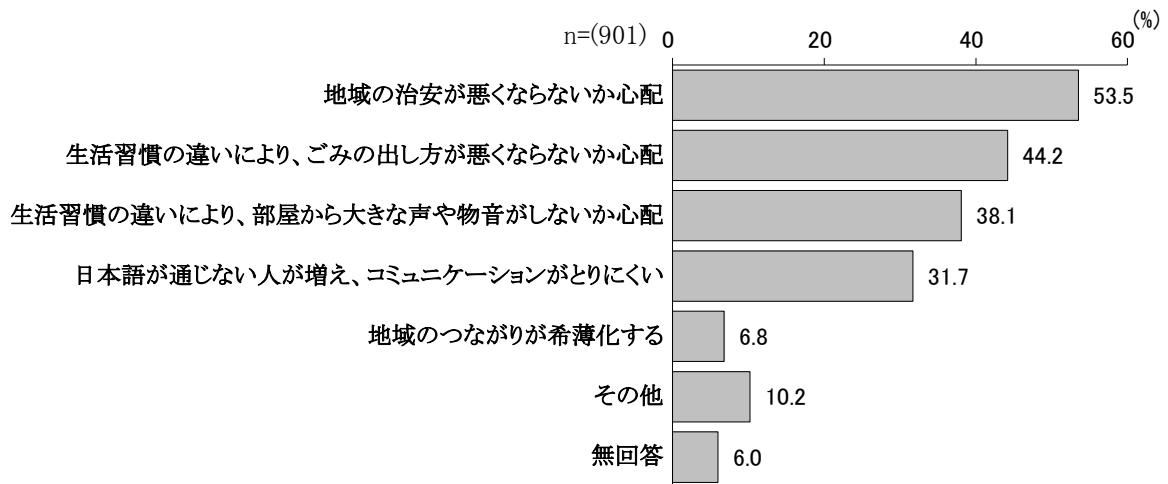


「その他」、「無回答」は非表示

近所に外国人が住むことについての考え別にみると、いずれの選択肢においても、『肯定的』な回答をした人の割合は、全体の割合を上回っている。

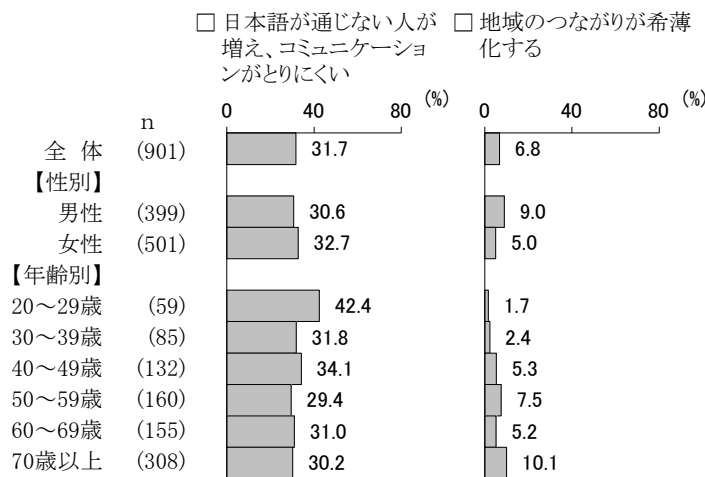
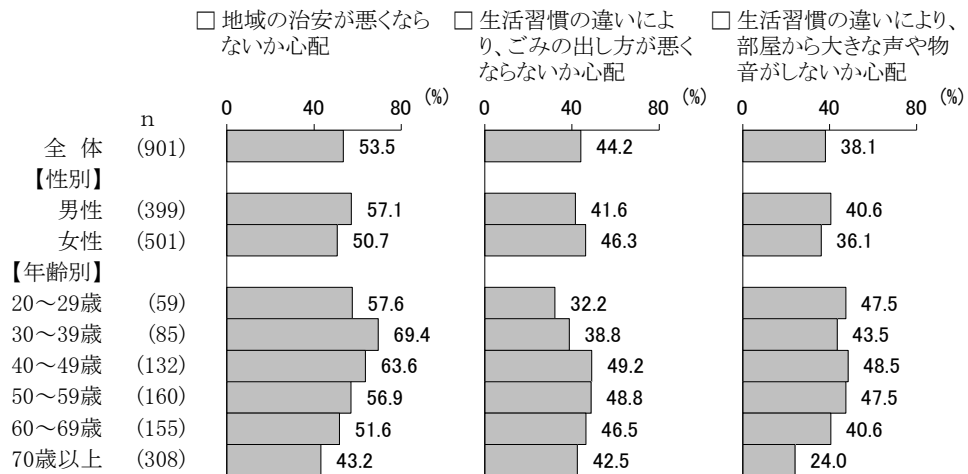
(3) 外国人が多くいることで心配なこと

問7 外国人が他市より多くいることで、心配に思うことはどんなことですか。(〇はいくつでも)



外国人が多くいることで心配なことでは、「地域の治安が悪くならないか心配」が 53.5%で最も多く、以下、「生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配」(44.2%)、「生活習慣の違いにより、部屋から大きな声や物音がしないか心配」(38.1%)、「日本語が通じない人が増え、コミュニケーションがとりにくい」(31.7%)となっている。

外国人が多くいることで心配なこと 性・年齢別

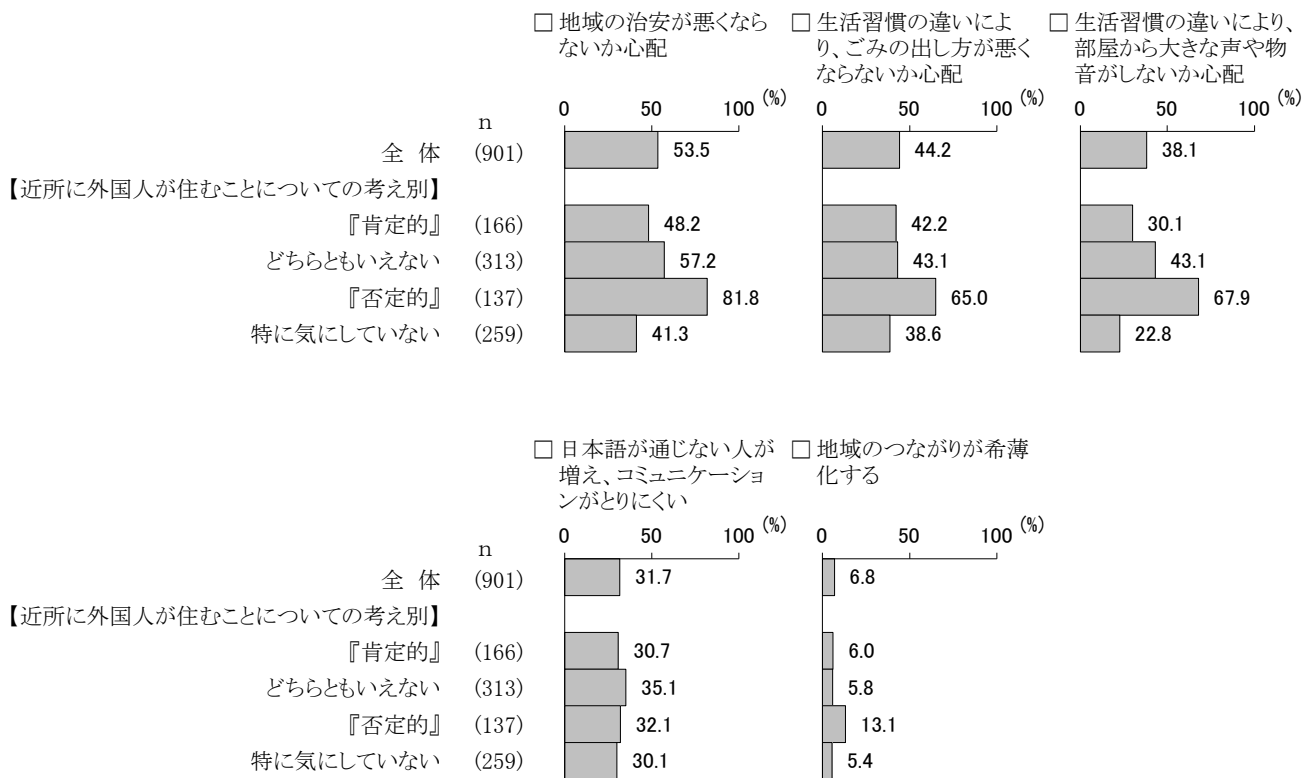


「その他」、「無回答」は非表示

性別にみると、「地域の治安が悪くならないか心配」については男性(57.1%)が女性(50.7%)より6.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「地域の治安が悪くならないか心配」については30～39歳(69.4%)、40～49歳(63.6%)が全体より高くなっている。また、「生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配」については40～49歳(49.2%)、「生活習慣の違いにより、部屋から大きな声や物音がしないか心配」については40～49歳(48.5%)、20～29歳、50～59歳(ともに47.5%)、30～39歳(43.5%)、「日本語が通じない人が増え、コミュニケーションがとりにくい」については20～29歳(42.4%)が全体より高くなっている。

外国人が多くいることで心配なこと 近所に外国人が住むことについての考え別

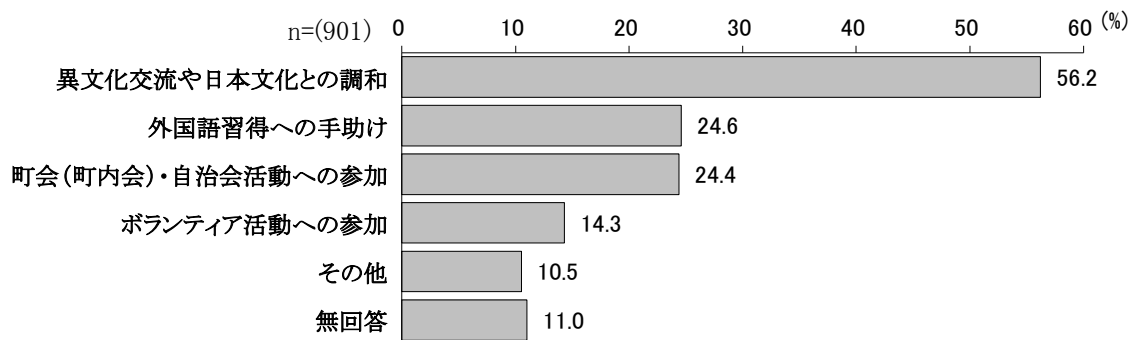


「その他」、「無回答」は非表示

近所に外国人が住むことについての考え別にみると、「日本語が通じない人が増え、コミュニケーションがとりにくい」を除き、『否定的』な回答をした人は、全体の割合を上回っている。

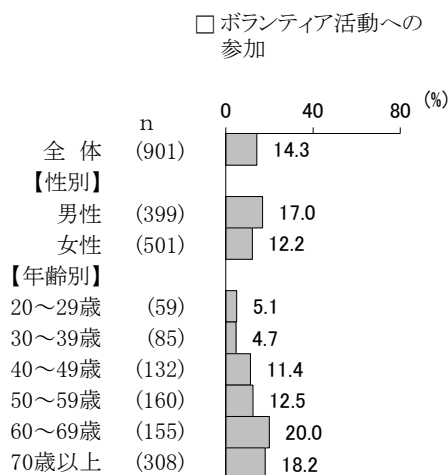
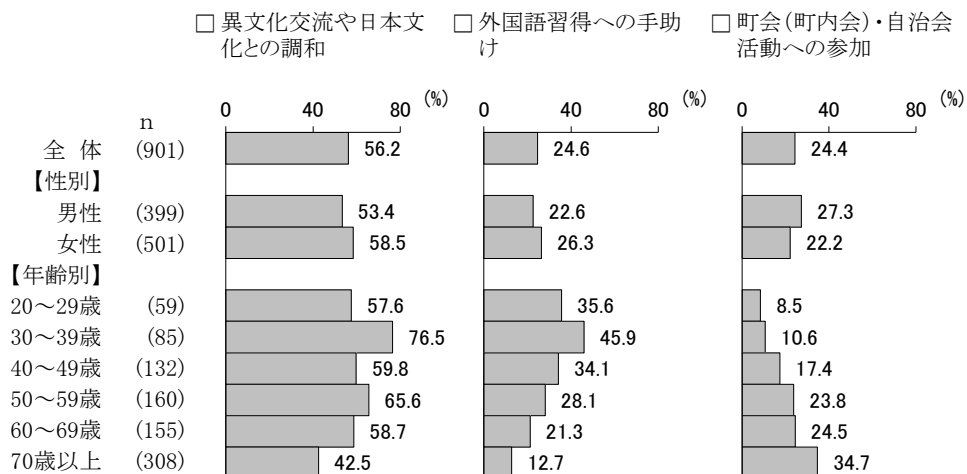
(4) 外国人に期待すること

問8 あなたがまわりの外国人に期待することはどんなことですか。(〇はいくつでも)



外国人に期待することでは、「異文化交流や日本文化との調和」が56.2%で最も多く、以下、「外国語習得への手助け」(24.6%)、「町会(町内会)・自治会活動への参加」(24.4%)、「ボランティア活動への参加」(14.3%)となっている。

外国人に期待すること 性・年齢別



「その他」、「無回答」は非表示

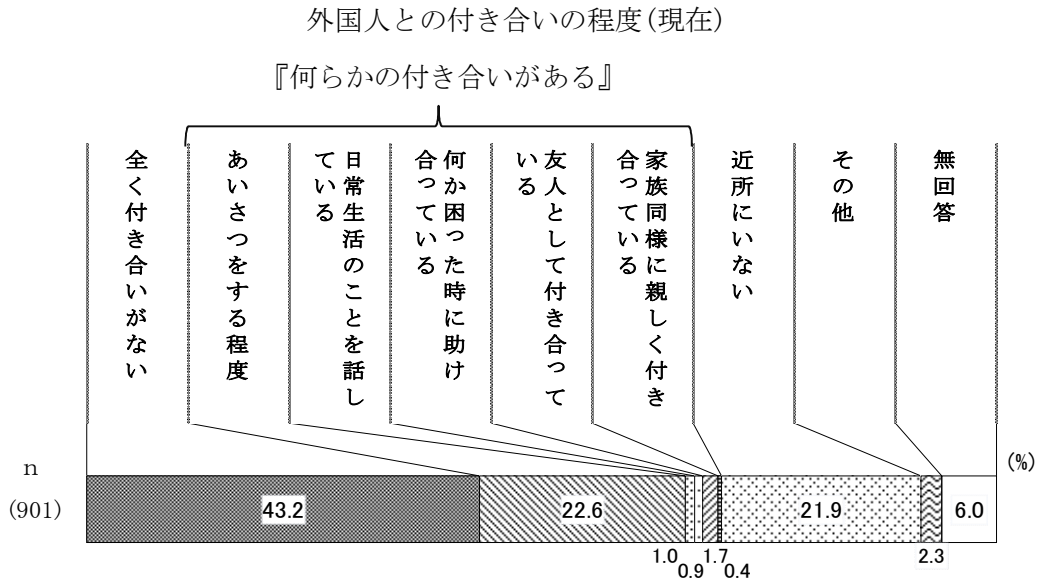
性別にみると、「異文化交流や日本文化との調和」については女性(58.5%)が男性(53.4%)より5.1ポイント高くなっている。一方、「町会(町内会)・自治会活動への参加」については男性(27.3%)が女性(22.2%)より5.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「異文化交流や日本文化との調和」については30~39歳(76.5%)、50~59歳(65.6%)が全体より高くなっている。また、「外国語習得への手助け」については30~39歳(45.9%)、20~29歳(35.6%)、40~49歳(34.1%)、「町会(町内会)・自治会活動への参加」については70歳以上(34.7%)、「ボランティア活動への参加」については60~69歳(20.0%)が全体より高くなっている。

3 日常生活

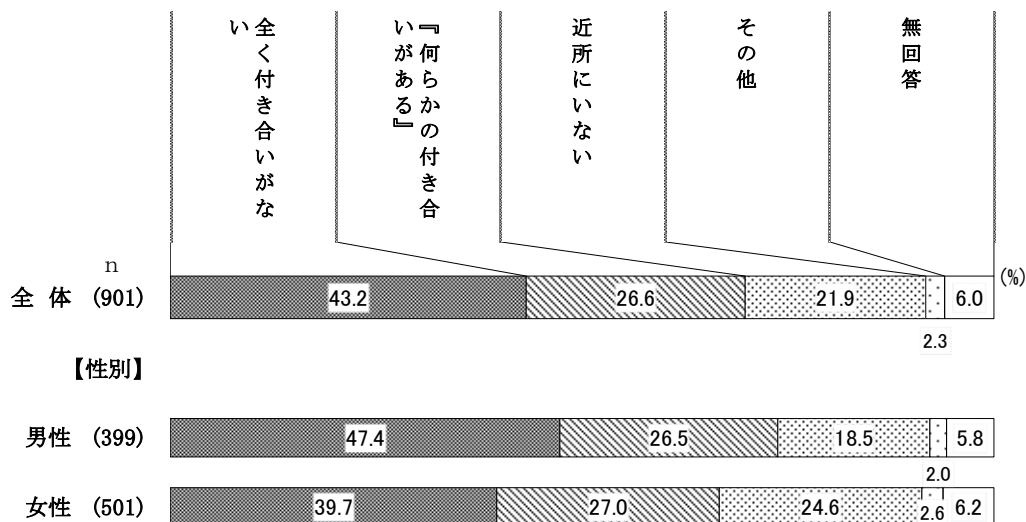
(1) 外国人との付き合いの程度

問9 あなたは現在、近所の外国人とどんな付き合いがありますか。また、今後どのように接していきたいですか。(〇はそれぞれ一つ)



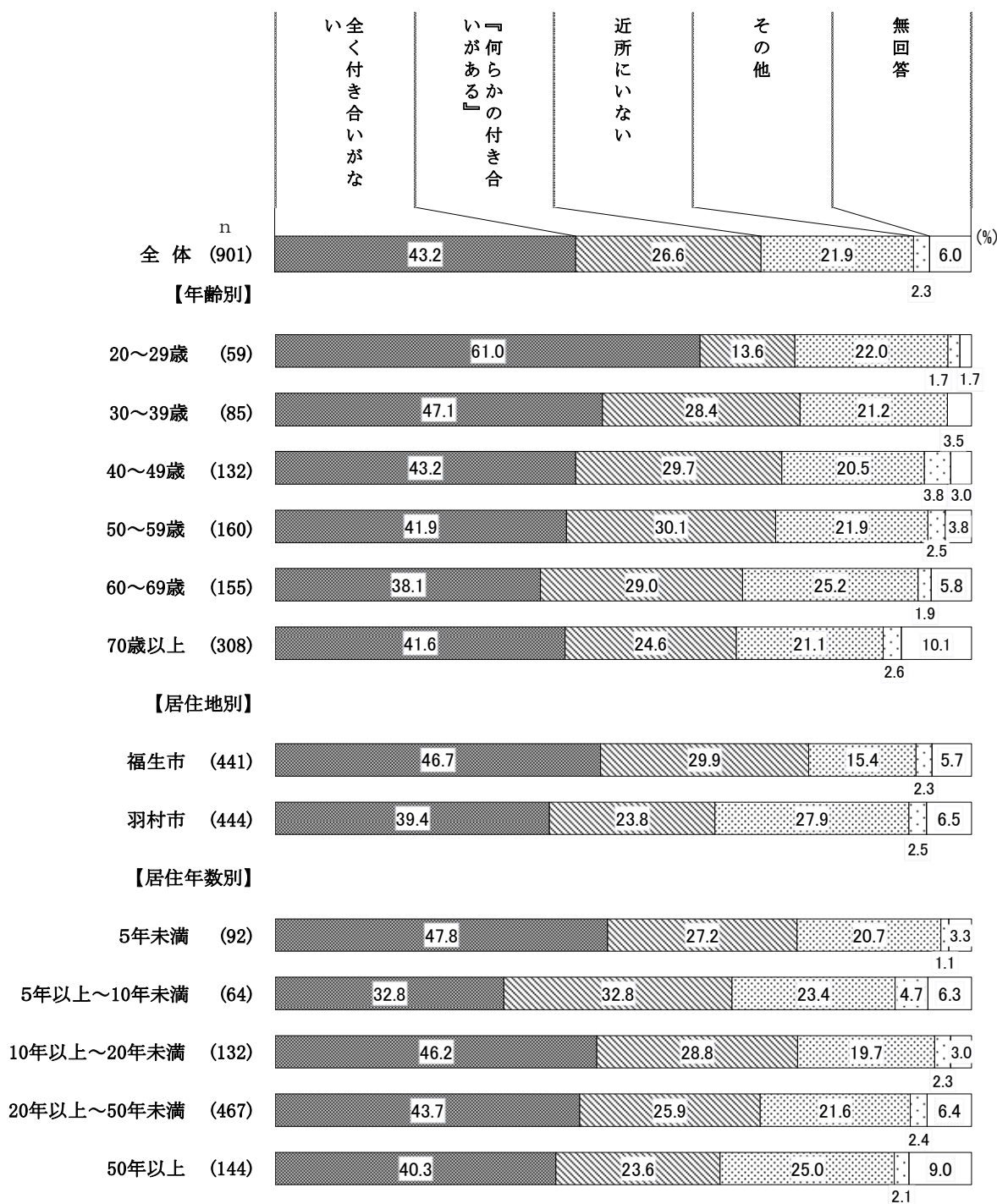
外国人との付き合いの程度（現在）では、「全く付き合いがない」が43.2%で最も多かった。一方、「挨拶をする程度」（22.6%）、「日常生活のことを話している」（1.0%）、「何か困った時に助け合っている」（0.9%）、「友人として付き合い合っている」（1.7%）、「家族同様に親しく付き合い合っている」（0.4%）を合わせた『何らかの付き合いがある』は26.6%となっている。

外国人との付き合いの程度(現在) 性別



性別でみると、「全く付き合いがない」については男性(47.4%)が女性(39.7%)より7.7ポイント高くなっている。一方、「近所にいない」については女性(24.6%)が男性(18.5%)より6.1ポイント高くなっている。

外国人との付き合いの程度(現在) 年齢・居住地・現在の市での居住期間別

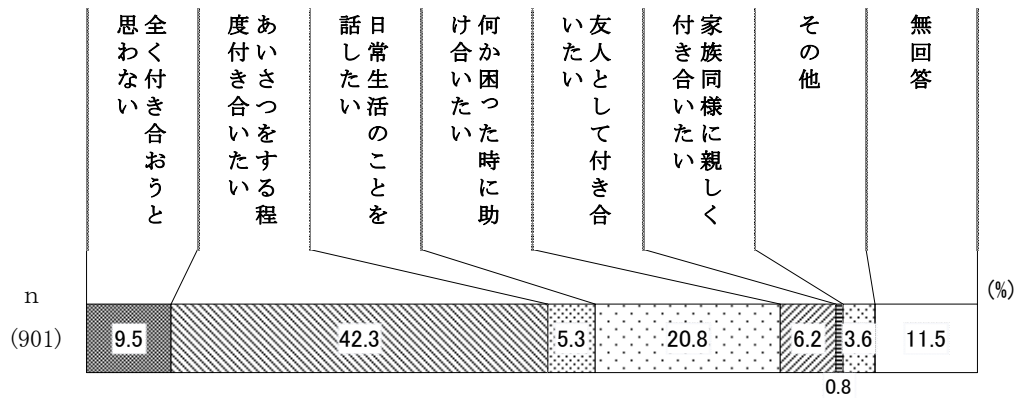


年齢別にみると、「まったく付き合いがない」については20～29歳(61.0%)が全体より高くなっている。

居住地別にみると、「全く付き合いがない」については福生市(46.7%)が羽村市(39.4%)より7.3ポイント高くなっている。また、『何らかの付き合いがある』については福生市(29.9%)が羽村市(23.8%)より6.1ポイント高くなっている。一方、「近所にいない」については羽村市(27.9%)が福生市(15.4%)より12.5ポイント高くなっている。

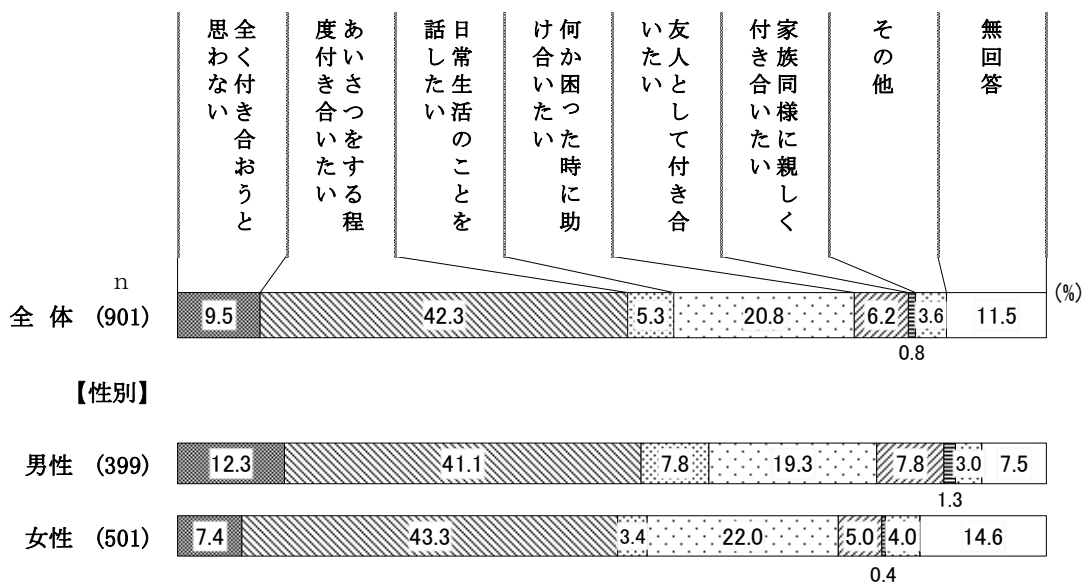
現在の市での居住期間別にみると、『何らかの付き合いがある』人については5年以上～10年未満(32.8%)が全体より高くなっている。

外国人との付き合いの程度(今後)



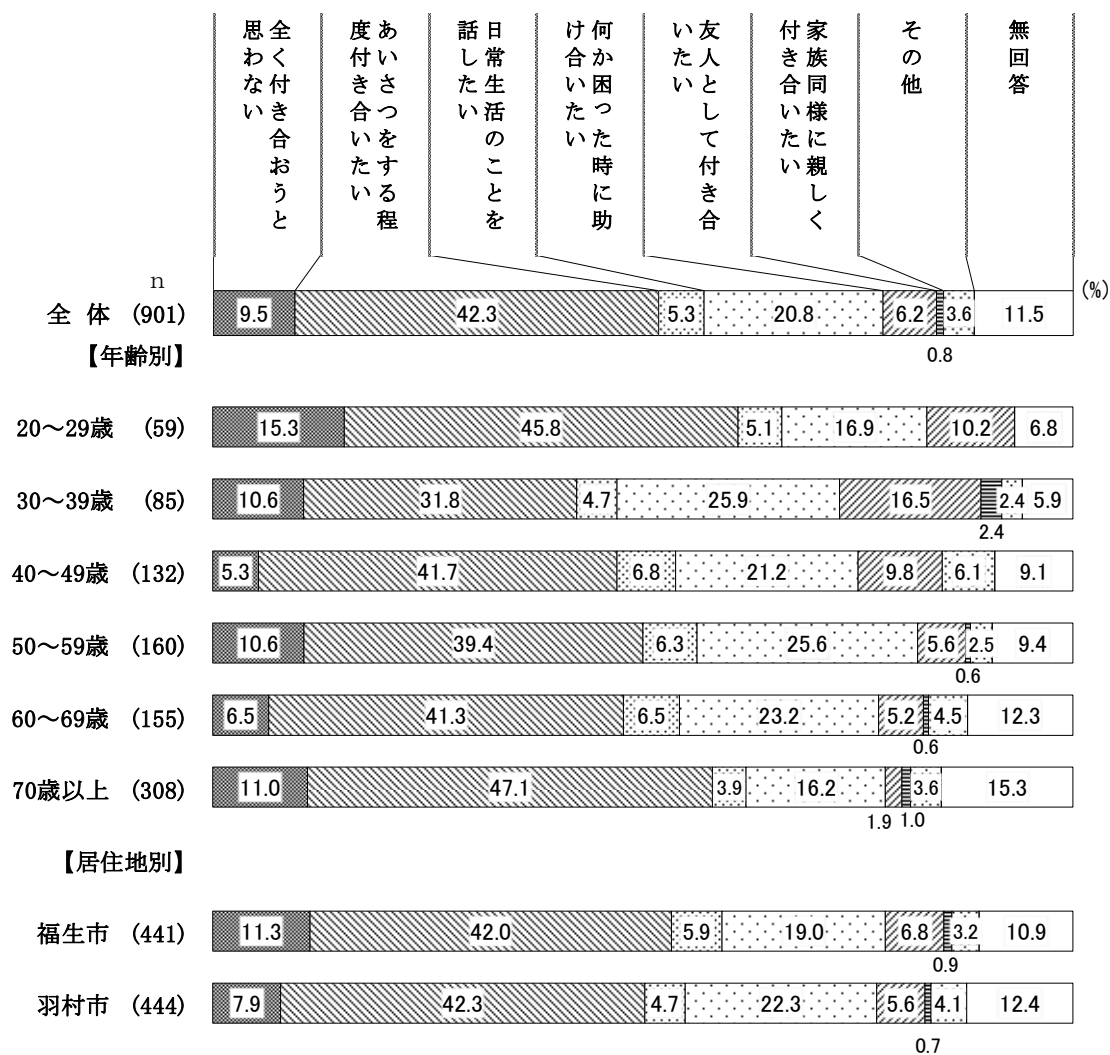
外国人との付き合いの程度（今後）では、「あいさつをする程度付き合いたい」が42.3%で最も多く、以下、「何か困った時に助け合いたい」（20.8%）、「全く付き合いおもうと思わない」（9.5%）となっている。

外国人との付き合いの程度(今後) 性別



性別にみると、男女の間に大きな差は見られなかった。

外国人との付き合いの程度(今後) 年齢・居住地別

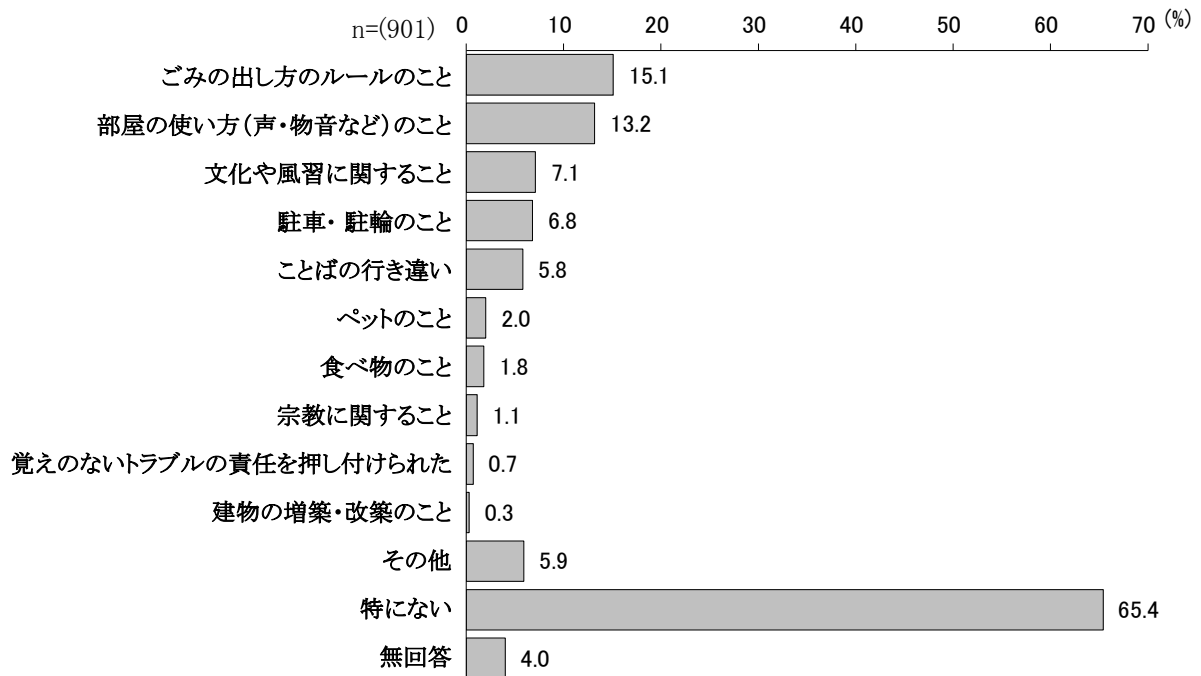


年齢別にみると、「まったく付き合いおもうと思わない」については 20～29 歳(15.3%)が全体より高くなっている。また、「何か困ったときに助け合いたい」については 30～39 歳(25.9%)、「友人として付き合いきたい」については 30～39 歳(16.5%)が全体より高くなっている。

居住地別にみると、両市に大きな差は見られなかった。

(2) 外国人とのトラブルの経験

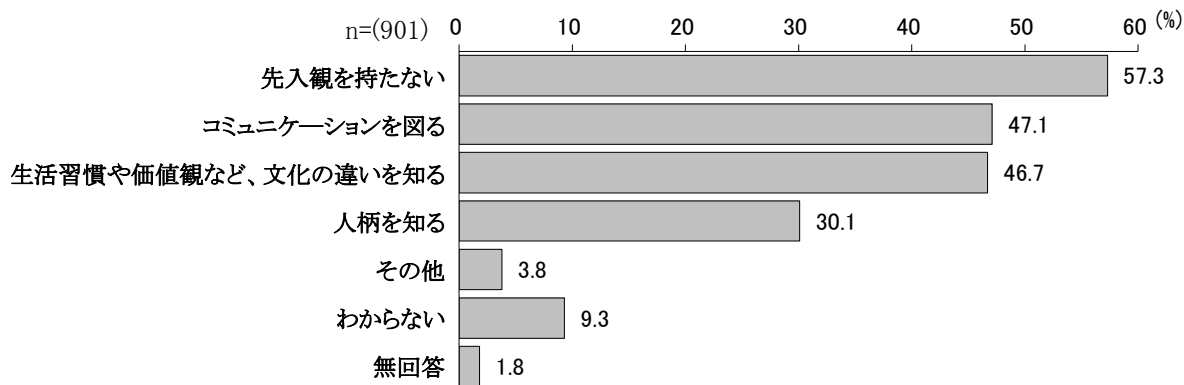
問10 あなたは今までに、近所の外国人との間で次のようなトラブルの経験（または困ったこと）はありますか。（〇はいくつでも）



外国人とのトラブルの経験では、「特にない」が65.4%で最も多く、以下、具体的な選択肢の中では、「ごみの出し方のルールのこと」(15.1%)が最も高く、以下、「部屋の使い方(声・物音など)のこと」(13.2%)、「文化や風習に関すること」(7.1%)、「駐車・駐輪のこと」(6.8%)となっている。

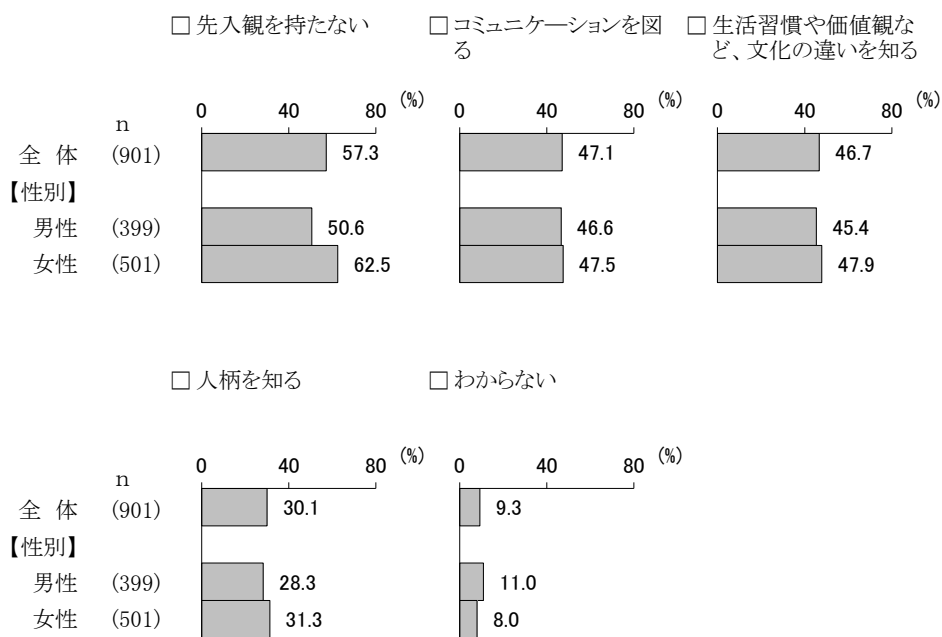
(3) 外国人と生活していくために大切だと思うこと

問11 あなた自身が、同じ地域で外国人と生活していくために大切なことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)



外国人と生活していくために大切だと思うことでは、「先入観を持たない」が57.3%で最も多く、以下、「コミュニケーションを図る」(47.1%)、「生活習慣や価値観など、文化の違いを知る」(46.7%)、「人柄を知る」(30.1%)となっている。

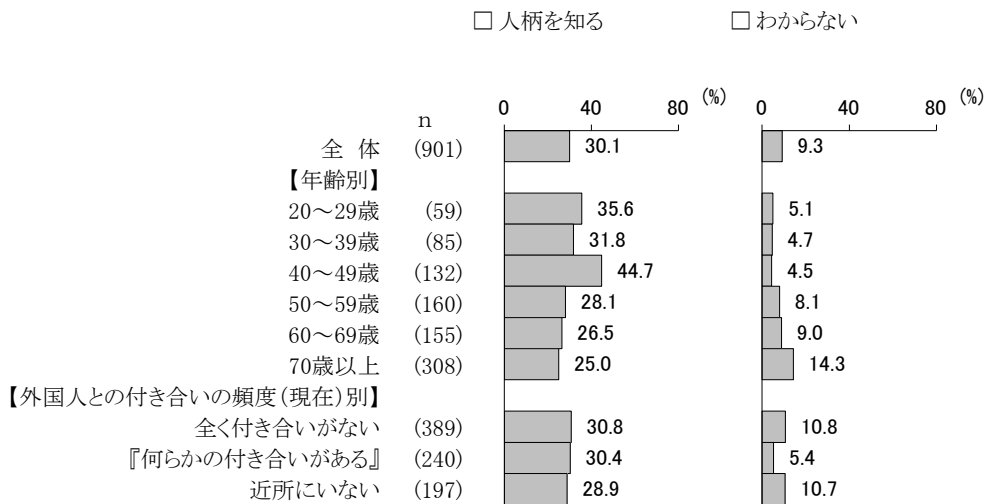
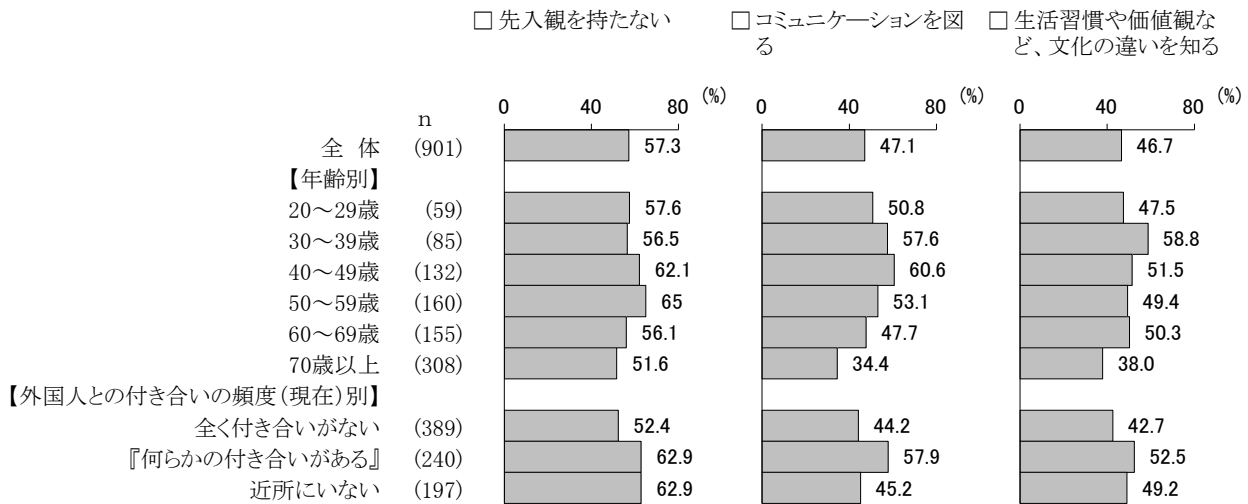
外国人と生活していくために大切だと思うこと 性別



「その他」、「無回答」は非表示

性別にみると、「先入観を持たない」については女性(62.5%)が男性(50.6%)より 11.9 ポイント高くなっている。

外国人と生活していくために大切だと思うこと 年齢・外国人との付き合いの頻度(現在)別



「その他」、「無回答」は非表示

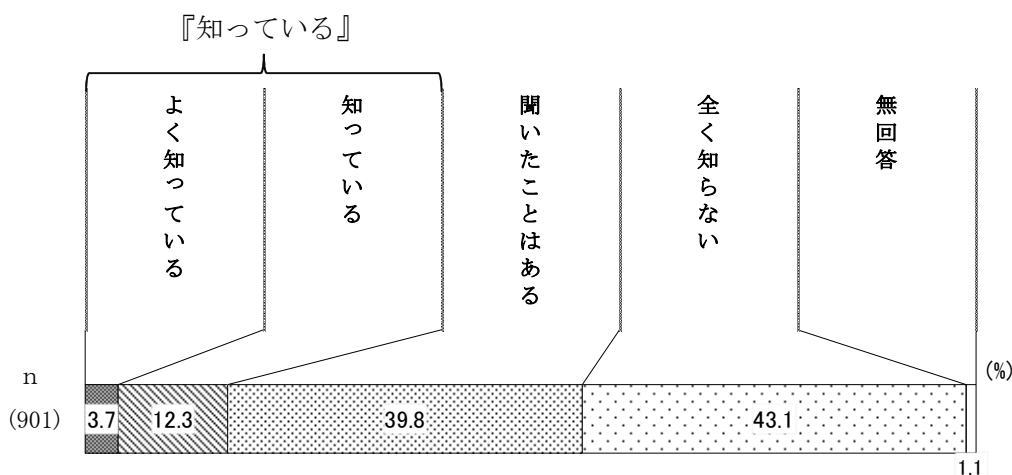
年齢別にみると、「先入観を持たない」については50～59歳(65.0%)が全体より高くなっている。また、「コミュニケーションを図る」については30～39歳(57.6%)、40～49歳(60.6%)、50～59歳(53.1%)、「生活習慣や価値観など、文化の違いを知る」については30～39歳(58.8%)、「人柄を知る」については20～29歳(35.6%)、40～49歳(44.7%)、「わからない」については70歳以上(14.3%)が全体より高くなっている。

外国人との付き合いの頻度(現在)別にみると、「先入観を持たない」については『何らかの付き合いがある』、近所にいない(ともに62.9%)が全体より高くなっている。また、「コミュニケーションを図る」については『何らかの付き合いがある』人(57.9%)、「生活習慣や価値観など、文化の違いを知る」については『何らかの付き合いがある』人(52.5%)が全体より高くなっている。

4 多文化共生のまちづくり

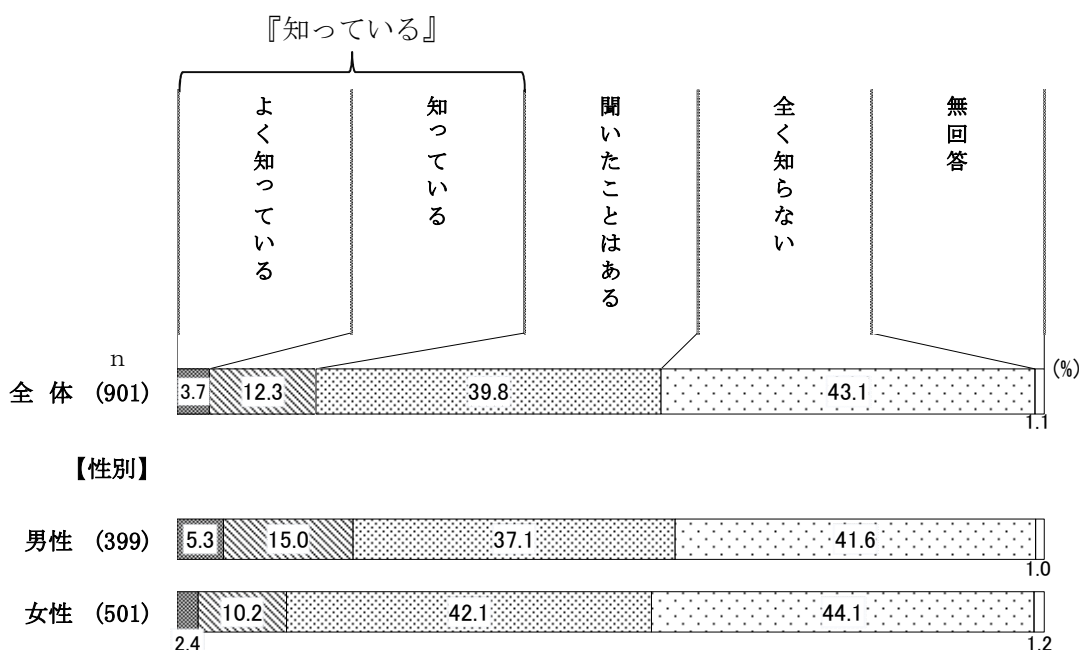
(1) 「多文化共生社会」という言葉の認知度

問12 「多文化共生社会」という言葉があります。この言葉は、「国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的違いを認め、理解し、地域で共に生きていく社会」を言います。あなたは、この言葉を見たり聞いたりしたことがありますか。(〇は一つだけ)



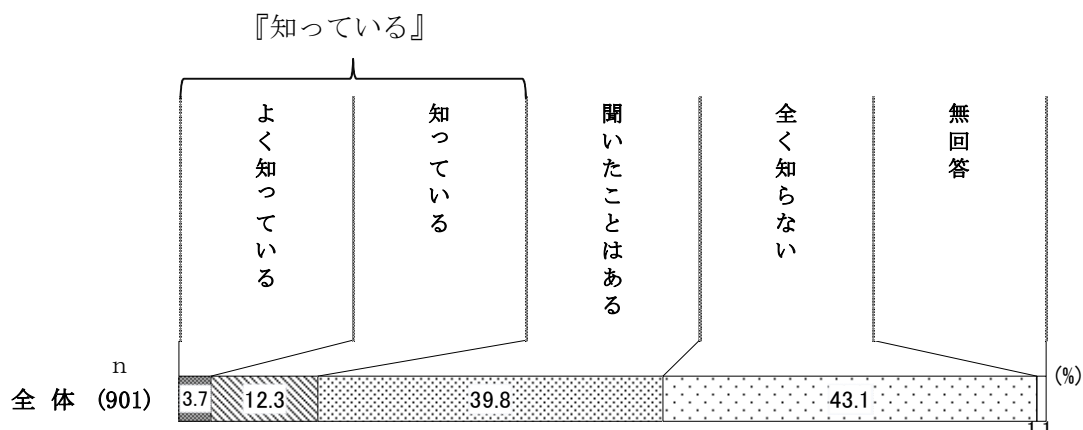
「多文化共生社会」という言葉の認知度では、「全く知らない」が43.1%で最も多く、次いで、「聞いたことはある」(39.8%)となっている、一方「知っている」(12.3%)と「よく知っている」(3.7%)を合わせた『知っている』は16.0%であった。

「多文化共生社会」という言葉の認知度 性別

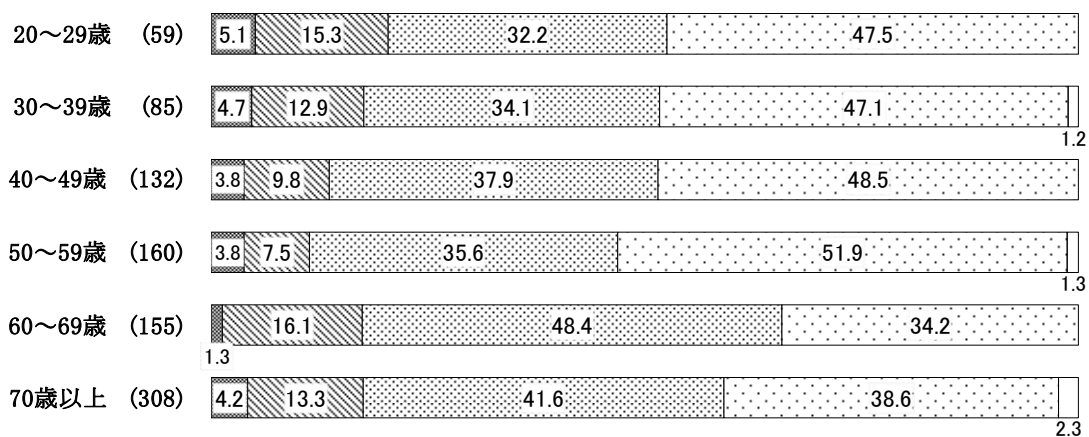


性別にみると、『知っている』については男性(20.3%)が女性(12.6%)より7.7ポイント高くなっている。一方、「聞いたことはある」については女性(42.1%)が男性(37.1%)より5.0ポイント高くなっている。

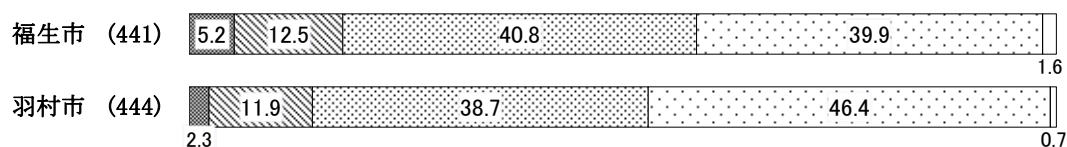
「多文化共生社会」という言葉の認知度 年齢・居住地別



【年齢別】



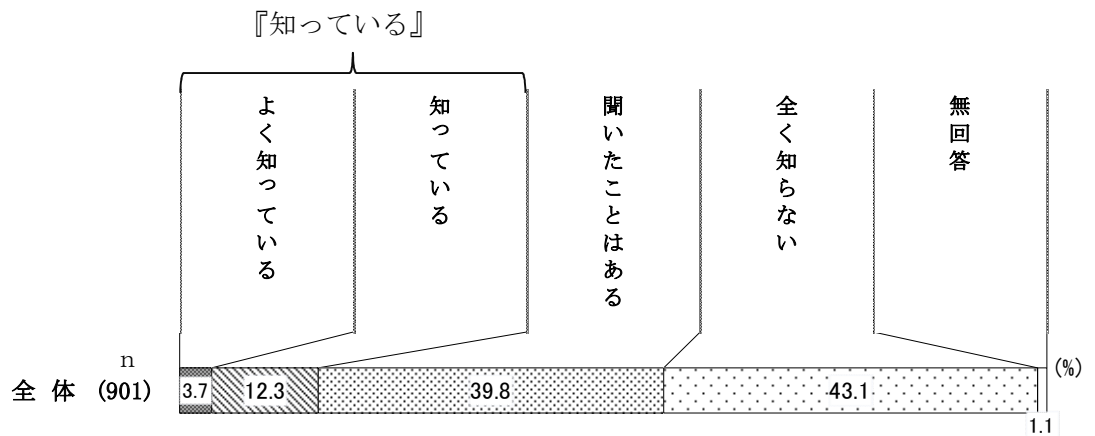
【居住地別】



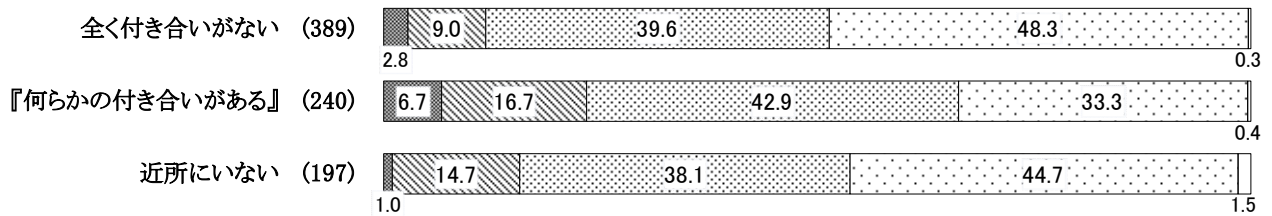
年齢別にみると、「聞いたことはある」については60～69歳(48.4%)が全体より高くなっている。また、「全く知らない」については50～59歳(51.9%)、40～49歳(48.5%)が全体より高くなっている。

居住地別にみると、「全く知らない」については羽村市(46.4%)が福生市(39.9%)より6.5ポイント高くなっている。

「多文化共生社会」という言葉の認知度 外国人との付き合いの頻度(現在)別



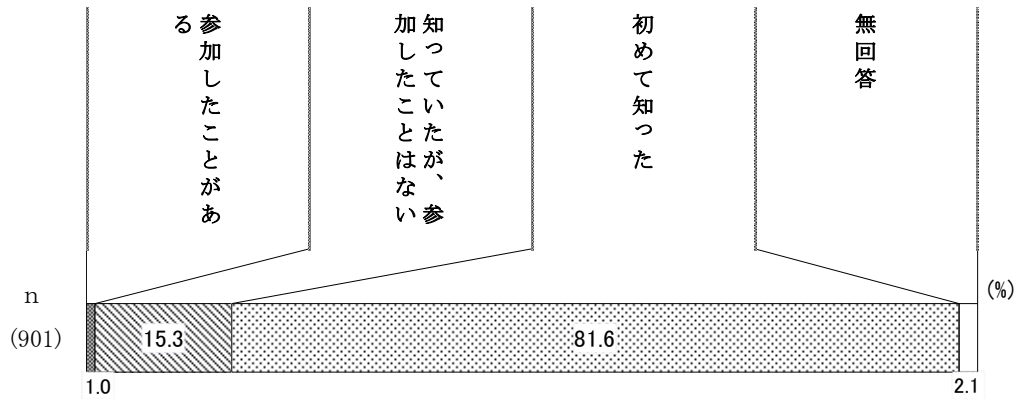
【外国人との付き合いの頻度(現在)別】



外国人との付き合いの頻度(現在)別にみると、『知っている』については『何らかの付き合いがある』人(23.4%)が全体より高くなっている。また、「全く知らない」については全く付き合いがない人(48.3%)が全体より高くなっている。

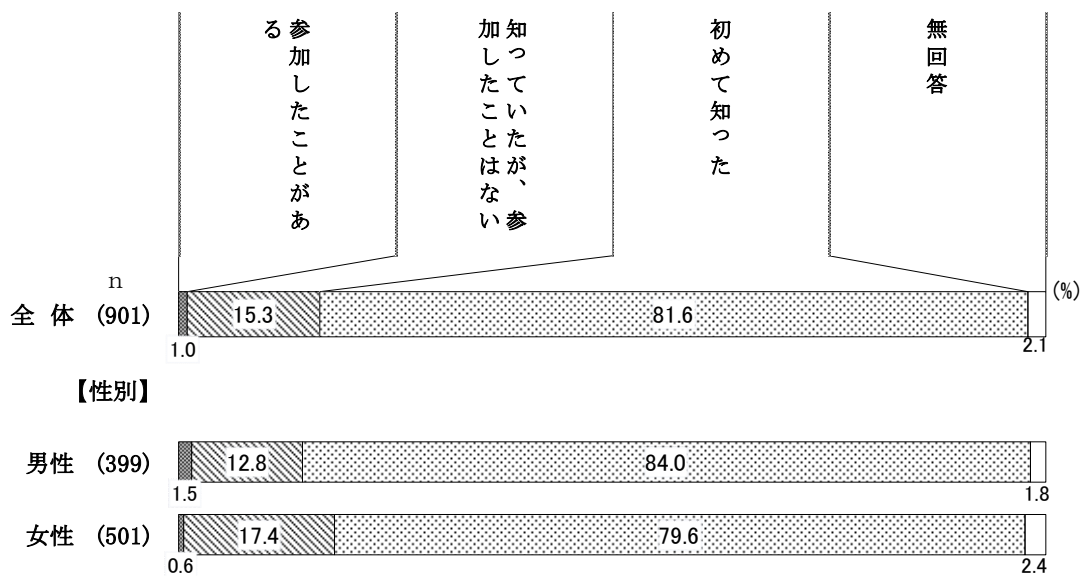
(2) 多文化共生を理解促進するための事業の認知度

問13 市では多文化共生に関する講座など、日本人と外国人が交流し、多文化共生を理解促進するための事業を実施しています。あなたは、それらの事業を知っていましたか。(○は一つだけ)



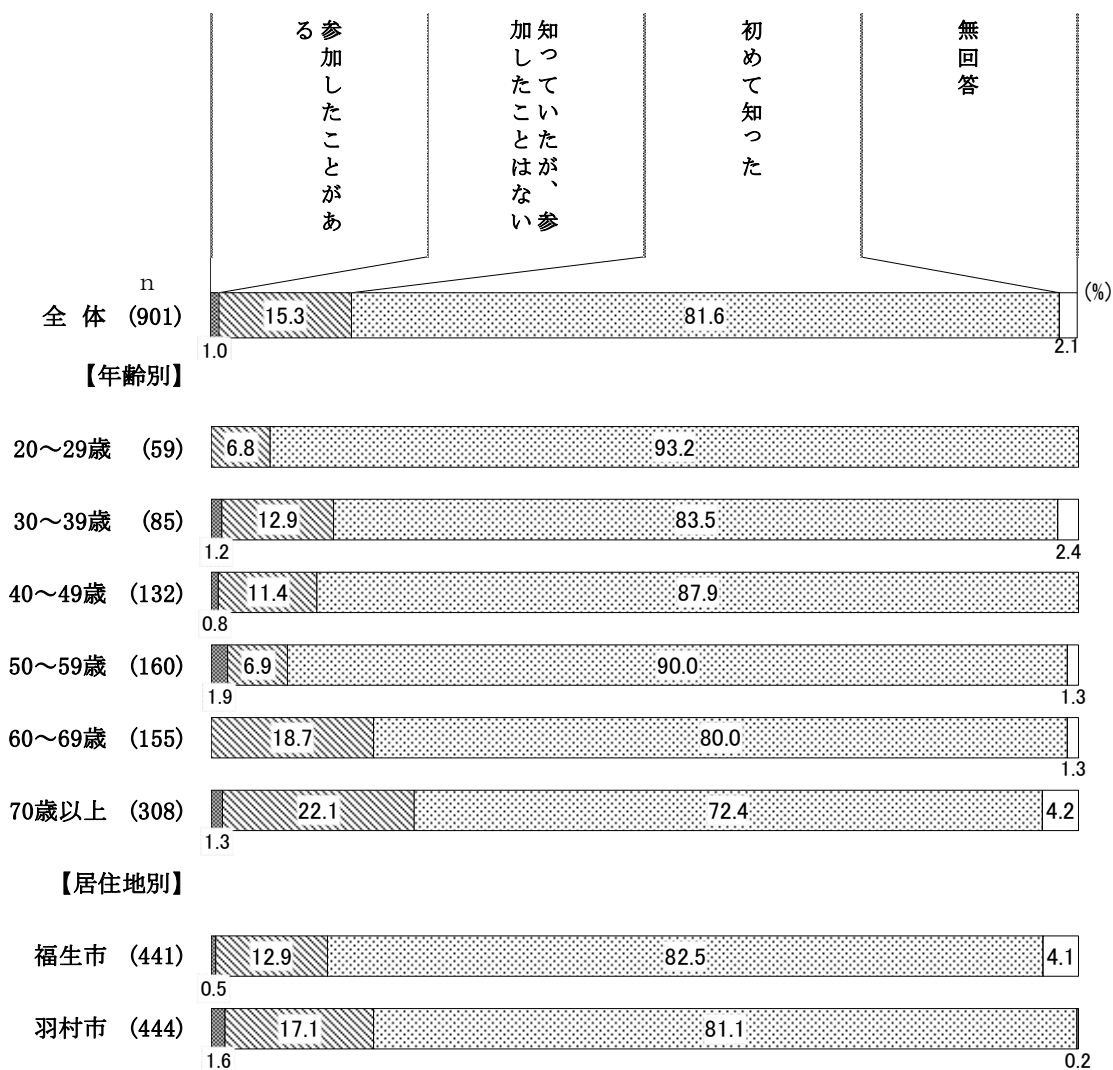
多文化共生を理解促進するための事業の認知度では、「初めて知った」が81.6%で最も多く、以下、「知っていたが、参加したことはない」(15.3%)、「参加したことがある」(1.0%)となっている。

多文化共生を理解促進するための事業の認知度 性別



性別にみると、男女の間に大きな差は見られなかった。

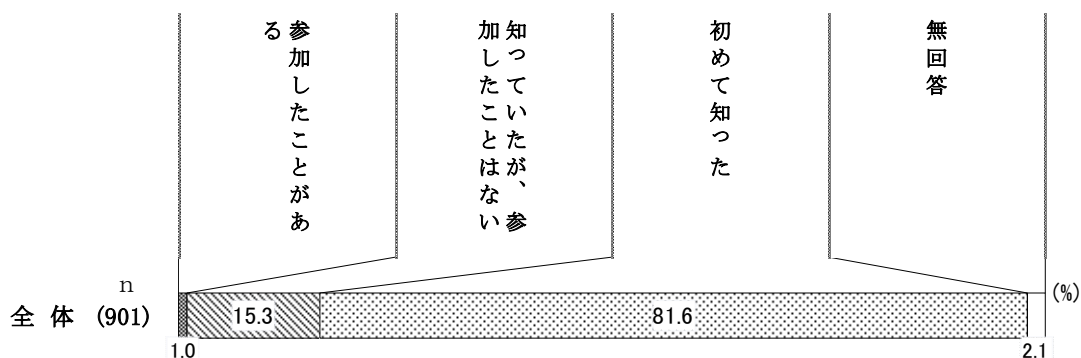
多文化共生を理解促進するための事業の認知度 年齢・居住地別



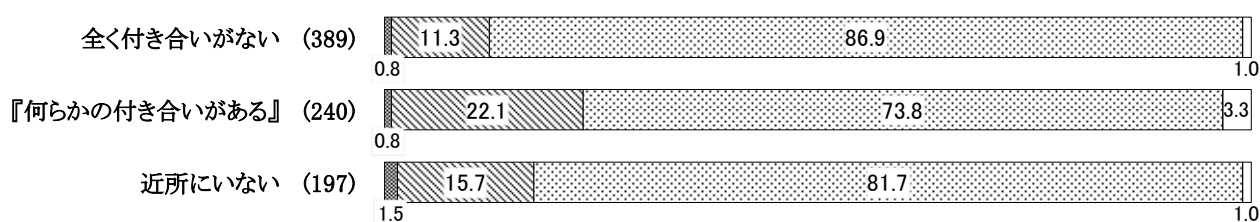
年齢別にみると、「知っていたが、参加したことはない」については70歳以上(22.1%)が全体より高くなっている。また、「初めて知った」については20～29歳(93.2%)、50～59歳(90.0%)、40～49歳(87.9%)が全体より高くなっている。

居住地別にみると、両市に大きな差は見られなかった。

多文化共生を理解促進するための事業の認知度 外国人との付き合いの頻度(現在)別



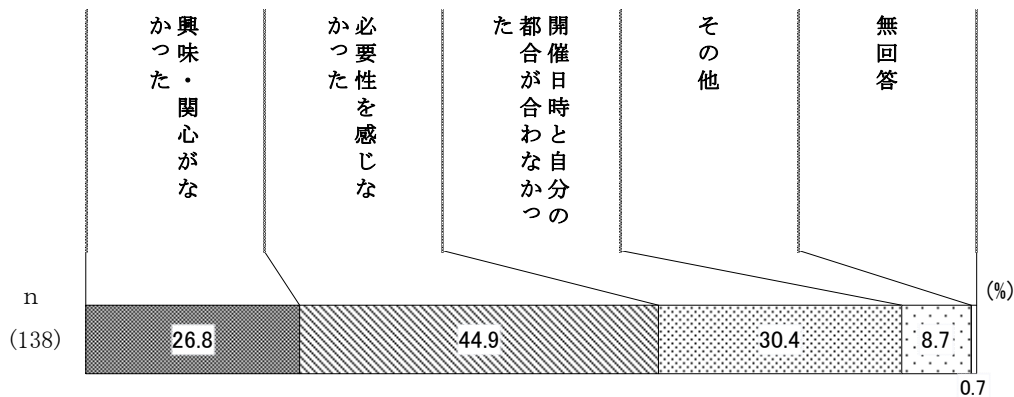
【外国人との付き合いの頻度(現在)別】



外国人との付き合いの頻度(現在)別にみると、「知っていたが、参加したことはない」については『何らかの付き合いがある』人(22.1%)が全体より高くなっている。また、「初めて知った」については全く付き合いがない人(86.9%)が全体より高くなっている。

(3) 多文化共生を理解促進するための事業に参加しなかった理由

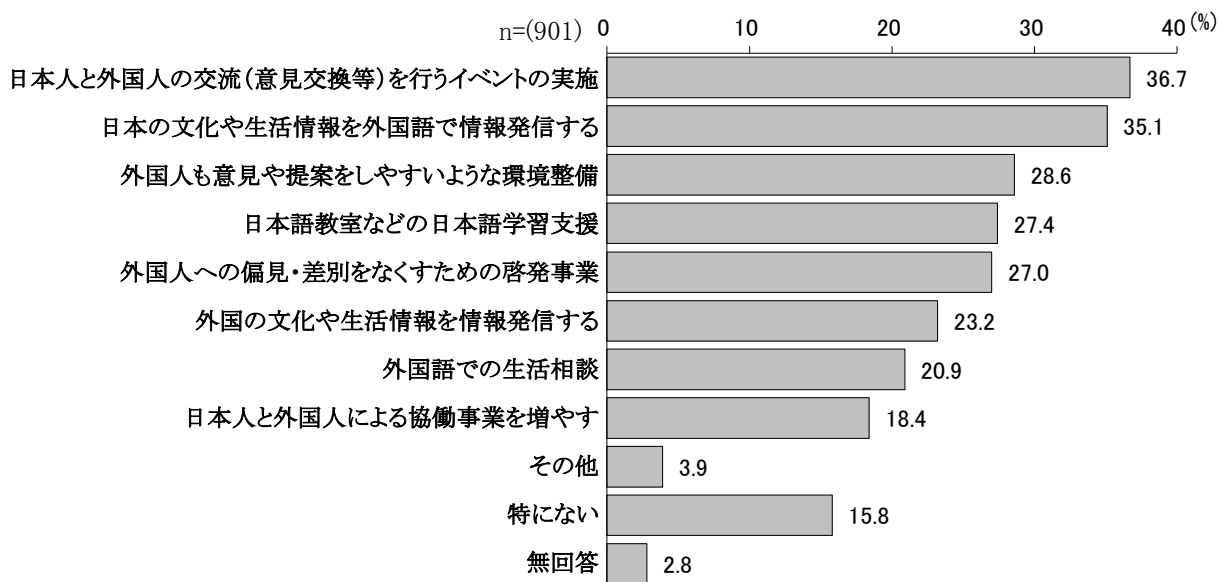
(問13で、「2 知っていたが、参加したことはない」とお答えの方に)
 問13-1 参加しなかった理由を教えてください。(〇はいくつでも)



参加しなかった理由では、「必要性を感じなかった」が44.9%で最も多く、以下、「開催日時と自分の都合が合わなかった」(30.4%)、「興味・関心がなかった」(26.8%)、「その他」(8.7%)となっている。

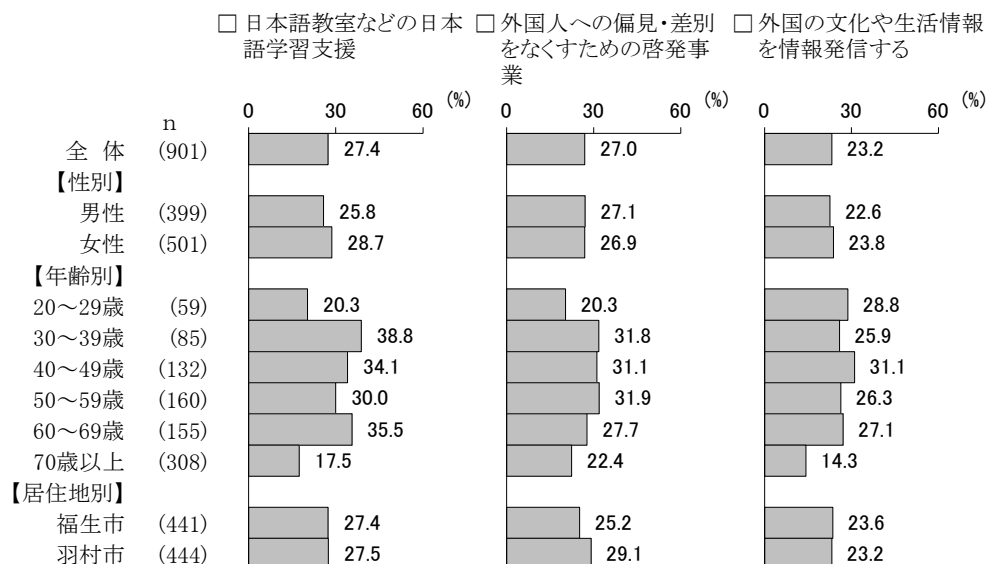
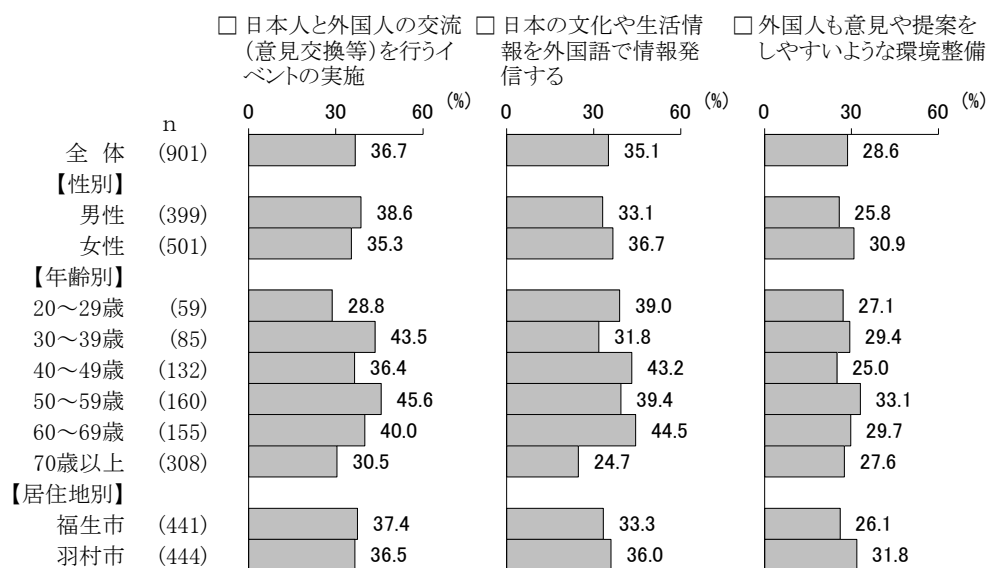
(4) 市の取組みとして力を入れるべきだと思うこと

問14 「多文化共生のまちづくり」を進めるために、今後の市の取組みとして、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇はいくつでも)



市の取組みとして力を入れるべきだと思うことでは、「日本人と外国人の交流(意見交換等)を行うイベントの実施」が36.7%で最も多く、以下、「日本の文化や生活情報を外国語で情報発信する」(35.1%)、「外国人も意見や提案をしやすいような環境整備」(28.6%)、「日本語教室などの日本語学習支援」(27.4%)となっている。

市の取組みとして力を入れるべきだと思うこと 性・年齢・居住地別



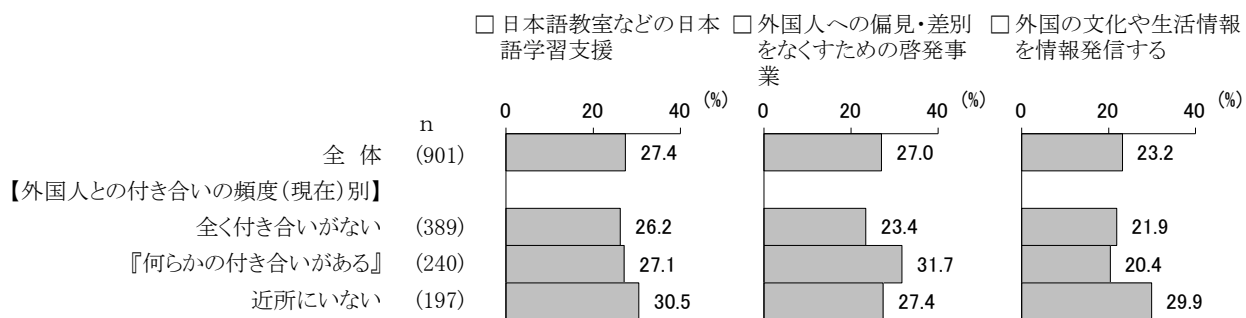
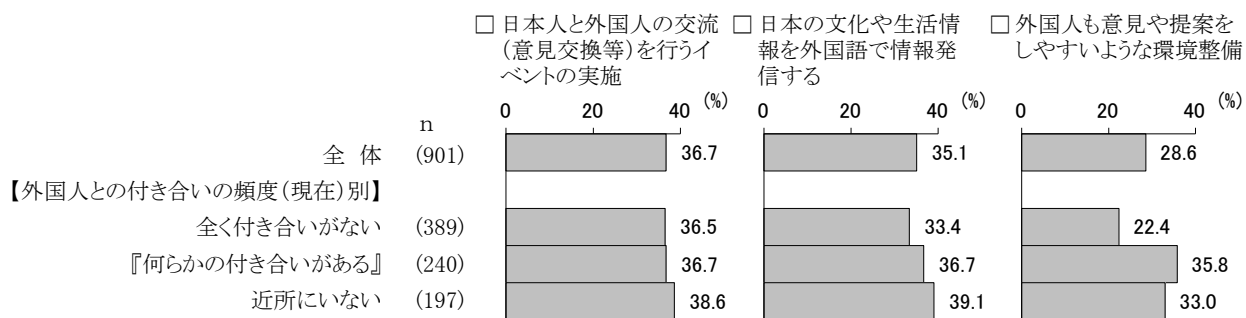
上位6回答のみ抜粋

性別でみると、「外国人も意見や提案をしやすいような環境整備」については女性(30.9%)が男性(25.8%)より5.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「日本人と外国人の交流(意見交換等)を行うイベントの実施」については50~59歳(45.6%)、30~39歳(43.5%)が全体より高くなっている。また「日本の文化や生活情報を外国語で情報発信する」については60~69歳(44.5%)、40~49歳(43.2%)、「日本語教室などの日本語学習支援」については30~39歳(38.8%)、60~69歳(35.5%)、40~49歳(34.1%)、「外国人への偏見・差別をなくすための啓発事業」については50~59歳(31.9%)、「外国の文化や生活情報を発信する」について40~49歳(31.1%)、20~29歳(28.8%)が全体より高くなっている。

居住地別にみると、両市に大きな差は見られなかった。

市の取組みとして力を入れるべきだと思うこと 外国人との付き合いの頻度(現在)別

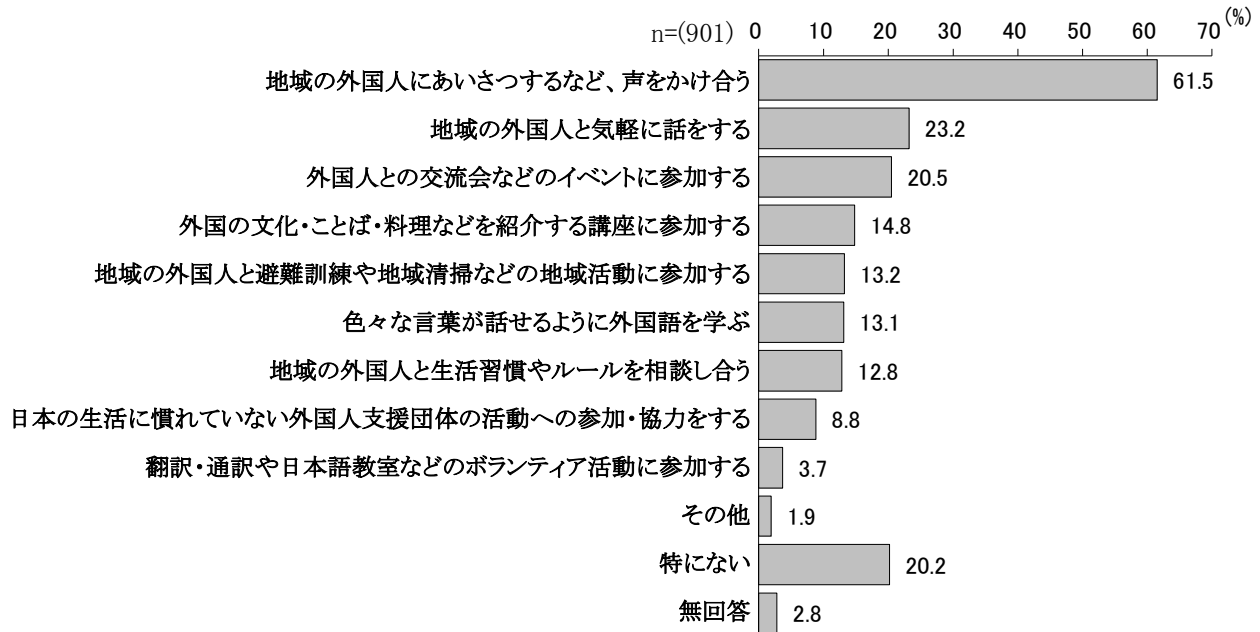


上位6回答のみ抜粋

外国人との付き合いの頻度(現在)別にみると、「外国人も意見や提案をしやすいような環境整備」については『何らかの付き合いがある』人(35.8%)が全体より高くなっている。また、「外国の文化や生活情報を情報発信する」については近所にいない(29.9%)が全体より高くなっている。

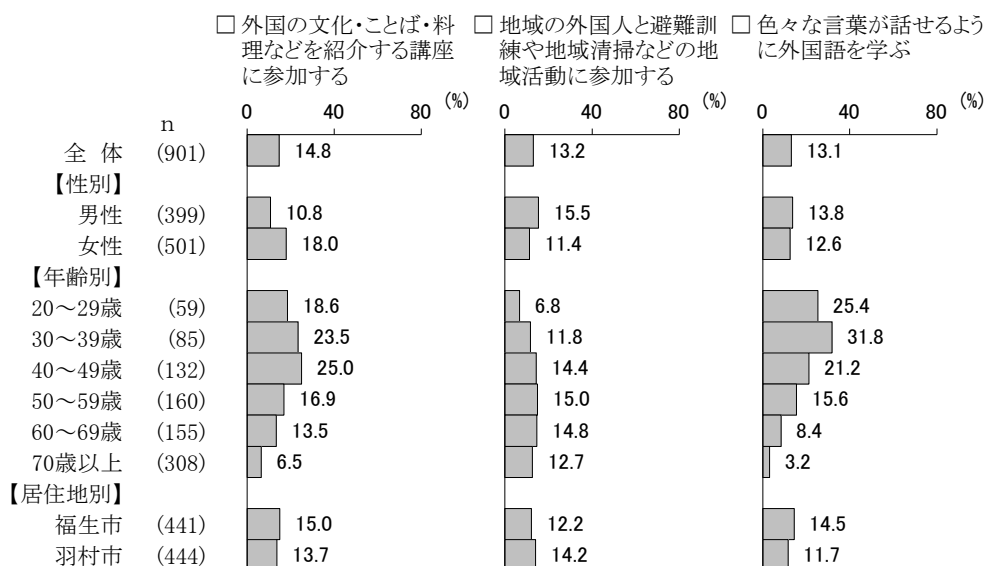
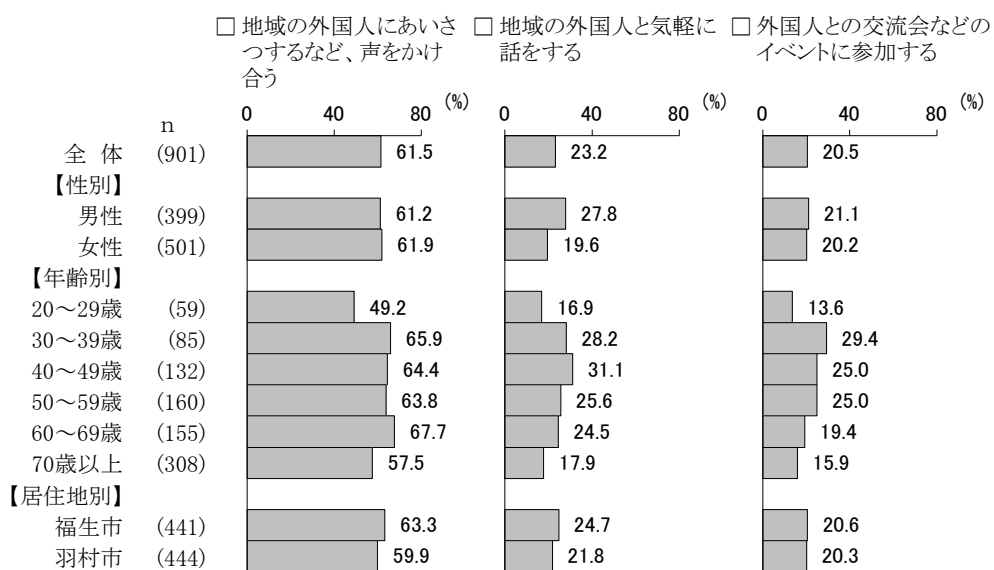
(5) 「多文化共生のまちづくり」のためにできると思うこと

問15 「多文化共生のまちづくり」を進めるために、あなたができると思うことはどんなことですか。(〇はいくつでも)



「多文化共生のまちづくり」のためにできると思うことでは、「地域の外国人にあいさつするなど、声をかけ合う」が61.5%で最も多く、以下、「地域の外国人と気軽に話をする」(23.2%)、「外国人との交流会などのイベントに参加する」(20.5%)となっている。

「多文化共生のまちづくり」のためにできると思うこと 性・年齢・居住地別



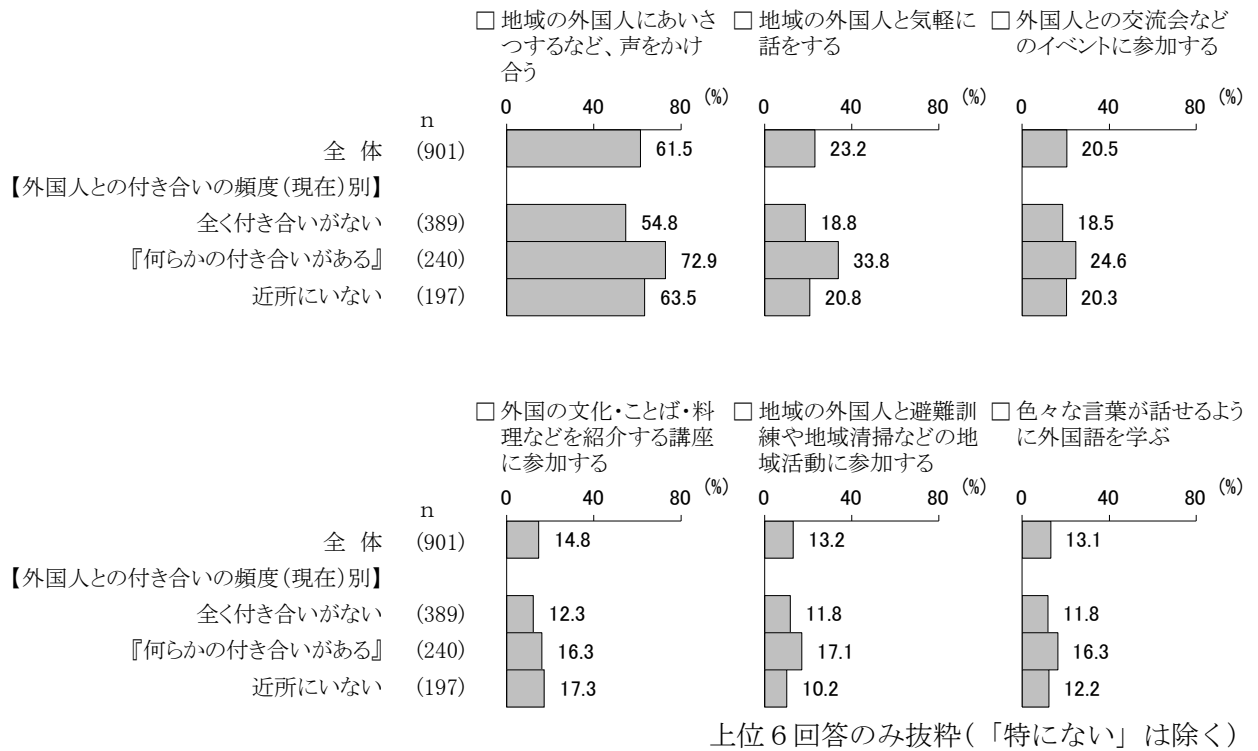
上位6回答のみ抜粋(「特にない」は除く)

性別にみると、「地域の外国人と気軽に話をする」については男性(27.8%)が女性(19.6%)より 8.2ポイント高くなっている。一方、「外国の文化・ことば・料理などを紹介する講座に参加する」については女性(18.0%)が男性(10.8%)より 7.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「地域の外国人にあいさつするなど、声をかけ合う」については60～69歳(67.7%)が全体より高くなっている。また、「地域の外国人と気軽に話をする」については40～49歳(31.1%)、30～39歳(28.2%)、「外国人との交流会などのイベントに参加する」については30～39歳(29.4%)、「外国の文化・ことば・料理などを紹介する講座に参加する」については40～49歳(25.0%)、30～39歳(23.5%)、「色々な言葉が話せるように外国語を学ぶ」については30～39歳(31.8%)、20～29歳(25.4%)、40～49歳(21.2%)が全体より高くなっている。

居住地別にみると、両市に大きな差は見られなかった。

「多文化共生のまちづくり」のためにできると思うこと 外国人との付き合いの頻度(現在)別



外国人との付き合いの頻度(現在)別にみると、「地域の外国人にあいさつするなど、声をかけ合う」については『何らかの付き合いがある』人(72.9%)が全体より高くなっている。また、「地域の外国人と気軽に話をする」については『何らかの付き合いがある』人(33.8%)が全体より高くなっている。

(6) 自由意見

問16 日本人と外国人とが共に認め合い、協力し合いながら、より住みやすいまちにするために、あなたのご意見を自由に書いてください。

多文化共生について意見や要望を自由に記述していただいたところ、328票の様々な意見が寄せられた。1票に複数の意見が記入されている場合があるため、意見数の合計は365件となっている。その中から、抜粋した意見を分野ごとに記載した。なお表現・表記方法については原則として回答を尊重し、そのままの掲載としているが、内容については意見の趣旨を損なわないよう、一部要約したものもある。

分類	件数
交流の場・機会の拡充について	109
日常生活のマナー・ルールについて	69
教育・言語学習について	39
行政・市の対応について	32
情報提供・相談体制について	28
受け入れる側の意識・差別と偏見の解消について	21
防犯・防災対策について	6
本調査のあり方について	5
その他	56
合計	365

主な意見

1. 交流の場・機会の拡充について

- ・地域清掃に参加した時に話し合えると次回に会った時にも笑顔で話し合える。買い物などで会った時も喜ぶみたいだ。
- ・私自身、外国の方ともっと交流したいと考えていますが、どこで交流できるのかわかりません。子ども達にももっと国際交流をして、多様性を高めて欲しいと思います。交流できる場を作ってもらえれば、是非参加したいと思います。
- ・外国の方と友達になれるような交流会があるとよい。多くの方が気軽に行けるものができたら友達になれると思います。自分も外国の方ともっと話したいとは思っていますが、会話できるようなスキルがなく、挨拶ぐらいしかできません。
- ・外国の人には、日本のルールをわかって頂けるよう話し合い、日本の人には、外国人に対する偏見を持たないようにコミュニケーションを図ろうとして接すると、協力し合える環境になると思う。コミュニケーションを取れば、わかり合えると思います。福生・羽村を「多文化共生のまち」としてアピールして欲しいです。

- ・回答欄の項目を見て、会話が片言でも成立するならできる事は増えるのと思いました。子育て中であり、仕事をしているので、語学の勉強に通うのは難しいですが、市内の外国人と外国語を教わりたい市民で楽しく交流しながら、少しずつでも外国語を勉強できる機会があれば良いと思いました。
- ・お互いに相手を知るための場を提供、企画。自治会活動、資源回収、子どもとのイベント等へ積極的に招待。交流会。
- ・言葉から入るとハードルは高い。スポーツ等を通じて交流することが有効なことだと思います。
- ・海外に居住した経験から、現地の人から挨拶や話しかけてもらうことで、その土地に溶け込むことができたので、一般の人ができることは、まずは近所に外国人がいたら、積極的にコミュニケーションを取っていくことが大事だと思う。コミュニケーションを取れば、全て良い方向に向かうと思う。外国人が近所に来た場合、その周辺で頼れる日本人リストみたいなものがあったらいいのかもしれない。
- ・外国の方が教える各国の料理や様々な創作活動を子どもから大人まで気軽に体験できるワークショップなどの場を増やして、自然な交流が持てたらいいです。
- ・日本人と外国人に協業の推進として、福生市内の観光ツアーの実施などいかがでしょうか。外国人を活用した学習支援。

2. 日常生活のマナー・ルールについて

- ・やはり、ルールの徹底が一番重要だと思う。治安だって基本はその延長線上にあるはず。
- ・外国人との交流があまりないが、交流会等のイベントを通して、日本の文化や生活の決まり、ルール等を外国人に知ってもらい、お互いに気持ち良く生活できると良いと思う。例) ゴミ出しのルール、部屋の使い方、普段の買い物。
- ・まず第一に「こちらの言っている事」に対して言う事を聞かない。第二に粗大ゴミを出しても、「いつまでも」片付けず、最後に誰かが片付けることになる。第三に初めての人は「凄く怖い人に見える」「威圧感」がある。第四に何でも音が大きい。外国人だけの集合での一杯会はどうかと思う。朝まで飲んでる。
- ・比較的、外国人が多い中で暮らしていますが、身近には外国人の知り合いの方はいません。日本人の中でも迷惑をかける方などたくさんいますが、ゴミ出しや騒音など外国人となると、やっぱり偏見を持たれてしまいます。お互いに認め合うためには、相手を理解することでトラブルなどの回避ができる気がします。挨拶など簡単なことからでも、きっかけができればお互いを知っていくのかもしれませんが、そういう機会がありません。大きなコミュニティより、町内会単位での小さなコミュニティで、知り合う場をどんどん増やしていくといいのかも。

第2章 日本人住民用調査結果の詳細

- ・福生に住むのであれば決まり事を守って欲しいです。今まで近所に住む方は、子どもさんをはじめ、親も知らない振りをして、ゴミ出し、部屋の周りの片付けなど、だらしない人が多く、優しく言っても聞く耳を持たずで、知らない振りをする人を見かけます。市の方に頼んでも警察に言っても、耳を傾けない人が多くみられます。
- ・外国人のゴミの出し方が酷く、よく仕分けや掃除をしています。日本に住むにあたって、ルールやマナーを伝えて欲しいです。また、近くのアパートでは、多数の自転車が停めてあり、たくさんの人が出入りし、誰が住んでいるのか不明です。挨拶をしたり、声を掛けたいと思っても、あまりに生活マナーが悪いため、引いてしまいます。色々な場で生活ルール、マナーを伝えていくべきだと思います。
- ・日本に住むことにおける最低限な日常的ルールを市内に転入して来る時に、徹底してもらえれば、先入観や偏見を持つことが少なくなると思う。通勤途中にある外国人が多いアパートでは、窓を開けて複数人の外国人が大声でしゃべっていたり、アパートの敷地内にゴミがたくさん落ちていたり、嫌だなと思ってしまうことがある。
- ・日本に住むのだから「郷に入れば郷に従え」をしっかり教えて、我々と同じマナー、ルールをしっかり教える。
- ・団地には、随分外国人が住み始めました。保育園に勤務していますが、とても困る事もあり、ルールが守れない方がいるので、説明するのが大変です。日本に来たらそれなりの文化と規則を守って欲しいと思います。優しく指導していきたいと思います。
- ・住む市町村のルールを守り、そこに住むのならば、馴染むようにして欲しい。自国ではああった、こうだったと日本での違いはわかりますが、日本に住むのなら、この国のルールに沿ってもらいたい。やはり日本語がわからないと不自由でしょう。不法滞在、不法就労、外国人の犯罪が増えているので心配です。

3. 教育・言語学習について

- ・まず、言語を小さい時期から学び、外国人アレルギーを無くすこと。
- ・ルールが書いてあっても読めないことがありそうなので、外国人に日本語の習得をしっかりと頂けるようにした方がいいと思います。日本人が、小学校から主な居住外国人の宗教（習慣や文化の違い）について学んだ方がいいと思います。
- ・他国の方でも保育園や学校等にもう少し馴染めるよう、受け入れる側ももう少し対応した方がいいと思います。子ども達は仲良くできても、保護者同士では少し距離があるようにも感じます。大人や子ども関係なく、接していけたらと思います。

- ・生活習慣や価値観など、文化の違いを知る。外国語を自分でも習得する。
- ・私達の年代で外国人との交流と言われても、少し気が重いと感じます。子どもの頃から教育の場で、外国の先生が多く関わったり、子ども同士の交流の機会を多くすれば、偏見や差別、言葉の壁等がなくなっていくのではと思います。
- ・まず、コミュニケーションが取れるよう、語学（主に会話）が習えるような機会を作って欲しい。多くの人に通える教室（主に日常会話を教える）を公民館等を開いて欲しい。そして、それぞれの国の祭りや行事等のイベントを一緒にやる機会を作ってくれば、少しずつでも気持ちが通うようになるのではないのでしょうか？
- ・交流を行うにしても、コミュニケーションを取るにしても、言語が非常に大きな意味を持つと思いますので、日本語教室（無料）を開くことが重要だと思います。言語を学ぶことは文化を学ぶことでもあり、全てにつながるのだと思います。
- ・言葉・文化の交流事業を増やして欲しい。
- ・せっかく、外国人と接することが多い地域に住んでいるのだから、もっと交流できる機会（イベント等）を増やして欲しい。お互いが外国語、日本語を学べる教室を安く提供して欲しい。

4. 行政、市の対応について

- ・市役所など、公的な場所に外国人と日本人が触れ合えるサロンスペースを作る。いつでも誰でも参加でき、情報交換できれば、自然体の付き合いができるようになるのでは？
- ・日本人からの見方としてもそうですが、外国人の方がもっと住みやすい環境づくりとして、様々な地域イベントや相談しやすい窓口など、引き続き頑張って頂けたらと思います。偏見を持っている方もいるので大変だと思います。いつもありがとうございます。日本人の課題でもありますが、私も多様性を大事にしていきたいです。
- ・転入された外国人に対して、転入手続きをする時に、ゴミの出し方（外国語）のパンフを渡す、他人のゴミ置き場に置かない指導、いろいろな国籍の外国人もいると思われるので、住宅地であることを自覚させる。総合的なパンフレットを渡す。特に自転車の乗り方など含む。スマホ自転車多い（日本人も）。
- ・ゴミの出し方は、細かく分類されているので、外国人には難しいと思います。転入の際に市としてわかりやすい指導が必要だと思います。外国語でのプリントの他、わかりやすい絵とかで表現したプリントも配布して、理解してもらう努力をしてください。外国人の方も私達も共に嫌な思いをしないためによりしくお願いします。

第2章 日本人住民用調査結果の詳細

- ・外国人であるという考え方はなくし、同じ人間という考えで話し、食べ、飲み、大人と子どもとか、男とか女とか区別せずに、ごく普通に付き合う環境をつくり、市役所が積極的に関与して欲しい。
- ・外国人が家を借りる時に、その市の職員が不動産屋と連携して、契約前に市のルール（ゴミ出しなど）を教えるというシステムを作る。また、市役所では、英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語等を話せる職員を雇って欲しい。
- ・行政が外国人に手厚いと、情報が流れて、その国の方達が集まって来てしまうので、あえて不便にしているという話を聞いたことがあります。日本語を話せない両親の元にいる子が学校で困っていても、学校からヘルプを求める場がないことには、さすがに対応して欲しいと思いました。その国のコミュニティができていても多いので、そういう方達と連携していくのが良いかと。
- ・市の取組みなど、どのようにされているのか、私自身、勉強不足で申し訳ありません。わかりやすく情報が入手できれば良いかなと思います。市がどのように外国の方との交流など考えておられるのか、わからないのが現状です。仲良く世界の全ての方々が繋がっていければ良いですね。一部の人が知るのではなく、どうすれば皆さんに伝わるのか。本当に大変かと思いますが、考えて、進めていただければありがたいです。

5. 情報提供・相談体制について

- ・外国人も参加できる事業の情報を数多く発信する。
- ・情報を伝え、不安のない生活を送るには、外国語での発信が必要だと思います。町のお祭り、イベントへの参加の呼び掛けをし、交流のきっかけにする。
- ・羽村・福生に住む人達には、中には国際的な文化が好きで引っ越して来たりする人もいると思う。なので、交流する機会をもっと広告して欲しい！私も交流したいし、外国の文化、外国の人達に興味があるので参加したい！！
- ・日本の生活習慣、ルールをよく知ってもらうことが第一と思う。すでに行っていると思いますが、移住して来た人へパンフレットを渡すことと、発生したトラブルを逐次修正して頂くことをお願いします。
- ・生活環境の中に、もっと外国語表記があってもよいと思う。生活文化が違う外国人には戸惑う状況が多くあるのではないかと。大規模施設だけではなく、小さなお店でも利用できるような環境になれば、おのずと交流も多くなるだろうし、相互理解できる場も増えてくると思う。
- ・居住する外国人には、居住する前に講習等で日本文化や住むためのルールを教える、住居が決まった時に近所等に知らせ、紹介し合う。
- ・外国人に日本の文化を知ってもらうため、日本人が外国の文化を知るため、英語（わかりやすい単

語)等で情報を(生活を)お互いに知るための具体的なカードがあれば、互いを知ることができると思う。

- ・スマホの翻訳アプリの開発(無料アプリ)。言葉の壁を解消する(コミュニケーションを深める)。
- ・日本人同士のご近所付き合いもなくなっている中、外国人に対しては、更に難しいと思います。内心理解していても、それを表に出す機会がなければ、外国人の方は受け入れられていないと感じていると思います。“差別”ではなく、きちんと“区別”すること。「この集合住宅は外国人を受け入れており、定期的にコミュニティ活動をしています」などがあれば、自分の希望に沿った住まいを選ぶことができ、お互いに嫌な思いをしなくて済むと思います。

6. 受け入れる側の意識・差別と偏見の解消について

- ・そもそも日本人同士が協力してない。日本人同士が協力的になれば、外国人にも協力的になる。外国人と言っていることがだめ。
- ・負の先入観を持たない。むしろ外国人の方が明るく、フレンドリーな気がする。日本人、一人一人の閉鎖的な(自分も含めて)考え方を少しだけ心を開いて、住んでくれている、と思えると良い。
- ・まずは日本人が「自分達のルールを守る」、「他人を尊重し、思いやる」という基本的事項を守れるようにすることが大切だと思います。そのため、教育、インフラ、就業支援など、これまで既に実施している事業を確実に進めていくことが、まずは大切だと考えます。
- ・日本人は小さい頃から英語を学んでいるのに、話せないという人が多くいるので、英語の勉強のやり方や外国人に先入観を持たずに接することが大切だと思います。また「話せないから」と逃げるのではなく、ジェスチャーや紙とペン、スマートフォン等を使い、話す努力をすることも大切だと思います。
- ・少子高齢化が進む中で、外国人の居住者が増えることで、まさに活気が生まれると思います。差別や偏見を持たずに接するために、日本人の側が学ぶ必要があります。
- ・「外国人だから」という先入観を持たない。
- ・そもそも外国人と区切ることがおかしい。同じ国で生活する人であり、他国を見ても共存が当たり前である。
- ・全てが挨拶で始まり、相手を理解することが大切。外国人から見たら曖昧な日本人が理解できない。白か黒かを決めない灰色好みを脱することが大切。日本人には根本的な受け身志向があり、外国人の自己本位の強引さも頭に入れておけば、うまく日常生活ができると思います。

第2章 日本人住民用調査結果の詳細

- ・ 偏見を持たずに、お互いに心から接するようにすれば、良い関係ができ、より住みやすいまちになると思います。実際、そのような形で近所では良いお付き合いができています。
- ・ 日本人、外国人と区別せず、協力し合いながら、明るい市にしていきたいと思う。

7. 防犯・防災対策について

- ・ 防災無線の放送も、最低限英語で取り組んで頂きたい。
- ・ 治安が良くなるように、パトロール等、強化して欲しい。特に、金・土曜の夜中など、うるさくて眠れないことがある。外国人は日本人より大きな声で話すので、気を付けて欲しい。安全が確保された中で、関わりを持っていきたい。
- ・ 治安が悪くならないためにも、人柄等を知るような催しをたくさん開催する。

8. 本調査のあり方について

- ・ 外国と言っても、米国、欧州、中国、アジア等、アンケートに規定する国が異なり、また、多くて、イメージが大きく異なるので、アンケートに答えにくかった。とりあえず、横田基地があるので、米国人をイメージして回答しました。
- ・ まず「多文化共生のまちづくりを推進」とありますが、このアンケートがくるまで知らなかった。市のホームページにも見にいったけど、一言も書いてなかった。まずはそこからでは？！

9. その他

- ・ 自分自身が高齢のため、まだ若かったら違った意見かもしれません。
- ・ 私が住んでいる団地では、同じ棟に外国の方が住んでいますが、同じ国の方のようで、ほとんど挨拶程度で団地の日本人とは、それ以上の付き合いを望んでいるようには見られない。団地は高齢者が多くて昼間も近所のスーパーへ買い物に行く以外、あまり人を見かけない。ほとんどの人は外国の人への関心はあまりないように見られる。
- ・ 外国人の方が経営しているお店など、日本人は入りづらいと個人的に思ったので、日本人従業員を増やすとか、日本語を増やすなどして欲しい。日本人が外国人をどう受け入れるかより、外国人の方々がどう関わりたいのか、日本人に何を求めているのかが大事だと思う（何もしないのも、むしろありかもしれない）。
- ・ 昔は外国人は基地関係のアメリカ人とのイメージでしたが、今は様々な国の人で、特に私のそばのアパートなどでは、学生らしき若い人が多く、長期滞在はしていないようなので、お付き合いする

のも難しい。

- ・こちらが合わせても相手にその気がなければムリ。逆もしかり。お互いが理解し合おうとしなければ意味がない。
- ・近所に住んでいるが接点が無い。働きに来ているという感じ。
- ・外国人の方々が、我々日本人（近所の）とコミュニケーションを取りたいかどうかわからないので、あえてこちらからは声掛けや挨拶はしていません。困っていれば助けますが、特に困っている様子ではないので。
- ・交通のルールは、日本にいるのなら日本のルールに従って欲しいとは思いますが、言葉の隔たりがなく、自由に話し合えたら、町の中で見かけるトラブルはなくなると思う。福生に住んでいて、外国の方を見かけるのは自然なことで、特別なことではないので、特に求めることはありません。
- ・国籍は関係なく、コロナの影響もあり、近所の方との交流がなくなっています。そのため、人との交流において、住みにくいとを感じる事もないため、何かをしなければという思いがありません。お役に立てず、申し訳ありません。
- ・私は生まれてからずっと福生に住んでいる（途中1年間、別市に住んだが）。外国人が身近に住むことに格別の意識を持っていない。関わりを持つかと言われると、今現在それ程の興味がない。というより、今いる人達（身近に）は、私より若い世代で、触れ合う機会もない。隣り合わせにもならないので、通り過ぎる人に声も掛けられない。同世代の人でも隣に住んだら、声を掛け合うでしょう。

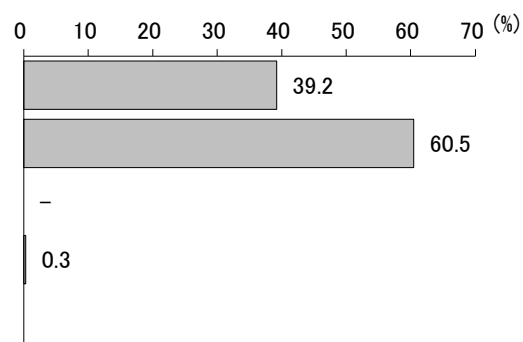
第3章 外国人住民用調査結果の詳細

1 ご自身について（調査回答者の属性）

（1）性別

問1 あなたの性別は次のどれですか。（○は一つだけ）

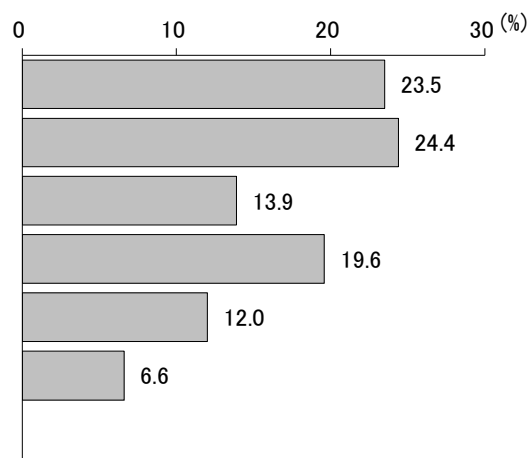
	基数	構成比
男性	130	39.2%
女性	201	60.5%
その他	-	-
無回答	1	0.3%
全 体	332	100.0%



（2）年齢

問2 あなたの年齢は次のどれですか。（○は一つだけ）

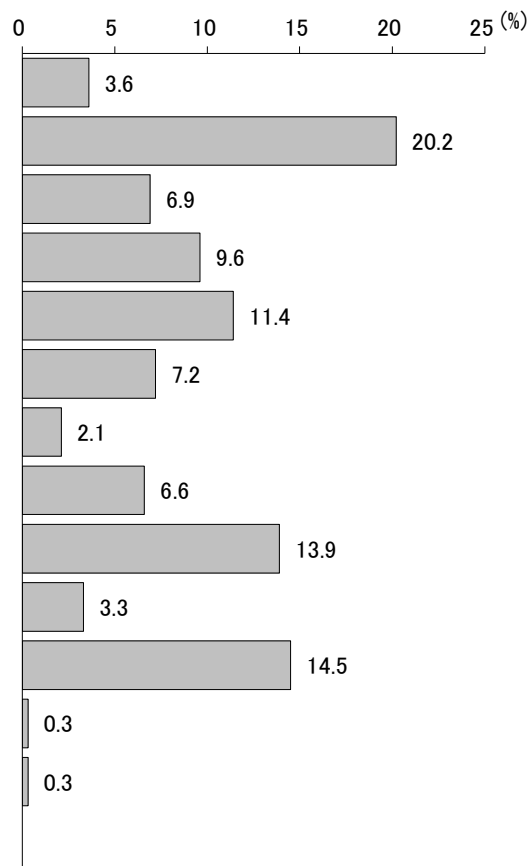
	基数	構成比
20～29歳	78	23.5%
30～39歳	81	24.4%
40～49歳	46	13.9%
50～59歳	65	19.6%
60～69歳	40	12.0%
70歳以上	22	6.6%
全 体	332	100.0%



(3) 国籍

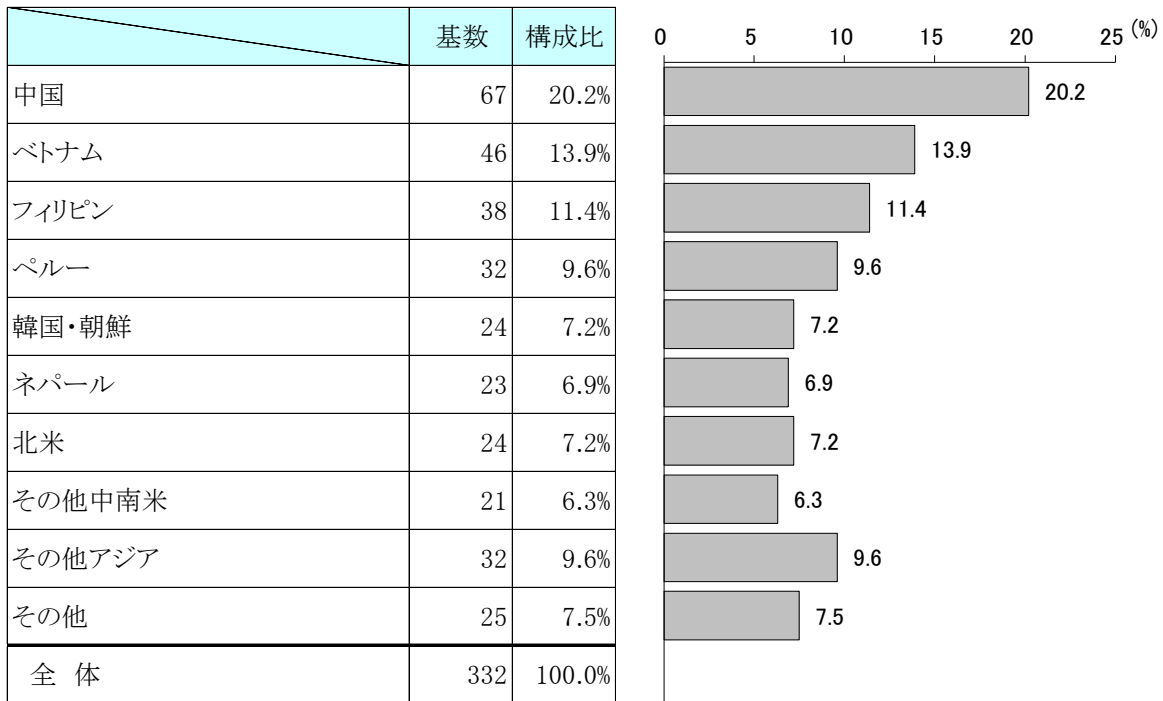
問3 あなたの国籍は次のどれですか。(〇は一つだけ)

	基数	構成比
ブラジル	12	3.6%
中国	67	20.2%
ネパール	23	6.9%
ペルー	32	9.6%
フィリピン	38	11.4%
韓国・朝鮮	24	7.2%
タイ	7	2.1%
アメリカ	22	6.6%
ベトナム	46	13.9%
台湾	11	3.3%
その他	48	14.5%
無国籍	1	0.3%
無回答	1	0.3%
全体	332	100.0%



本報告書では、各所で【国籍別】のクロス集計結果を掲載している。それらの分析で用いるのは、人数の関係上、次のとおり振り分けたものを利用する。

- ・北米・・・アメリカ、カナダ
- ・その他中南米・・・ブラジル、アルゼンチン、コスタリカ、コロンビア、ベネズエラ、メキシコ
- ・その他アジア・・・タイ、台湾、インド、インドネシア、バングラディシュ、マレーシア
- ・その他・・・ウガンダ、ウクライナ、オーストラリア、ガーナ、カメルーン、ギニア、シエラレオネ、スウェーデン、ナイジェリア、無国籍、無回答



調査票回答言語 国籍別

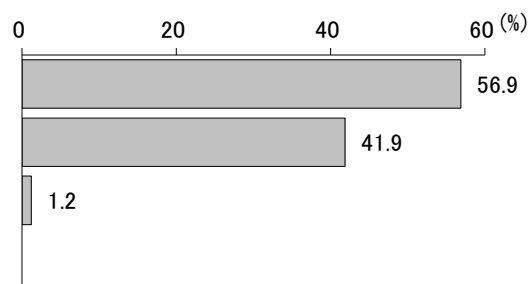
	回答数	日本語	中国語	英語	ベトナム語	スペイン語	タガログ語	ネパール語	韓国語
全体	332	44.0%	9.3%	12.7%	8.7%	9.3%	9.3%	4.5%	2.1%
中国	67	56.7%	43.3%	-	-	-	-	-	-
ベトナム	46	37.0%	-	-	63.0%	-	-	-	-
フィリピン	38	21.1%	-	-	-	-	78.9%	-	-
ペルー	32	28.1%	-	-	-	71.9%	-	-	-
韓国・朝鮮	24	70.8%	-	-	-	-	-	-	29.2%
ネパール	23	34.8%	-	-	-	-	-	65.2%	-
北米	24	29.2%	-	70.8%	-	-	-	-	-
その他中南米	21	52.4%	-	4.8%	-	38.1%	4.8%	-	-
その他アジア	32	62.5%	6.3%	31.3%	-	-	-	-	-
その他	25	44.0%	-	56.0%	-	-	-	-	-

※網掛け箇所については各国籍で最も割合が高い調査票回答言語

(4) 住んでいる市

問4 あなたは現在、どちらの市にお住まいですか。(○は一つだけ)

	基数	構成比
福生市	189	56.9%
羽村市	139	41.9%
無回答	4	1.2%
全体	332	100.0%



住んでいる市 国籍別

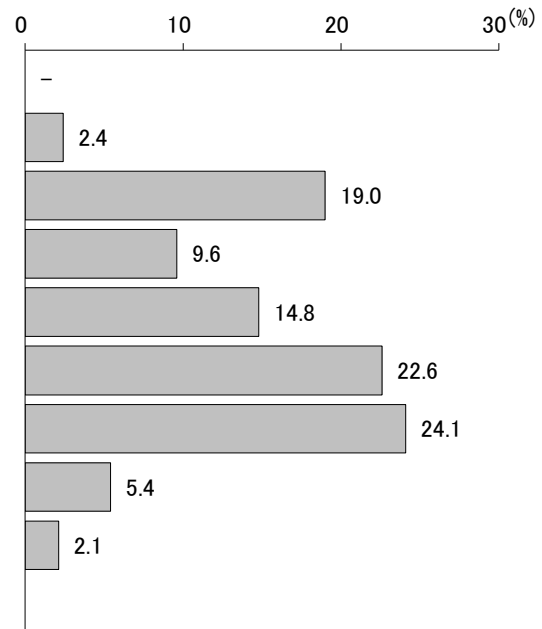
	回答数	福生市	羽村市	無回答
全体	332	56.9%	41.9%	1.2%
中国	67	59.7%	38.8%	1.5%
ベトナム	46	65.2%	34.8%	-
フィリピン	38	42.1%	55.3%	2.6%
ペルー	32	37.5%	62.5%	-
韓国・朝鮮	24	70.8%	29.2%	-
ネパール	23	95.7%	-	4.3%
北米	24	41.7%	58.3%	-
その他中南米	21	19.0%	76.2%	4.8%
その他アジア	32	71.9%	28.1%	-
その他	25	60.0%	40.0%	-

※網掛け箇所については各国籍で最も回答率が高い選択肢

(5) 日本での居住期間

問5 あなたはどのくらい日本に住んでいますか。日本に何度も来ている場合は、あわせた期間をお答えください。(〇は一つだけ)

	基数	構成比
6カ月未満	-	-
6カ月以上～1年未満	8	2.4%
1年以上～3年未満	63	19.0%
3年以上～5年未満	32	9.6%
5年以上～10年未満	49	14.8%
10年以上～20年未満	75	22.6%
20年以上～50年未満	80	24.1%
50年以上	18	5.4%
無回答	7	2.1%
全体	332	100.0%



日本での居住期間 国籍別

	回答数	6 カ 月 未 満	6 カ 月 以 上	3 年 未 満 1 年 以 上	3 年 未 満 5 年 以 上	10 年 未 満 5 年 以 上	20 年 未 満 10 年 以 上	50 年 未 満 20 年 以 上	50 年 以 上	無 回 答
全体	332	-	2.4%	19.0%	9.6%	14.8%	22.6%	24.1%	5.4%	2.1%
中国	67	-	-	20.9%	3.3%	19.4%	35.8%	19.4%	-	1.5%
ベトナム	46	-	2.2%	47.8%	23.9%	17.4%	2.2%	-	-	6.5%
フィリピン	38	-	-	10.5%	10.5%	7.9%	28.9%	42.1%	-	-
ペルー	32	-	3.1%	-	-	12.5%	37.5%	40.6%	-	6.3%
韓国・朝鮮	24	-	-	-	4.2%	-	8.3%	37.5%	50.0%	-
ネパール	23	-	-	30.4%	30.4%	26.1%	13.0%	-	-	-
北米	24	-	4.2%	4.2%	8.3%	20.8%	12.5%	29.2%	20.8%	-
その他中南米	21	-	4.8%	14.3%	-	9.5%	28.6%	42.9%	-	-
その他アジア	32	-	3.1%	18.8%	12.5%	18.8%	25.0%	21.9%	-	-
その他	25	-	12.0%	24.0%	4.0%	8.0%	20.0%	24.0%	4.0%	4.0%

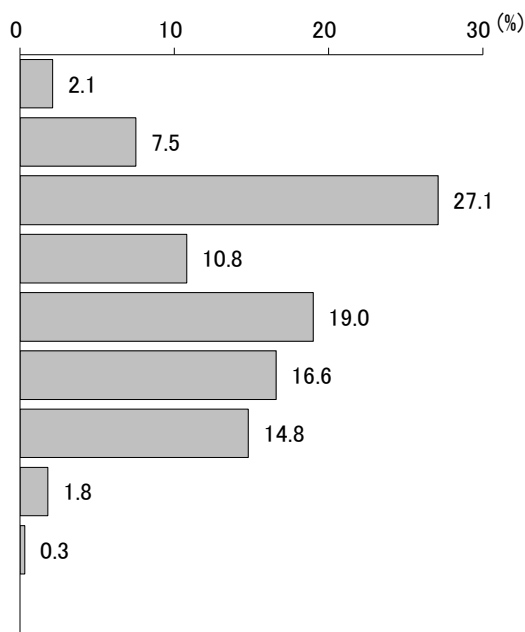
※網掛け箇所については各国籍で最も回答率が高い選択肢

日本での居住期間について、国籍別にみると、「1年以上～3年未満」についてはベトナム(47.8%)、ネパール(30.4%)、その他(24.0%)が全体より高くなっている。また、「3年以上～5年未満」についてはネパール(30.4%)、「10年以上～20年未満」については中国(35.8%)、その他アジア(25.0%)、「20年以上～50年未満」についてはその他中南米(42.9%)、フィリピン(42.1%)、ペルー(40.6%)、北米(29.2%)、その他(24.0%)、「50年以上」については韓国・朝鮮(50.0%)が全体より高くなっている。

(6) 現在の市での居住期間

問6 あなたは、どのくらい今の市に住んでいますか。(○は一つだけ)

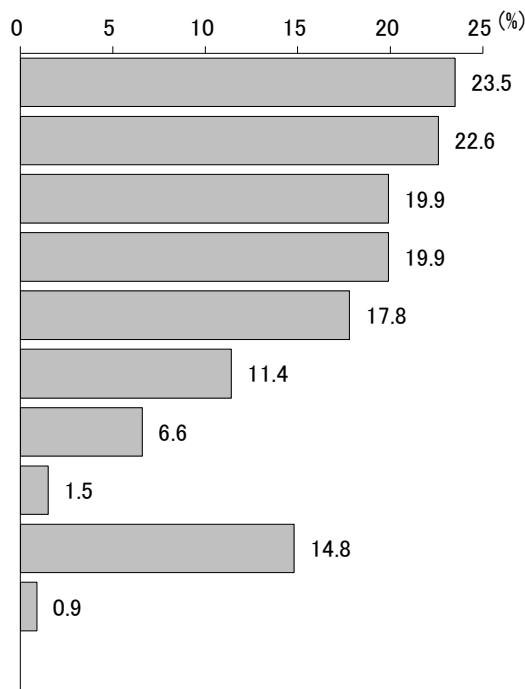
	基数	構成比
6ヵ月未満	7	2.1%
6ヵ月以上～1年未満	25	7.5%
1年以上～3年未満	90	27.1%
3年以上～5年未満	36	10.8%
5年以上～10年未満	63	19.0%
10年以上～20年未満	55	16.6%
20年以上～50年未満	49	14.8%
50年以上	6	1.8%
無回答	1	0.3%
全体	332	100.0%



(7) 来日目的

問7 あなたが日本に来た目的は何ですか。(○はいくつでも)

	基数	構成比
日本の国にあこがれて	78	23.5%
勉強のため	75	22.6%
お金を得るため	66	19.9%
結婚のため	66	19.9%
自分または家族の転勤のため	59	17.8%
職業技術を身につけるため	38	11.4%
日本で生まれた	22	6.6%
政治的自由のため	5	1.5%
その他	49	14.8%
無回答	3	0.9%
全体	332	100.0%



来日目的 国籍別

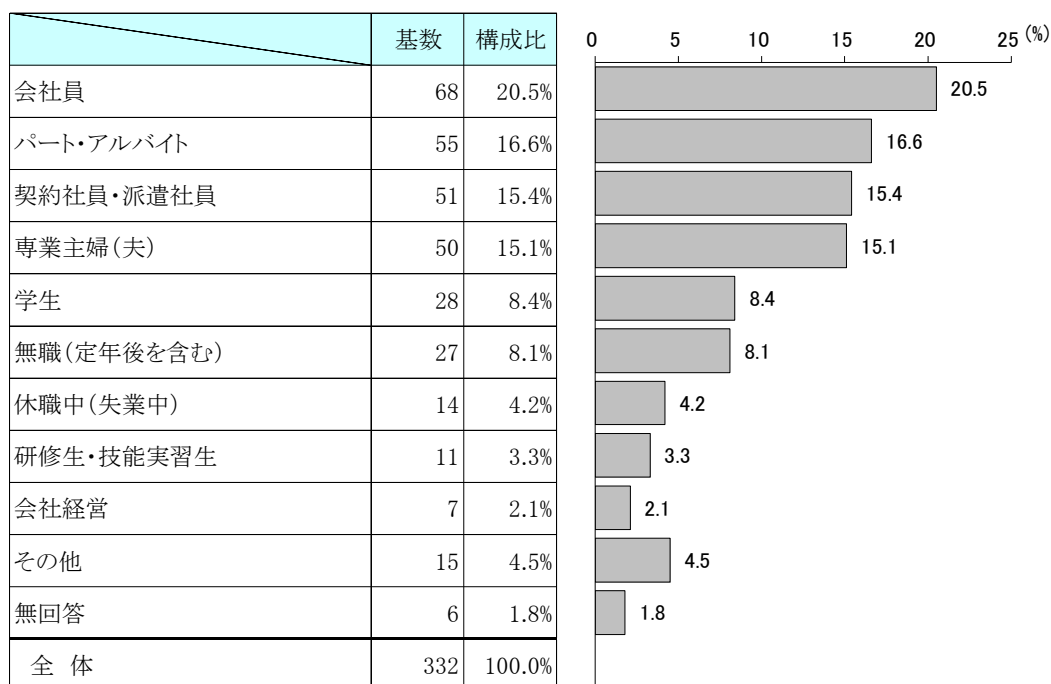
	回答数	あこがれて 日本の国に	勉強のため	お金を得るため	結婚のため	転職のため	自分または家族の 身に付けるため	日本で生まれた	政治的自由のため	その他	無回答
全体	332	23.5%	22.6%	19.9%	19.9%	17.8%	11.4%	6.6%	1.5%	14.8%	0.9%
中国	67	31.3%	38.8%	9.0%	14.9%	14.9%	10.4%	3.0%	-	11.9%	-
ベトナム	46	34.8%	71.7%	43.5%	6.5%	4.3%	37.0%	-	2.2%	2.2%	2.2%
フィリピン	38	10.5%	-	15.8%	47.4%	10.5%	-	-	-	18.4%	-
ペルー	32	28.1%	3.1%	53.1%	3.1%	56.3%	3.1%	-	-	15.6%	-
韓国・朝鮮	24	4.2%	16.7%	4.2%	29.2%	4.2%	-	50.0%	-	12.5%	-
ネパール	23	34.8%	21.7%	21.7%	4.3%	26.1%	21.7%	-	4.3%	17.4%	4.3%
北米	24	20.8%	8.3%	8.3%	8.3%	12.5%	-	20.8%	-	41.7%	-
その他中南米	21	38.1%	-	19.0%	23.8%	28.6%	-	4.8%	-	9.5%	4.8%
その他アジア	32	12.5%	9.4%	9.4%	37.5%	12.5%	12.5%	-	-	15.6%	-
その他	25	8.0%	4.0%	8.0%	28.0%	20.0%	16.0%	8.0	12.0%	16.0%	-

※網掛け箇所については各国籍で最も回答率が高い選択肢

来日目的について、国籍別にみると、「日本の国にあこがれて」についてはその他中南米(38.1%)、ネパール(34.8%)が全体より高くなっている。また、「勉強のため」についてはベトナム(71.7%)、中国(38.8%)、「結婚のため」についてはフィリピン(47.4%)、その他アジア(37.5%)、その他(28.0%)、「自分または家族の転職のため」についてはペルー(56.3%)、「日本で生まれた」については韓国・朝鮮(50.0%)、「その他」については北米(41.7%)が全体より高くなっている。

(8) 仕事

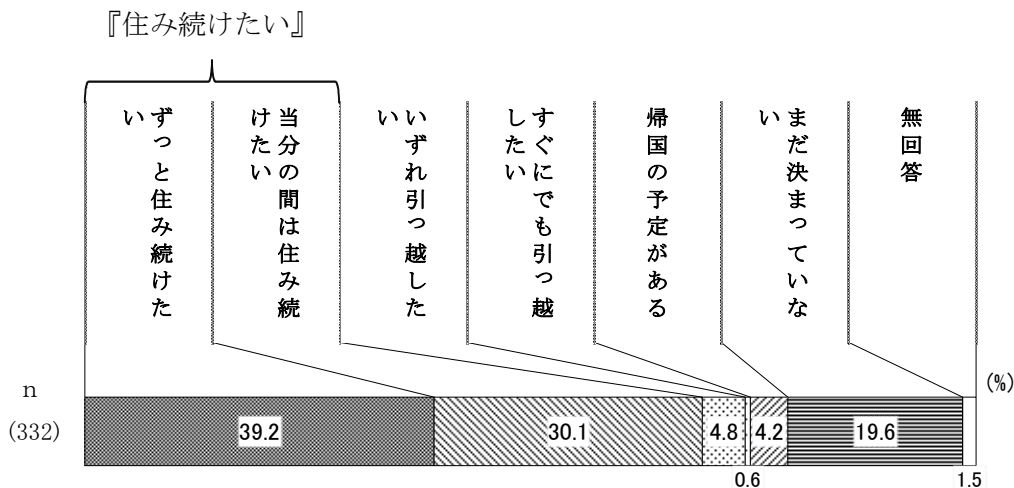
問8 あなたの仕事は何ですか。(○は一つだけ)



2 日本での暮らし

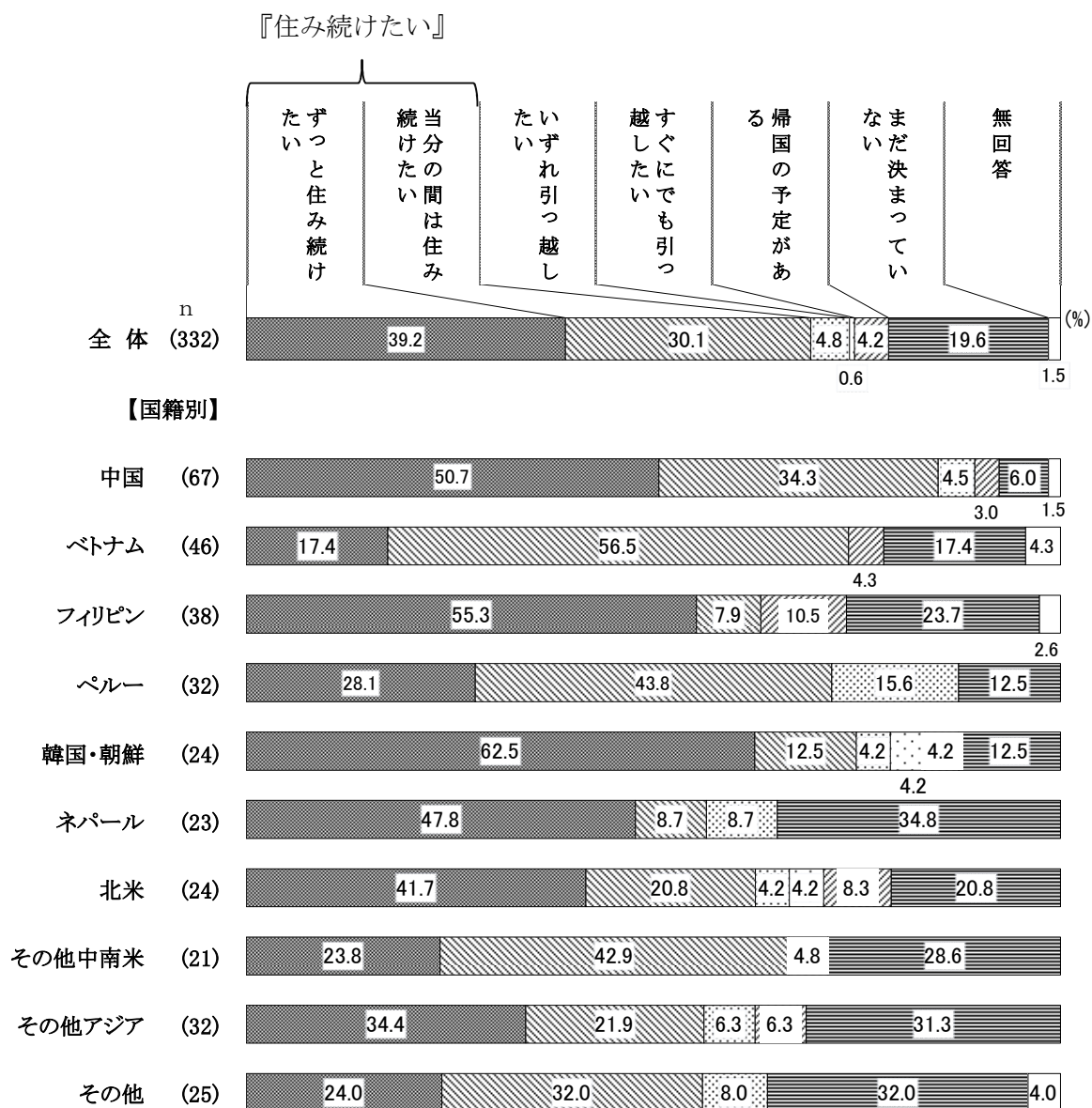
(1) 現在の市に住みたい期間

問9 あなたは、これからどのくらいの期間、今の市に住みたいです。(○は一つだけ)



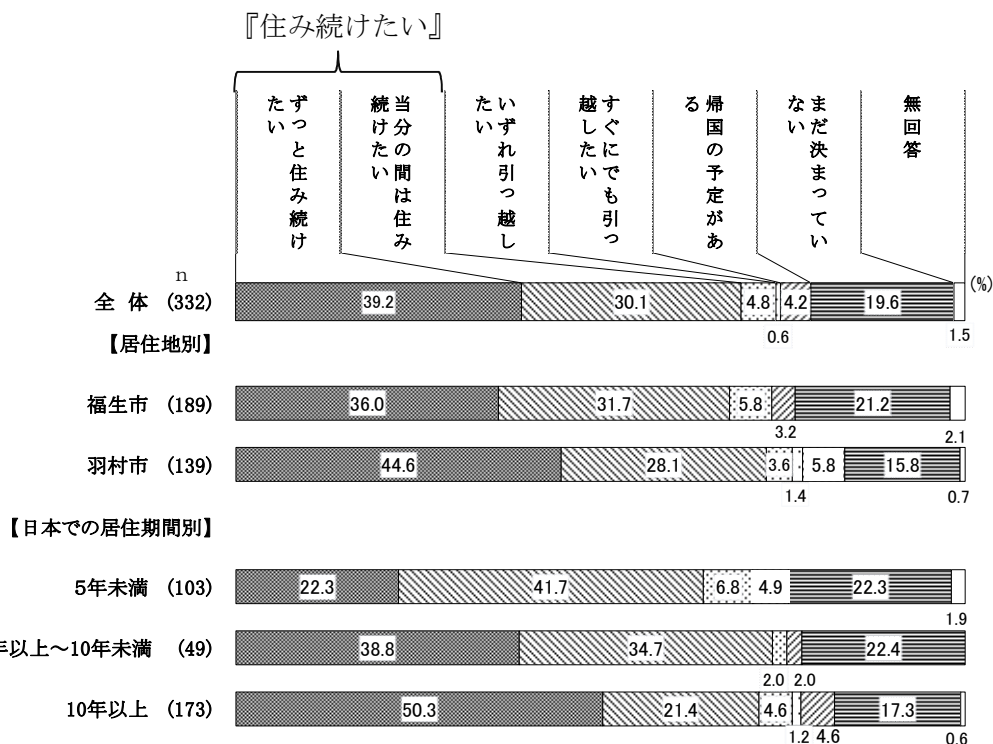
現在の市に住みたい期間では、「ずっと住みたい」(39.2%)と「当分の間は住みたい」(30.1%)を合わせた『住みたい』が69.3%となっている。次いで、「まだ決まっていない」(19.6%)、「いずれ引越したい」(4.8%)となっている。

現在の市に住み続けたい期間 国籍別



国籍別にみると、『住み続けたい』については中国(85.0%)、韓国・朝鮮(75.0%)が全体より高くなっている。また、「いずれ引越したい」についてはペルー(15.6%)、「帰国の予定がある」についてはフィリピン(10.5%)、「まだ決まっていない」についてはネパール(34.8%)、その他(32.0%)、その他アジア(31.3%)、その他中南米(28.6%)が全体より高くなっている。

現在の市に住み続けたい期間 居住地・日本での居住期間別

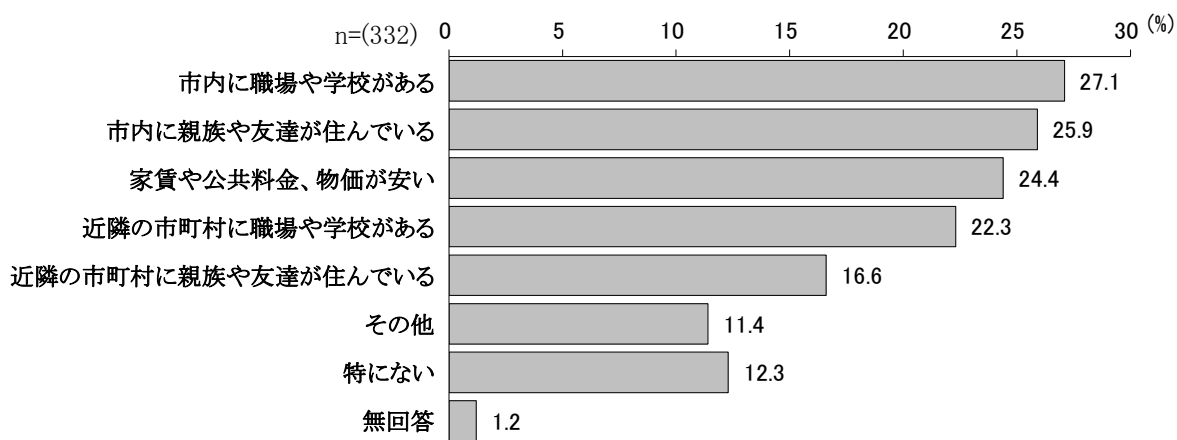


居住地別にみると、『住み続けたい』については羽村市(72.7%)が福生市(67.7%)より5.0ポイント高くなっている。一方で、「まだ決まっていない」については福生市(21.2%)が羽村市(15.8%)より5.4ポイント高くなっている。

日本での居住期間別にみると、期間が長くなるにつれ、「ずっと住み続けたい」については割合が高くなっており、10年以上住んでいる人では50%を超えている。

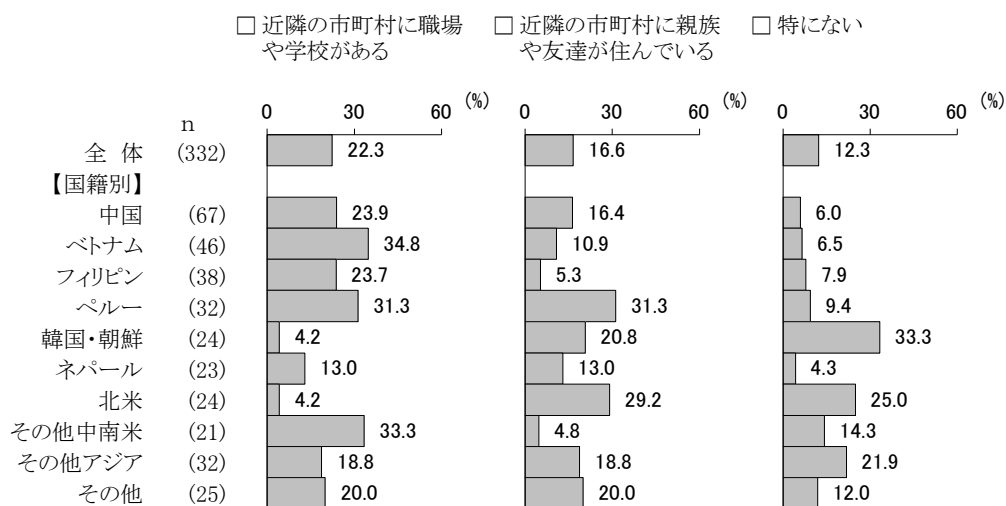
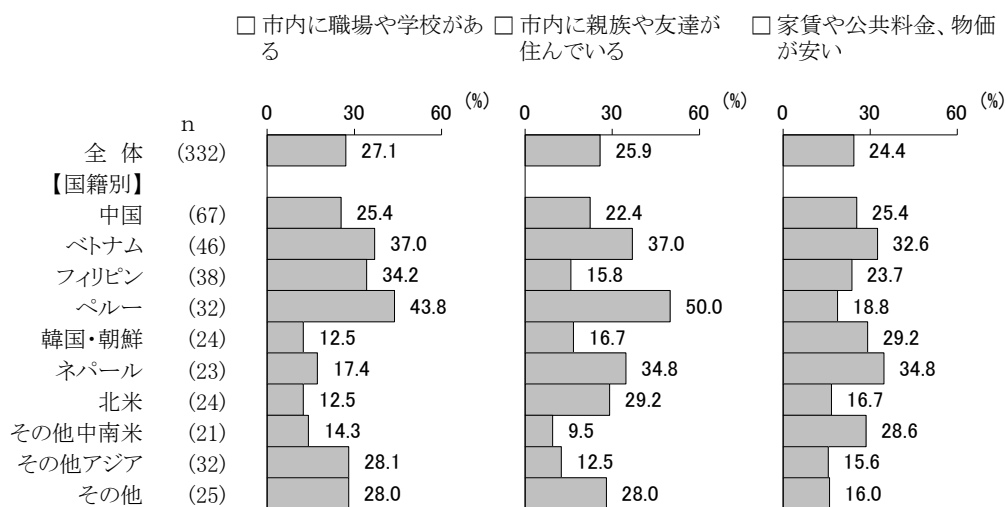
(2) 現在の市に住んでいて良かったこと

問10 今の市に住んでいることで良いと思うことはどんなことですか。(〇はいくつでも)



今の市に住んでいて良かったことでは、「市内に職場や学校がある」が27.1%で最も多く、以下、「市内に親族や友達が住んでいる」(25.9%)、「家賃や公共料金、物価が安い」(24.4%)、「近隣の市町村に職場や学校がある」(22.3%)となっている。

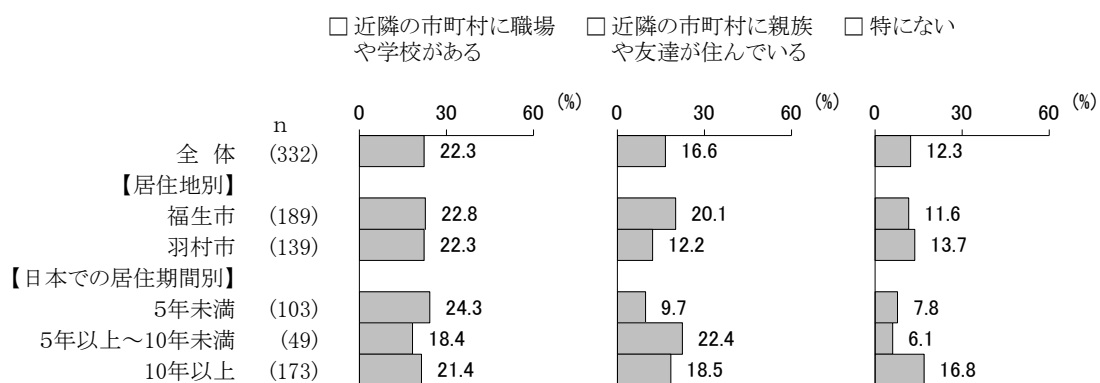
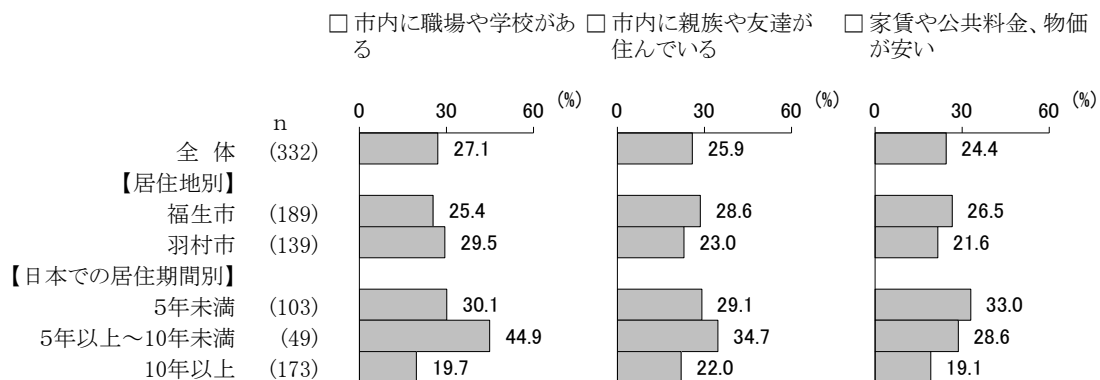
現在の市に住んでいて良かったこと 国籍別



「その他」、「無回答」は非表示

国籍別にみると、「市内に職場や学校がある」についてはペルー(43.8%)、ベトナム(37.0%)、フィリピン(34.2%)が全体より高くなっている。また、「市内に親族や友達がいる」についてはペルー(50.0%)、ベトナム(37.0%)、ネパール(34.8%)、「家賃や公共料金、物価が安い」についてはネパール(34.8%)、ベトナム(32.6%)、「近隣の市町村に職場や学校がある」についてはベトナム(34.8%)、その他中南米(33.3%)、ペルー(31.3%)、「近隣の市町村に親族や友達がいる」についてはペルー(31.3%)、北米(29.2%)が全体より高くなっている。

現在の市に住んでいて良かったこと 居住地・日本での居住期間別



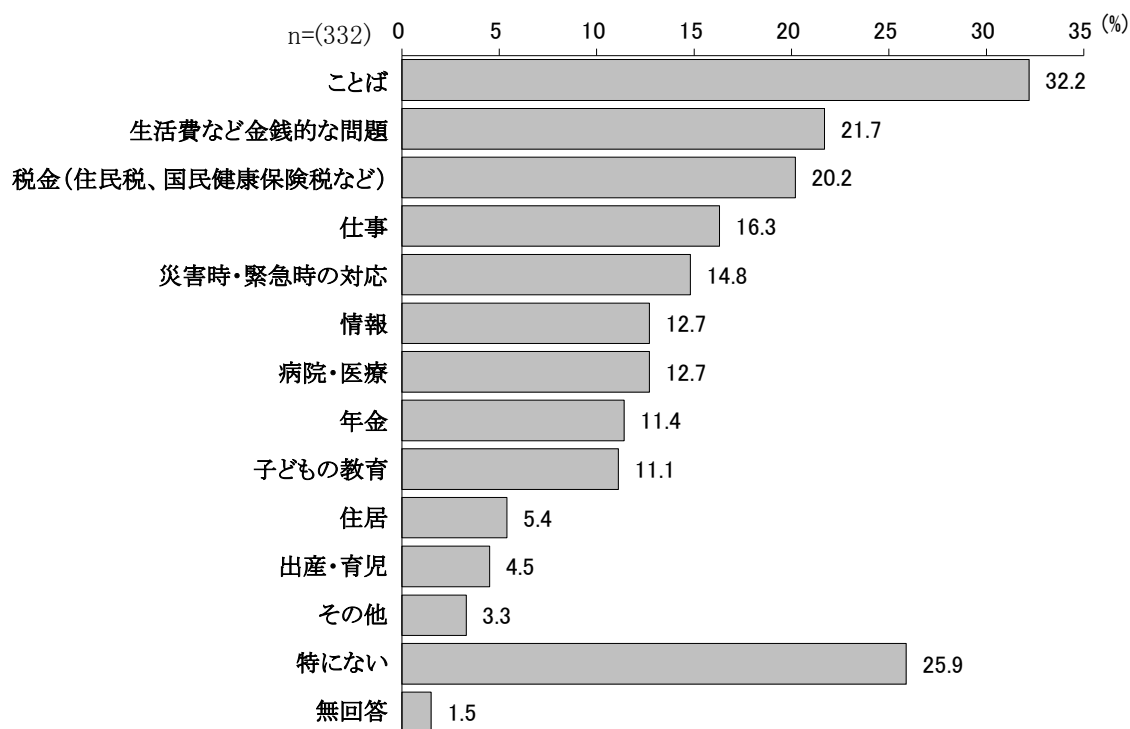
「その他」、「無回答」は非表示

居住地別にみると、「近隣の市町村に親族や友達がいる」について福生市(20.1%)が羽村市(12.2%)より7.9ポイント高くなっている。また、「市内に親族や友達がいる」については福生市(28.6%)が羽村市(23.0%)より5.6ポイント高くなっている。

日本での居住期間別にみると、「市内に職場や学校がある」については5年以上～10年未満(44.9%)が全体より高くなっている。また「市内に親族や友達がいる」については5年以上～10年未満(34.7%)、「家賃や公共料金、物価が安い」については5年未満(33.0%)、「近隣の市町村に親族や友達がいる」について5年以上～10年未満(22.4%)が全体より高くなっている。

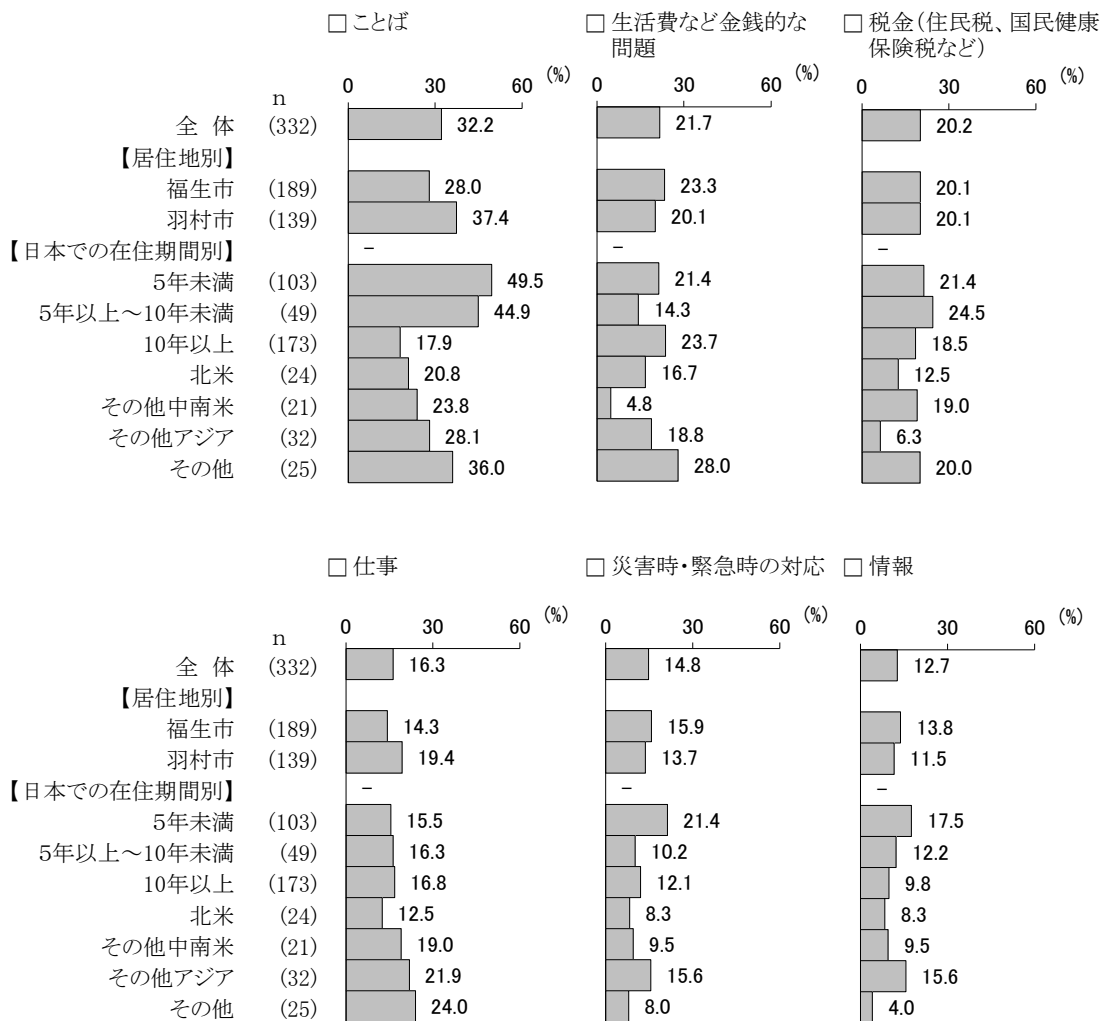
(3) 日本の生活での困り事、心配事

問11 あなたやあなたの家族が、日本の生活で困っていることや心配に思うことはありますか。(〇はいくつでも)



日本の生活での困り事、心配事では、「ことば」が32.2%で最も多く、以下、「生活費など金銭的な問題」(21.7%)、「税金(住民税、国民健康保険税など)」(20.2%)、「仕事」(16.3%)となっている。一方、「特にない」は25.9%だった。

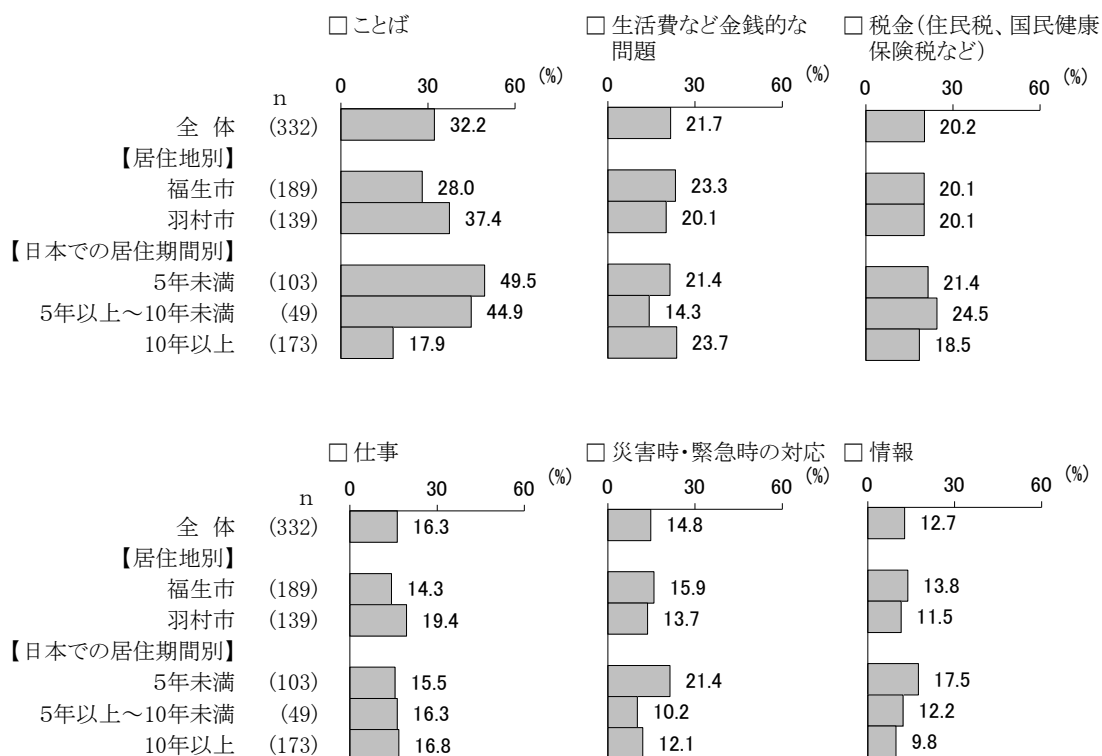
日本の生活での困り事、心配事 国籍別



上位6回答のみ抜粋(「特にない」を除く)

国籍別にみると、「ことば」についてはベトナム(56.5%)、ペルー(53.1%)、ネパール(47.8%)が全体より高くなっている。また、「生活費などの金銭的な問題」についてはフィリピン(31.6%)、その他(28.0%)、「税金(住民税、国民健康保険税など)」についてはベトナム(41.3%)、ネパール(30.4%)、ペルー(28.1%)、「仕事」についてはその他(24.0%)、ペルー、その他アジア(ともに21.9%)、「災害時・緊急時の対応」についてはベトナム(21.7%)、「情報」についてはベトナム(23.9%)、ペルー(18.8%)が全体より高くなっている。

日本の生活での困り事、心配事 居住地・日本での居住期間別



上位6回答のみ抜粋(「特にない」を除く)

居住地別にみると、「ことば」については羽村市(37.4%)が福生市(28.0%)より 9.4 ポイント高くなっている。また、「仕事」については羽村市(19.4%)が福生市(14.3%)より 5.1 ポイント高くなっている。

日本での居住期間別にみると、「ことば」については5年未満(49.5%)、5年以上～10年未満(44.9%)が全体より高くなっている。また、「災害時・緊急時の対応」については5年未満(21.4%)が全体より高くなっている。

(4) 日本の生活での困り事、心配事の内容

問12 問11でお聞きした困りごとや心配なことはどんなことですか。具体的にお書きください。

問11の困り事、心配事の内容について、記述回答総数133件のうち、主な回答を掲載した。
なお、一つの回答が複数の分野にまたがるものもある。

1. ことば

- ・外国人にとって日本語は難しいです。しばらくの間、自費で日本語学校で勉強しました。日本語が苦手なため、日本人と付き合う時に、相手の考え方が完全に理解できないことや自分の思いが上手く伝えられないことにより、誤解が生じることを心配しています。
- ・日本語が不自由だと出来る仕事に限られ、仕事に就くのが難しいです。まじめでもチャンスをくれない事が多く、すぐ断られます。
- ・私は日本語が出来ないので、様々な場所で、周りの人と時々コミュニケーションの問題があります。また、私と妻が日本語が出来ないことで、息子の教育に影響がないか心配しています。日本語ができないため、勉強について息子をサポートすることが出来ません。
- ・日本に住む人にとって、日本語がわからないととても不便です。私は英語とベトナム語しかできないのですが、英語を話せる日本人があまりいません。私が日本に来る前にちゃんと日本語を勉強しなかったことも悪かったけど、日本も英語での対応を充実した方が良いと思います。言語の問題以外特にはないです。
- ・日本語を話せますが十分には話せません。市と福祉センターでボランティアが実施する日本語教室がありますが、仕事のため、授業に出席できません。また、日本人と交流することがほとんどないので、日本語を練習する機会がありません。

2. 情報

- ・情報源が限られています。もっと日本のこと・福利厚生・日本人を理解して、友達を多く作りたと思います。
- ・退職金と税金について、もっと理解できるような情報が必要です。

3. 住居

- ・家賃が高いです。また、住宅購入時に各種税金がかかります。
- ・自分たちの手の届く範囲内で入手できる住宅に関して、具体的な情報を入手したいです。

4. 病院・医療

- ・病気になった時どこに行ったらいいかわかりません。また、自分の都合のいい時に病院が開いていません。
- ・病気で病院へ行く時、専門用語がわかりません。多言語案内が足りません。
- ・病院に行く方法が分からず、羽村市のどの病院、どの医者、どの歯医者が保険適用なのかも分かりません。災害緊急情報は届いていますが、全て日本語なので、緊急時にどうすればいいか分かりません。英語や他言語のウェブサイトが分かれば、助かります。

5. 年金

- ・年金について。日本人は25年間年金を支払うと65歳になったら年金を受け取れますが、私達は支払いが25年に達することはないので、年金を受け取れるのか心配です。毎月高額を納めているのですが。
- ・年金制度と退職後の外国人の生活。外国人としての日本社会における老後。
- ・政府はあまりにも差別的で、民族中心的すぎると思います。同じ額の税金を納めている外国人に平等な機会を与えてくれません。

6. 出産・育児

- ・家族や親族が日本にいないので、出産前後に世話をしてくれる人がいません。また、子どもが放課後に学力を上げるためにどこに行かせたらよいか分かりません。
- ・子どもが日本で生まれても、外国人の子どもにやさしい保育園があまりなく、待機率も高いと聞いており、非常に心配しています。

7. 子どもの教育

- ・学校で外国人の子どもがいじめられることを心配しています。異国と日本との文化の違いが、子どもが集団生活に馴染むときに影響を与えるのではないかと心配しています。
- ・日本語ができないので、先生やクラスメイトとのコミュニケーションが上手く取れず、寂しい感じがします。保護者として、上手く先生とコミュニケーションが取れません。翻訳アプリを通じてコミュニケーションを取っているため、何回か大きな誤解を招いて、心理的ストレスが増えました。先生と難しい話をするのが不安です。
- ・先生が教えた内容がわからなくて、子どもに教えることが出来ません。

8. 仕事

- ・アルバイトなので仕事が安定しなくて給料が低いです。
- ・日本語を完璧に話せないので、自分のキャリアに合った仕事を見つけたり、よりよい給料を得るための選択肢を広げるのが難しいです。
- ・仕事のいくつかの分野で、外国人だと資格などがあっても正当に扱われないことがあります。

9. 災害時・緊急時の対応

- ・災害の時、連絡が取れないこと（3.11の時、電話は使えませんでした、インターネットは使えたので、母国の人と連絡して無事を知らせることができました。）
- ・災害が起こった時、自治体が日本語で放送する内容が十分理解できないため、避難情報等は多言語で対応してほしいです。災害時だけではなく、自治体の案内やお知らせ等のほとんどが十分理解できないため、多言語化での対応が必要だと思います。

10. 生活費など金銭的な問題

- ・私はシングルマザーで、収入が少ないので経済的な支援が必要です。
- ・家賃や学費など、たくさんのお金を払わなければならないため困っています。
- ・日本では働かなければ日常の出費に十分ではなく生きていくことができません。ここでは一生懸命働いても暮らしが快適になりません。65歳になって年金を受け取っても食べていくのに十分ではありません。

11. 税金（住民税、国民健康保険など）

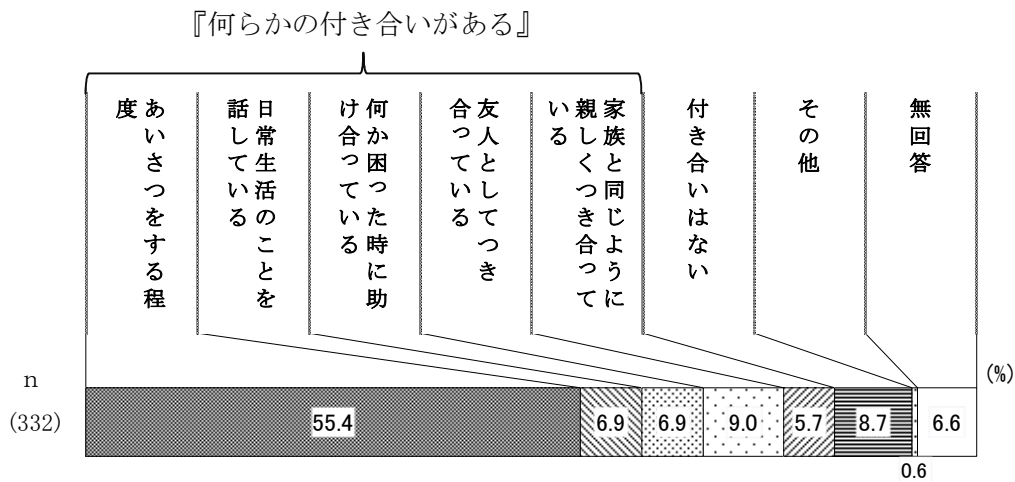
- ・日本の税金は高すぎて、種類が多いです。
- ・外国人にとっては日本の税務は難しく、混乱します。日本では英語は公式の第二言語ですが、案内や納税申告書は日本語で書かれているため難しいです。
- ・国民健康保険の申請をする際、来日した時からではなく、保険に加入した時から保険料の支払いを求められるべきだと思います。

12. その他

- ・特に暴走族など、大きな音の車やバイクと警察の怠惰な態度に困っています。時々、コンビニの前に長い時間うるさいグループが集まっています。夜にそのようなグループに遭遇しても、警察はそのグループを解散させに来ません。それが夜に近所の人々を不安にさせています。

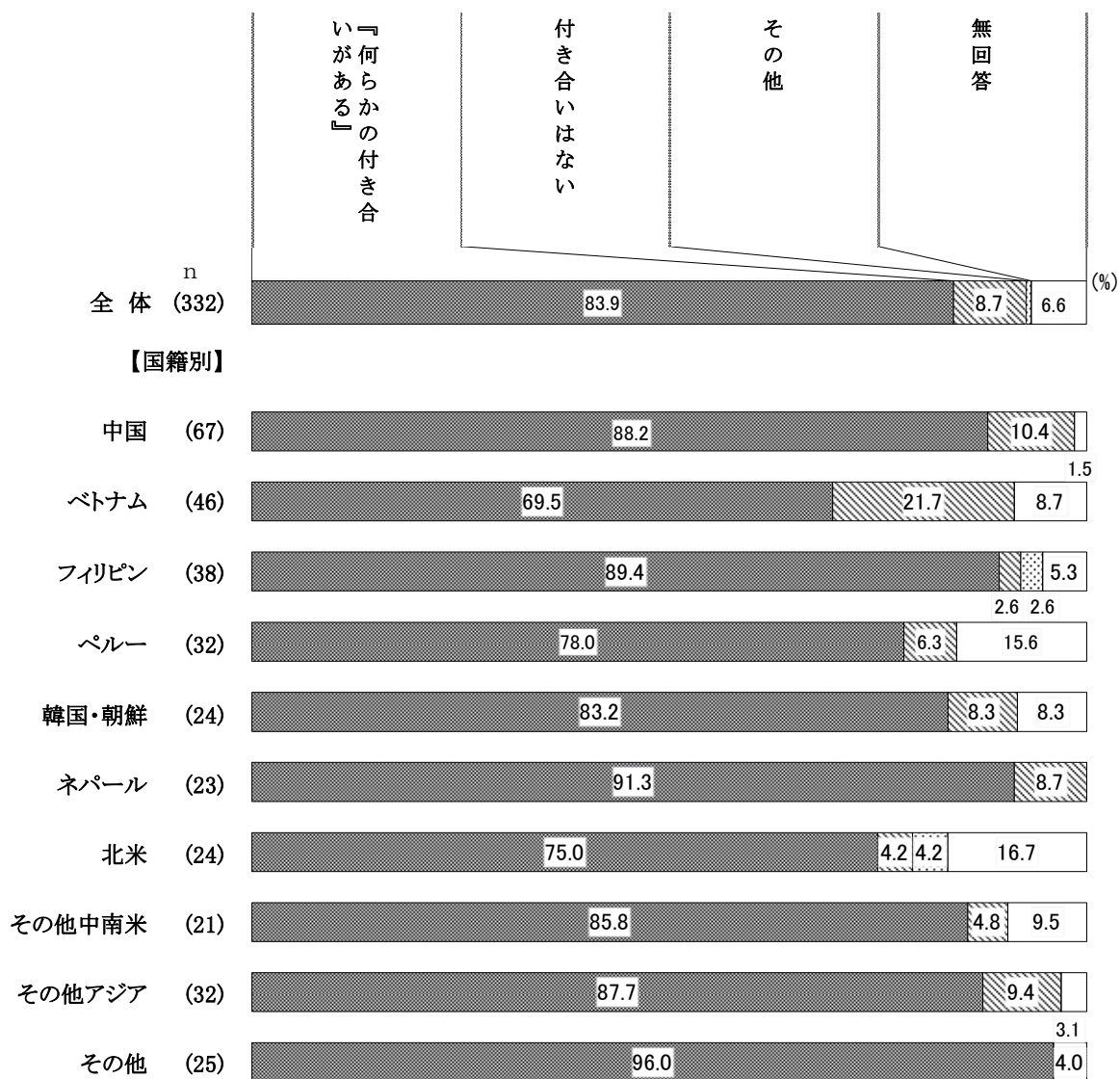
(5) 近くに住む日本人との付き合い

問13 あなたは近くに住む日本人とどのような付き合いがありますか。(○は一つだけ)



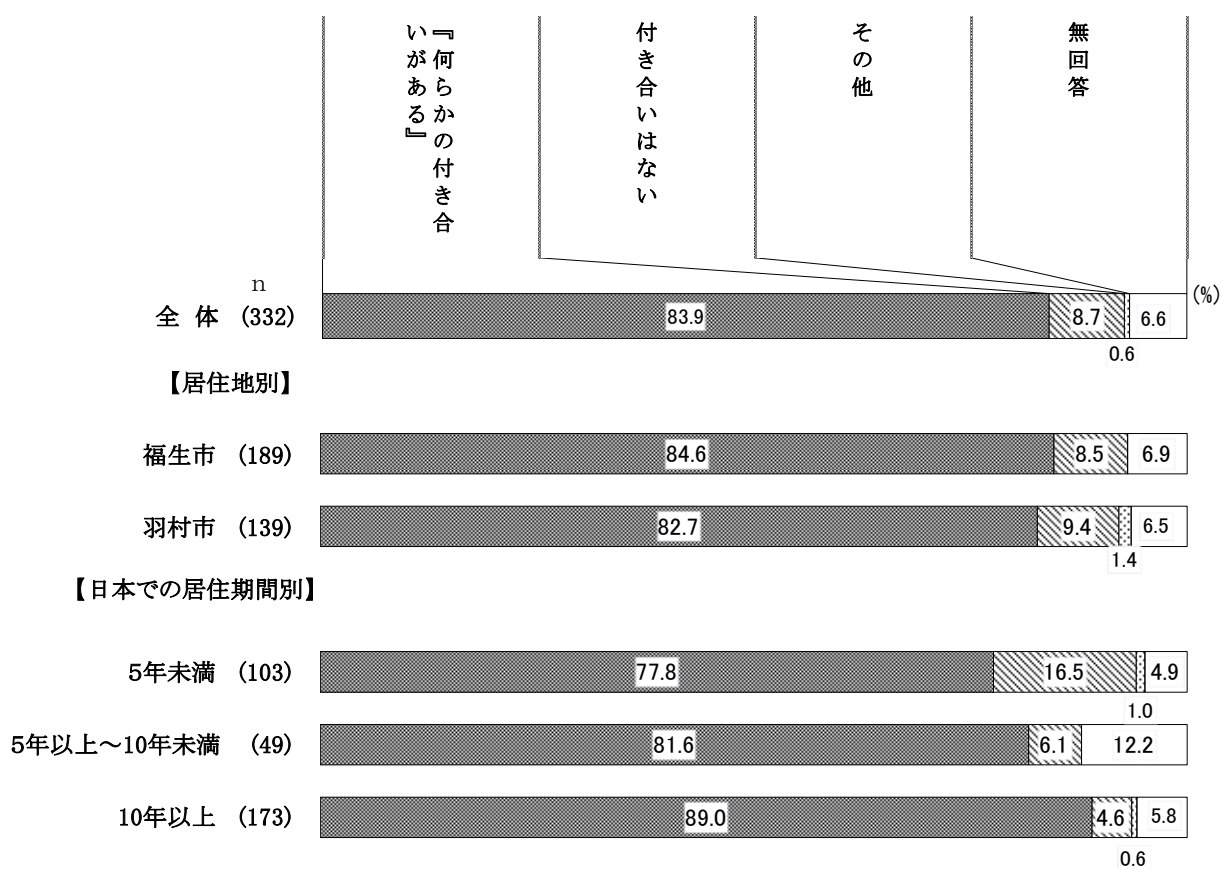
近くに住む日本人との付き合いでは、「あいさつをする程度」が55.4%で最も多かった。また、「あいさつをする程度」と、「日常生活のことを話している」・「何か困った時に助け合っている」（ともに6.9%）、「友人としてつき合っている」（9.0%）、「家族と同じように親しくつき合っている」（5.7%）を合わせた『何らかの付き合いがある』は83.9%となっている。

近くに住む日本人との付き合い 国籍別



国籍別にみると、『何らかの付き合いがある』についてはその他(96.0%)、ネパール(91.3%)、フィリピン(89.4%)が全体より高くなっている。

近くに住む日本人との付き合い 居住地・日本での居住期間別

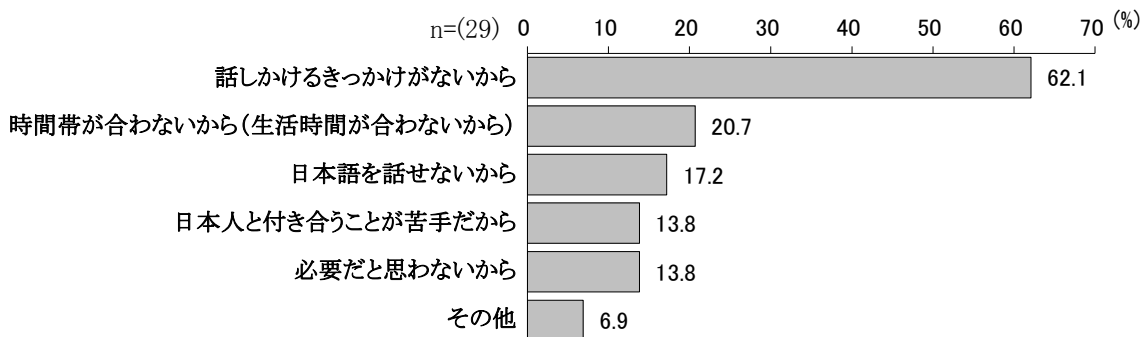


居住地別にみると、両市に大きな差は見られなかった。

日本での居住期間別にみると、居住年数が増えるごとに『何らかの付き合いがある』割合が増えており、10年以上住んでいる人では89.0%となっている。

(6) 日本人と付き合いがない理由

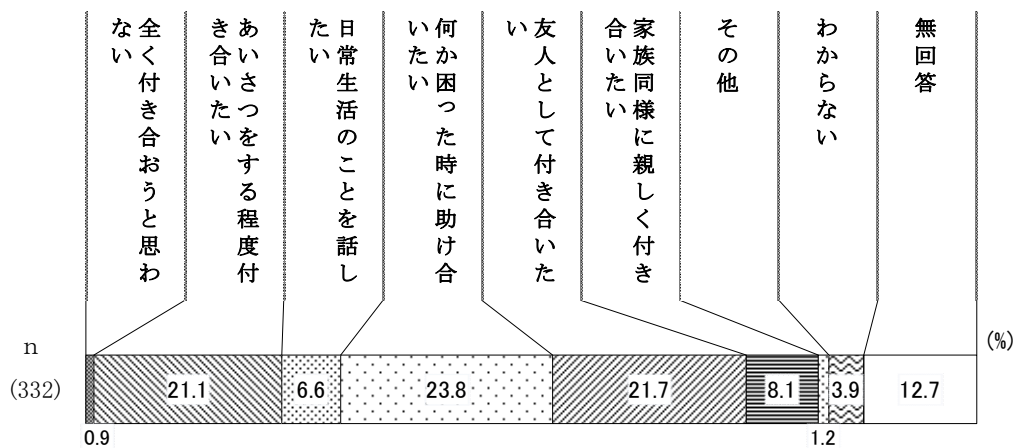
(問13で、「6 付き合いはない」と答えた方のみ)
 問13-1 日本人と付き合いがないのはなぜですか。(〇はいくつでも)



日本人と付き合いがない理由では、「話しかけるきっかけがないから」が62.1%で最も多く、以下、「時間帯が合わないから(生活時間が合わないから)」(20.7%)、「日本語を話せないから」(17.2%)、「日本人と付き合うことが苦手だから」(13.8%)となっている。

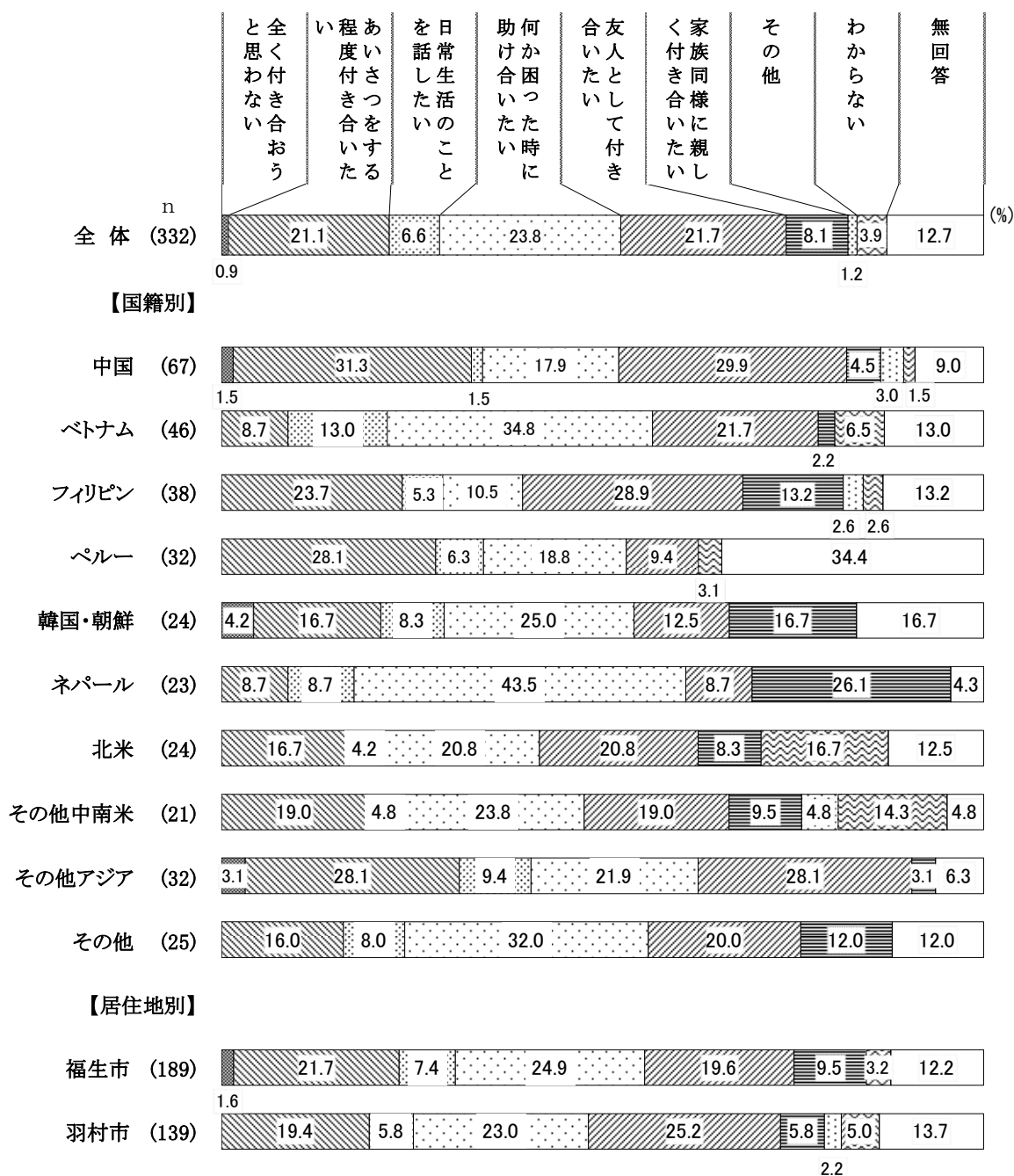
(7) 今後の近くの日本人との付き合い方

問14 あなたは、今後、近くに住む日本人とどのように接していきたいですか。(〇は一つだけ)



今後の近くの日本人との付き合い方では、「何か困った時に助け合いたい」が23.8%で最も多く、以下、「友人として付き合いたい」(21.7%)、「あいさつをする程度付き合いたい」(21.1%)、「日常生活のことを話したい」(6.6%)となっている。

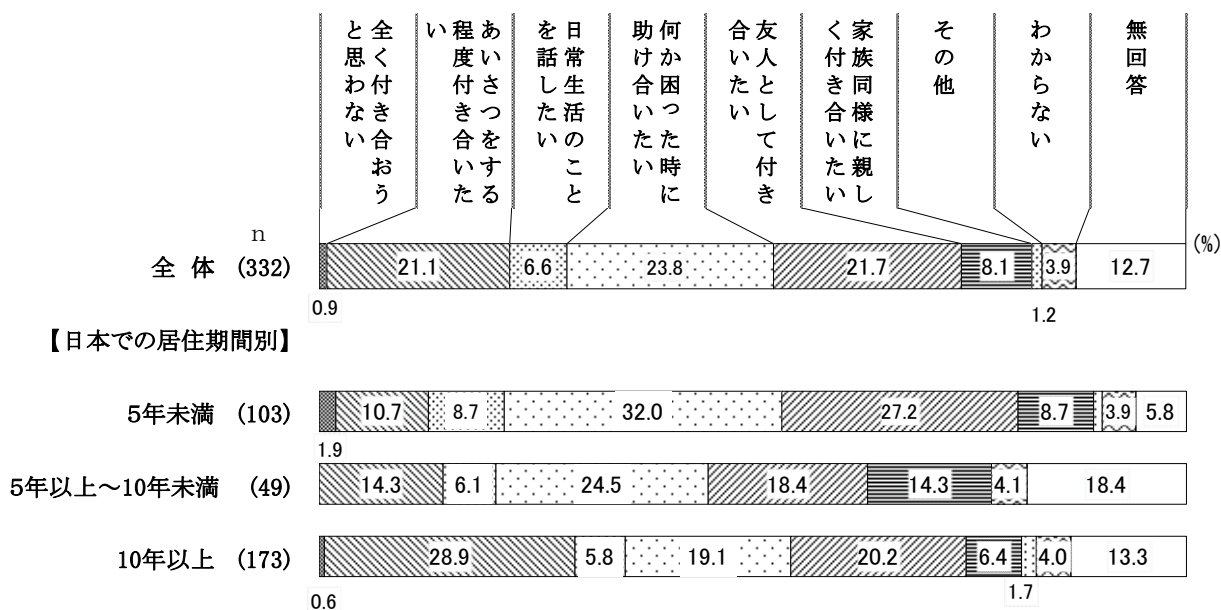
今後の近くの日本人との付き合い方 国籍・居住地別



国籍別にみると、「あいさつをする程度付き合いたい」については中国(31.3%)、ペルー、その他アジア(ともに28.1%)が全体より高くなっている。また、「日常生活のことを話したい」についてはベトナム(13.0%)、「何か困ったときに助け合いたい」についてはネパール(43.5%)、ベトナム(34.8%)、その他(32.0%)、「友人として付き合いたい」については中国(29.9%)、フィリピン(28.9%)、その他アジア(28.1%)、「家族同様に親しく付き合いたい」についてはネパール(26.1%)、韓国・朝鮮(16.7%)、フィリピン(13.2%)が全体より高くなっている。

居住地別にみると、「友人として付き合いたい」について羽村市(25.2%)が福生市(19.6%)より5.6ポイント高くなっている。

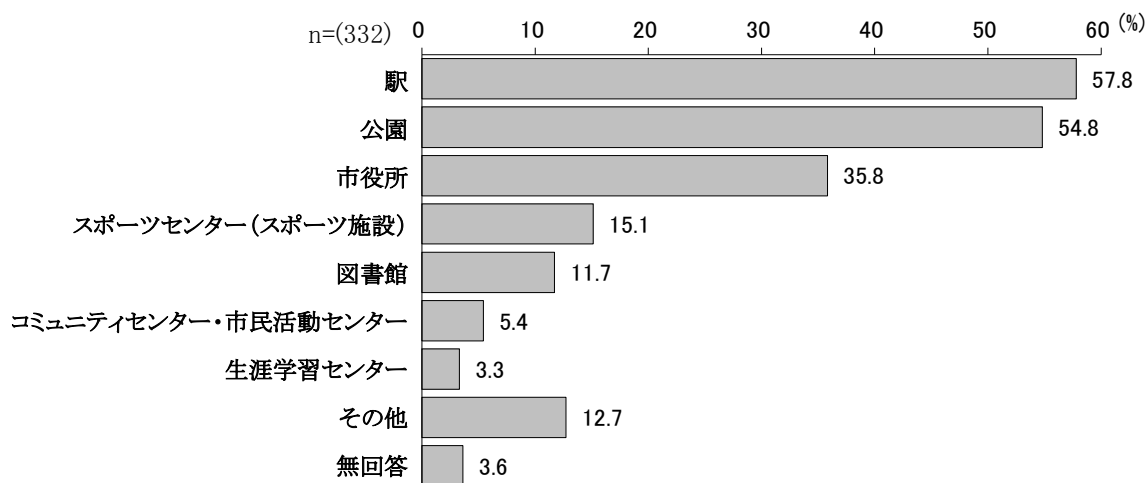
今後の近くの日本人との付き合い方 日本での居住期間別



日本での居住期間別にみると、「あいさつをする程度付き合いたい」については10年以上(28.9%)が全体より高くなっている。また、「何か困った時に助け合いたい」については5年未満(32.0%)、「友人として付き合いたい」については5年未満(27.2%)、「家族同様に親しく付き合いたい」については5年以上～10年未満(14.3%)が全体より高くなっている。

(8) 市にある建物で、いつもよく行く場所

問15 あなたが、市にある施設などの中で、普段よく行く場所はどこですか。(〇はいくつでも)

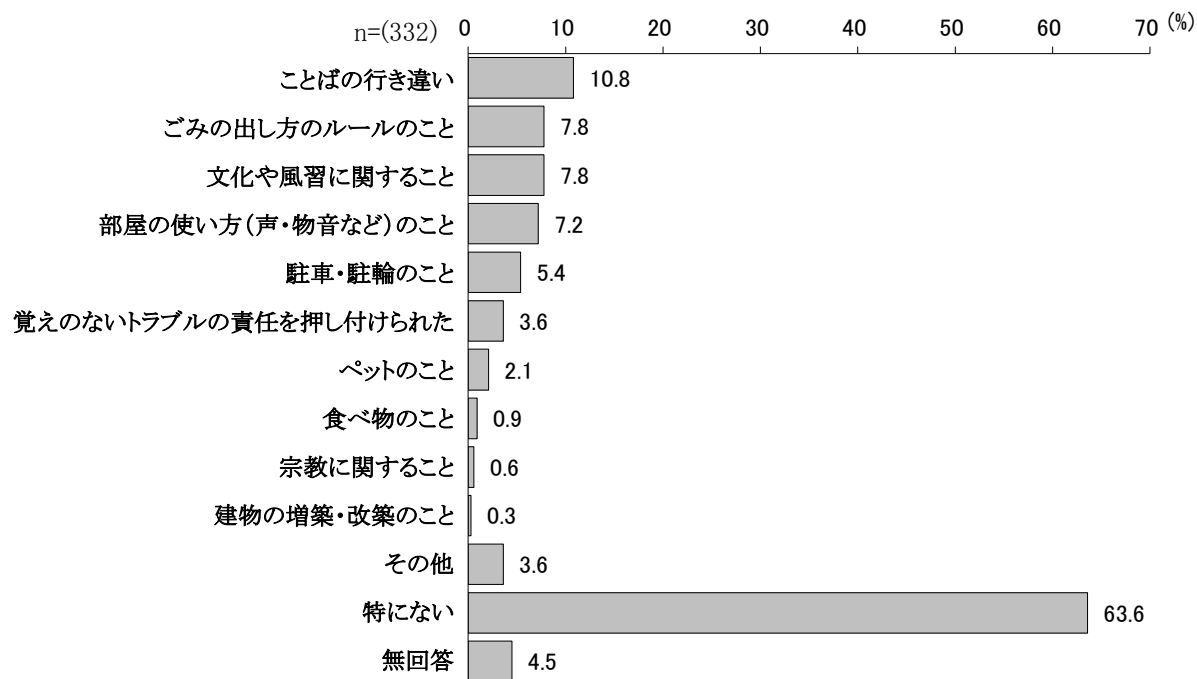


市にある建物で、いつもよく行く場所では、「駅」が57.8%で最も多く、以下、「公園」(54.8%)、「市役所」(35.8%)、「スポーツセンター(スポーツ施設)」(15.1%)となっている。

3 日常生活でのトラブル

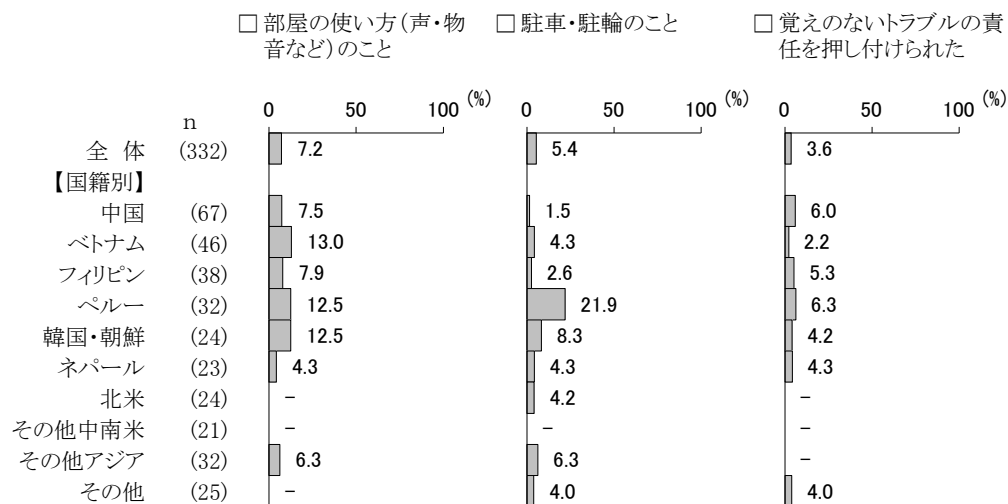
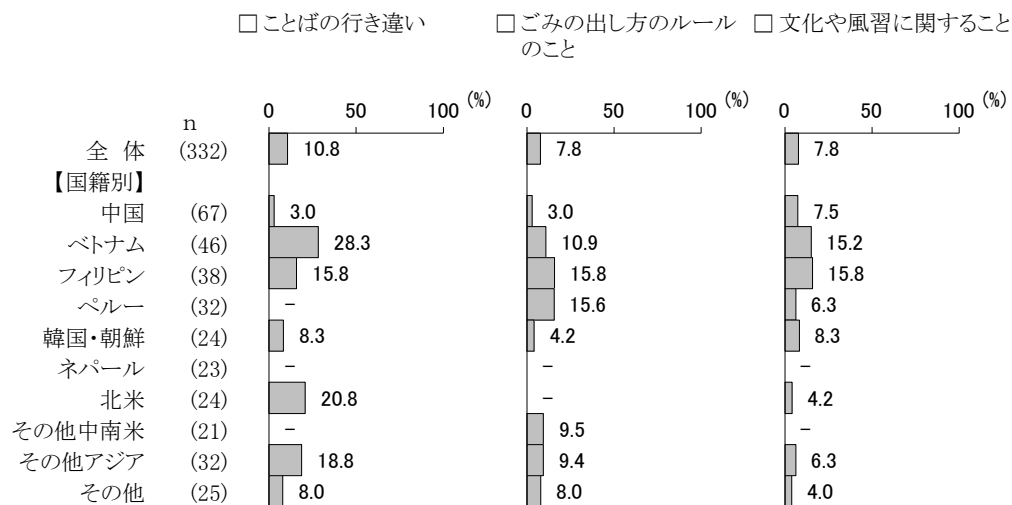
(1) 近くに住む日本人とのトラブルについて

問16 あなたは今までに、近くに住む日本人と次のようなトラブルの経験（または困ったこと）はありますか。（〇はいくつでも）



近くに住む日本人とのトラブルについては、「特にない」が63.6%で最も多く、以下、具体的な選択肢の中では、「ことばの行き違い」（10.8%）、「ごみの出し方のルールのこと」、「文化や風習に関すること」（ともに7.8%）となっている。

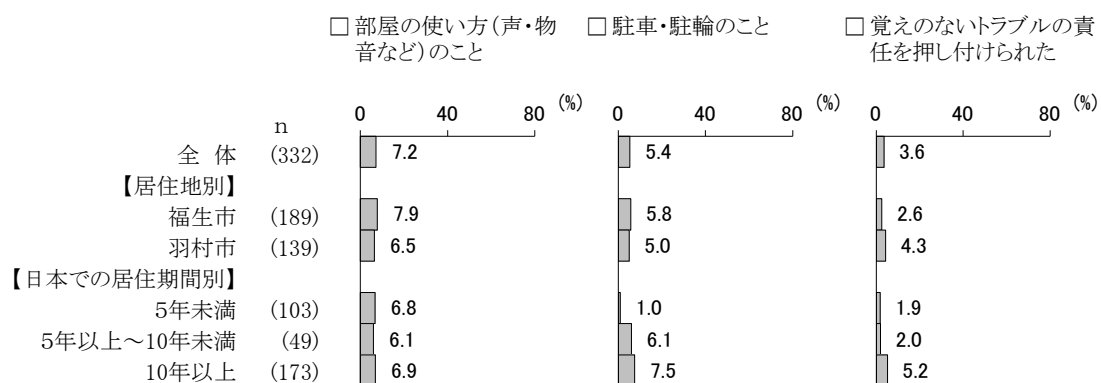
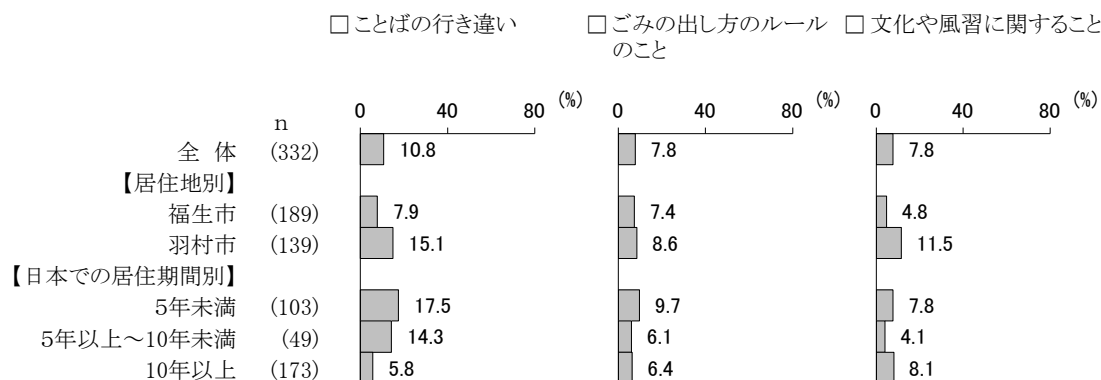
近くに住む日本人とのトラブルについて 国籍別



上位6回答のみ抜粋(「特にない」は除く)

国籍別にみると、「ことばの行き違い」についてはベトナム(28.3%)、北米(20.8%)、その他アジア(18.8%)、フィリピン(15.8%)が全体より高くなっている。また、「ごみの出し方のルールのこと」についてはフィリピン(15.8%)、ペルー(15.6%)、「文化や風習に関すること」についてはフィリピン(15.8%)、ベトナム(15.2%)、「部屋の使い方(声・物音など)のこと」についてはベトナム(13.0%)、ペルー、韓国・朝鮮(ともに12.5%)、「駐車・駐輪のこと」についてはペルー(21.9%)が全体より高くなっている。

近くに住む日本人とのトラブルについて 居住地・日本での居住間別



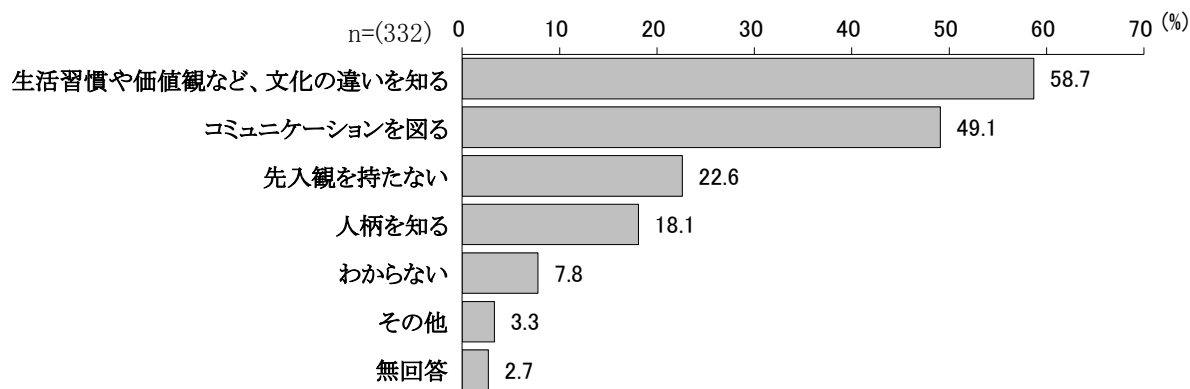
上位6回答のみ抜粋(「特になし」は除く)

居住地別にみると、「ことばの行き違い」については羽村市(15.1%)が福生市(7.9%)より7.2ポイント高くなっている。また、「文化や風習に関すること」については羽村市(11.5%)が福生市(4.8%)より6.7ポイント高くなっている。

日本での居住期間別にみると、「ことばの行き違い」については5年未満(17.5%)が全体より高くなっている。

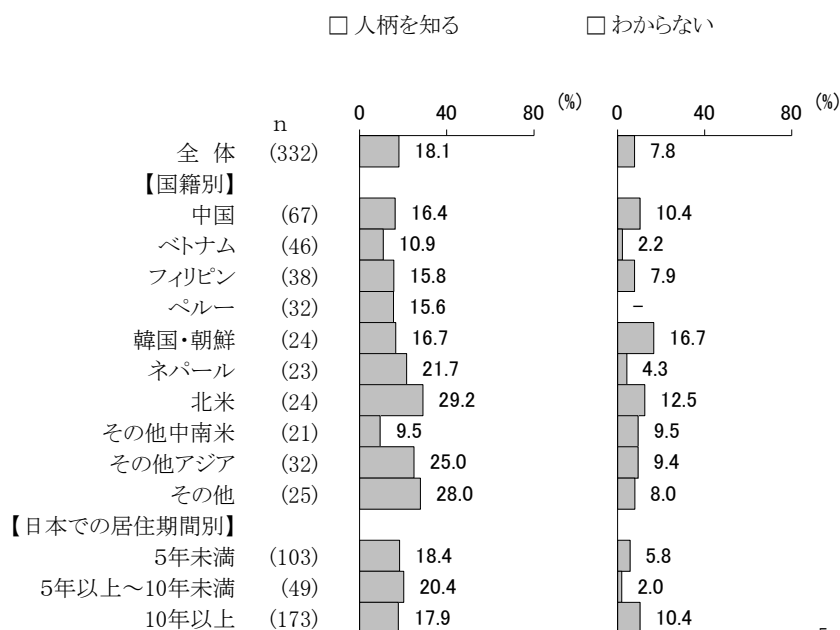
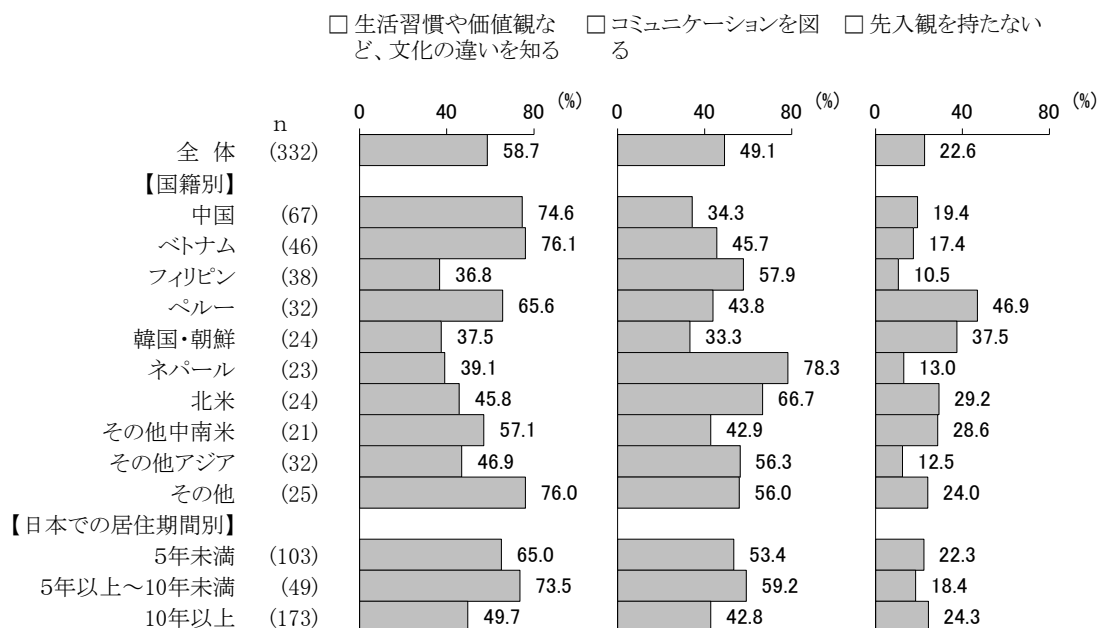
(2) 同じ地域で日本人と生活するために大切なこと

問17 あなた自身が、同じ地域で日本人と生活していく上で大切なことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)



同じ地域で日本人と生活するために大切なことでは、「生活習慣や価値観など、文化の違いを知る」が58.7%で最も多く、以下、「コミュニケーションを図る」(49.1%)、「先入観を持たない」(22.6%)、「人柄を知る」(18.1%)となっている。

同じ地域で日本人と生活するために大切なこと 国籍・日本での居住期間別



「その他」、「無回答」は非表示

国籍別にみると、「コミュニケーションを図る」についてはネパール(78.3%)、北米(66.7%)、フィリピン(57.9%)、その他アジア(56.3%)、その他(56.0%)が全体より高くなっている。また、「生活習慣や価値観など、文化の違いを知る」についてはベトナム(76.1%)、その他(76.0%)、中国(74.6%)、ペルー(65.6%)、「先入観を持たない」についてはペルー(46.9%)、韓国・朝鮮(37.5%)、北米(29.2%)、その他中南米(28.6%)、「人柄を知る」については北米(29.2%)、その他(28.0%)、その他アジア(25.0%)が全体より高くなっている。

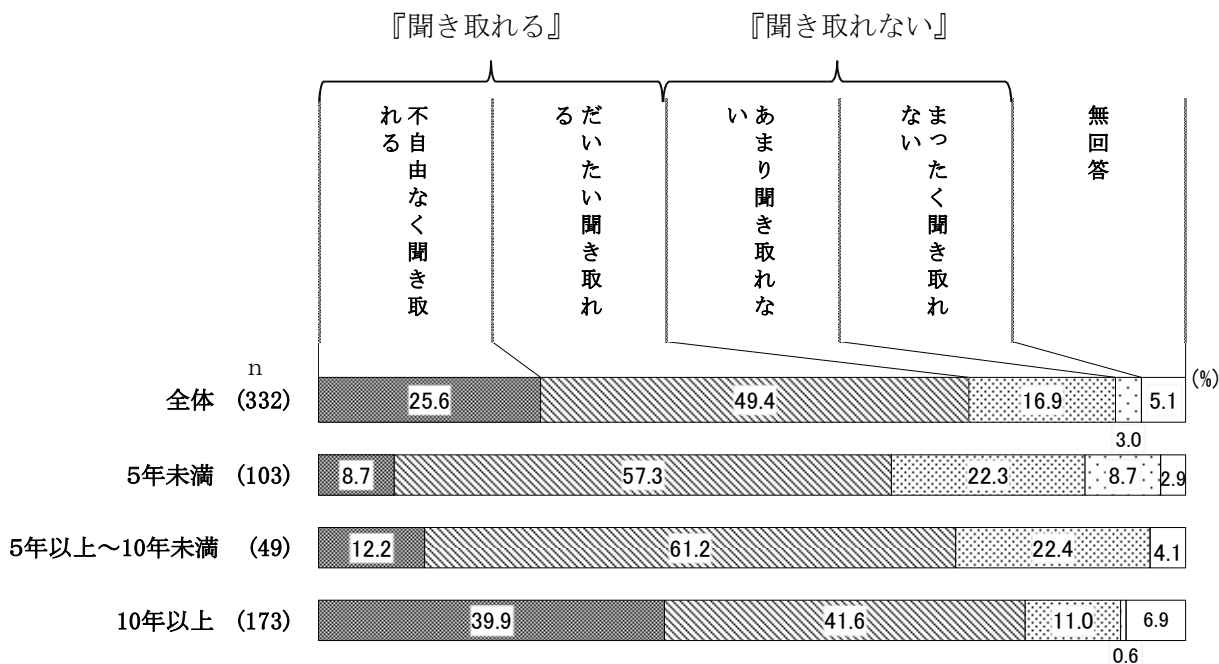
日本での居住期間別にみると、「生活習慣や価値観など、文化の違いを知る」については5年以上～10年未満(73.5%)、5年未満(65.0%)が全体より高くなっている。また、「コミュニケーションを図る」については5年以上～10年未満(59.2%)が全体より多くなっている。

4 ことば

(1) 日本語について

問18 あなたはどれくらい日本語ができますか。(○はそれぞれ一つ)

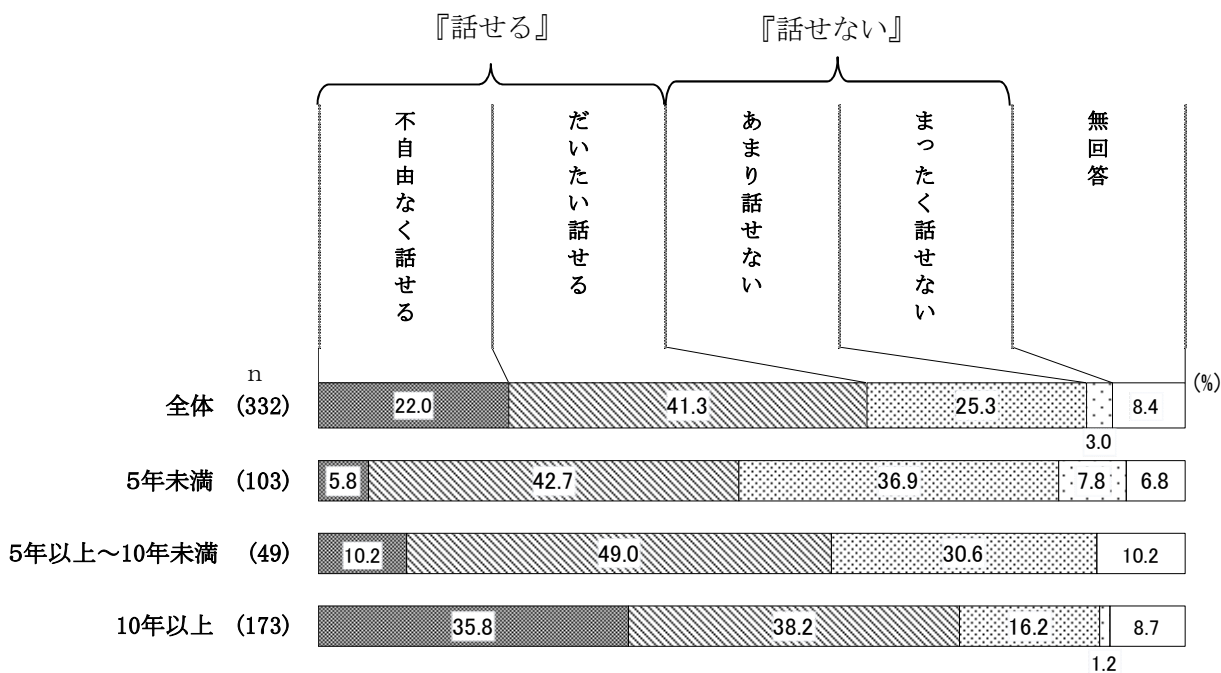
どのくらい日本語ができるか ①会話 (1) 聞くこと



「不自由なく聞き取れる」と「だいたい聞き取れる」を合わせた『聞き取れる』は全体で 75.0%となっている。一方で「あまり聞き取れない」と「まったく聞き取れない」を合わせた『聞き取れない』は全体で 19.9%となっている。

日本での居住期間別にみると、『聞き取れる』については居住年数が長くなるにつれ割合が高くなり、10年以上では 81.5%となっている。

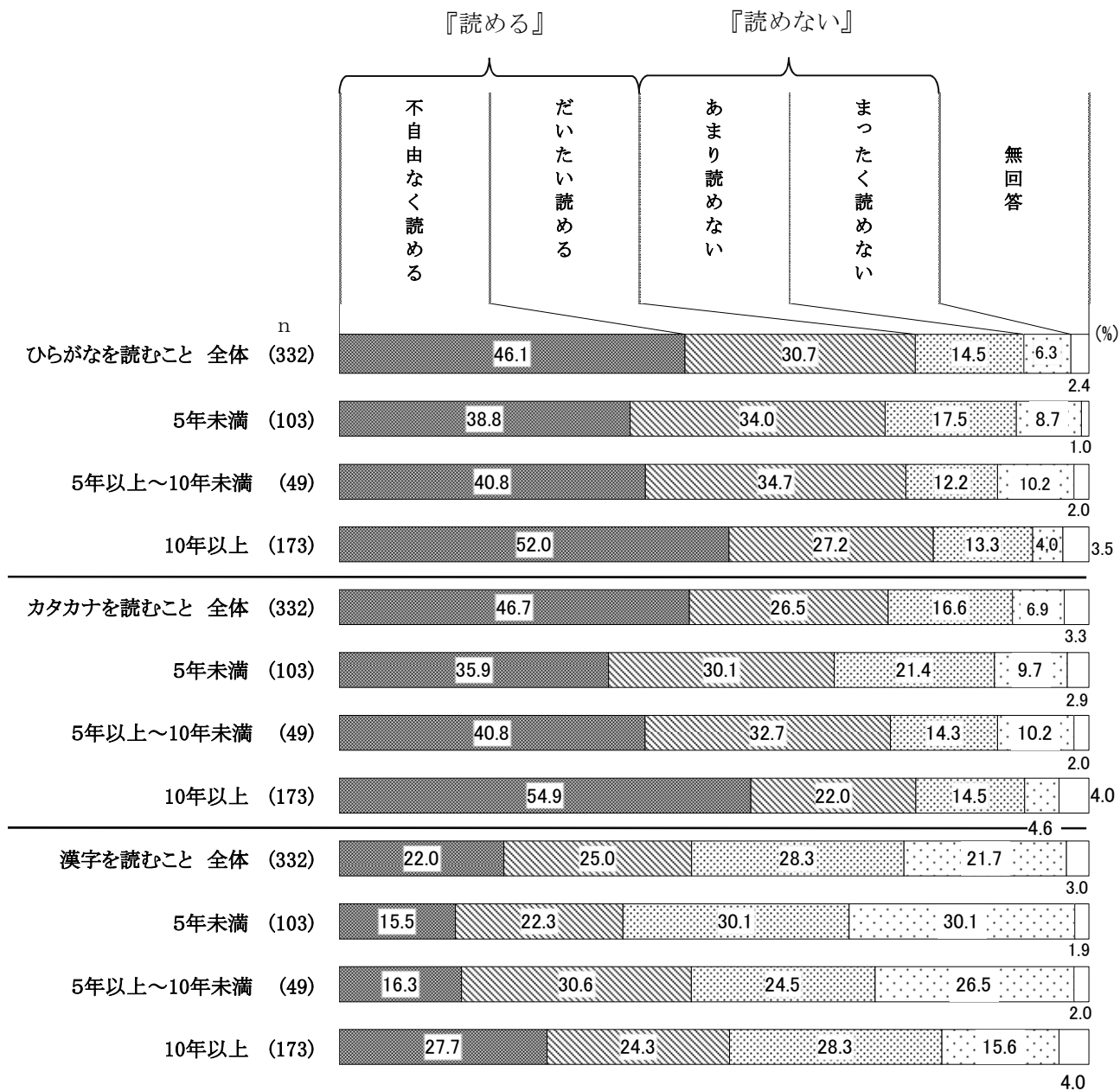
どのくらい日本語ができるか ①会話（2）話すこと



「不自由なく話せる」と「だいたい話せる」を合わせた『話せる』は全体で 63.3%となっている。一方で「あまり話せない」と「まったく話せない」を合わせた『話せない』は全体で 28.3%となっている。

日本での居住期間別にみると、『話せる』については居住年数が長くなるにつれ割合が高くなり、10年以上では 74.0%となっている。

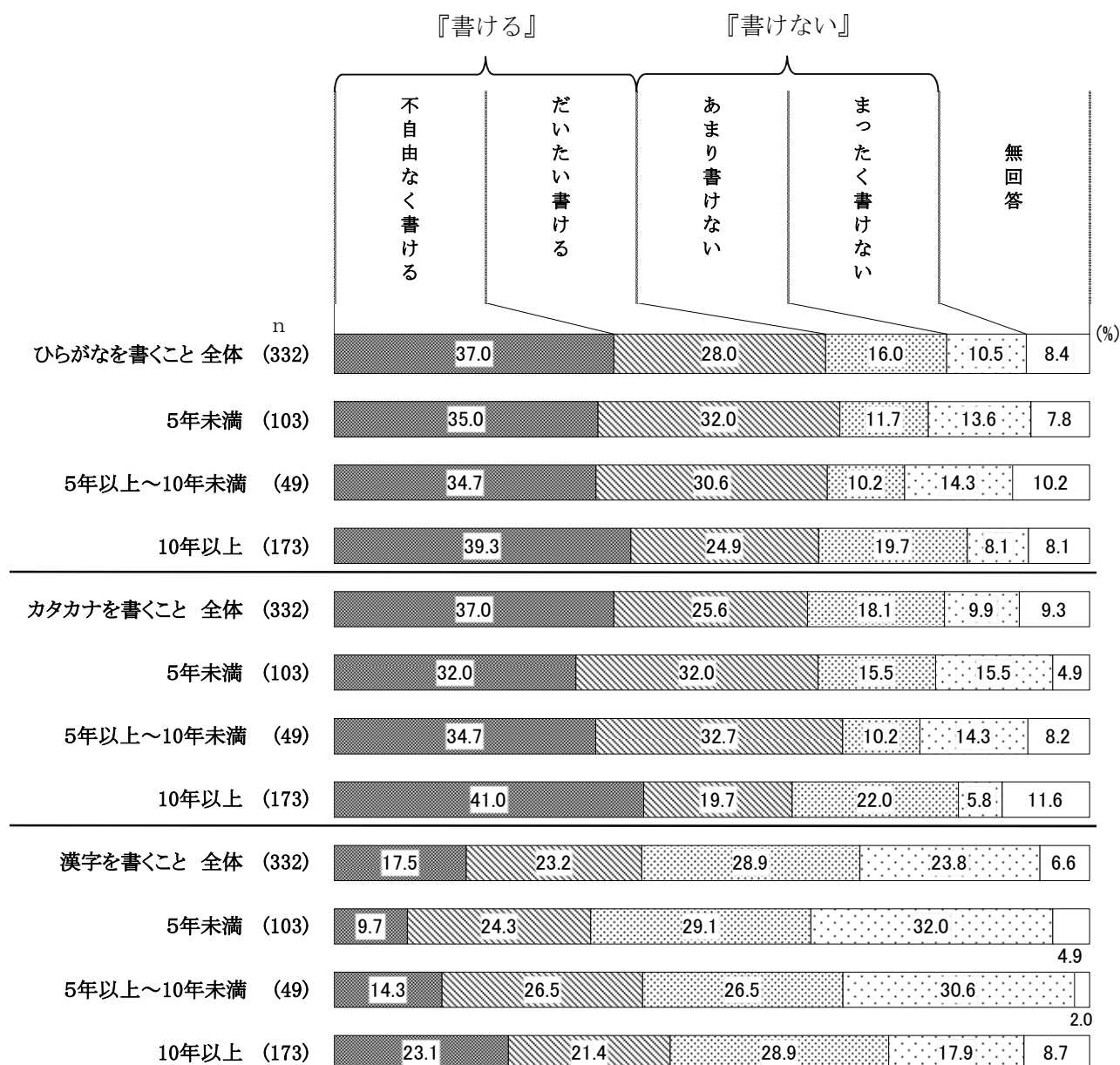
どのくらい日本語ができるか ②読み書き(読むこと) 日本での居住期間別



ひらがなについては「不自由なく読める」と「だいたい読める」を合わせた『読める』が全体で76.8%となっている。また、カタカナについては『読める』が73.2%となっている。一方で、漢字については『読める』が全体で47.0%となっており、他二つに比べ、割合が低くなっている。

日本での居住期間別にみると、年数が長くなるにつれ3つ全てで『読める』人の割合が高くなっている。

どのくらい日本語ができるか ②読み書き(書くこと) 日本での居住期間別



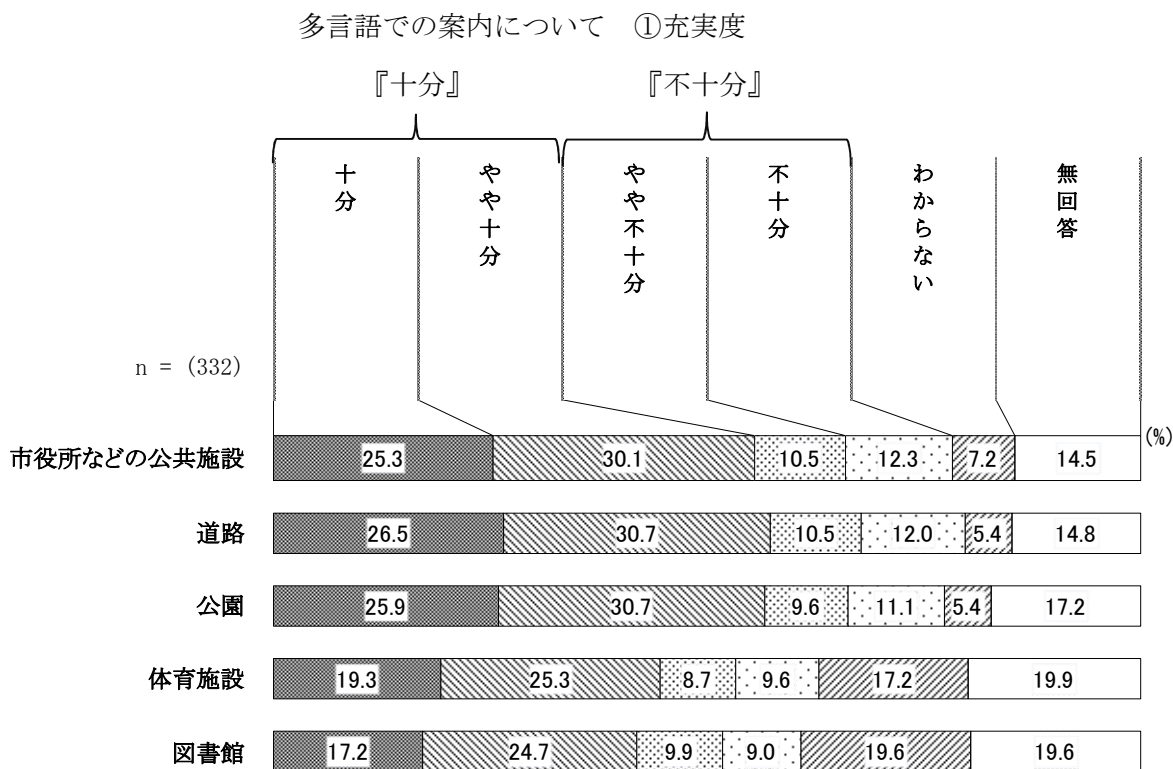
ひらがなについては「不自由なく書ける」と「だいたい書ける」を合わせた『書ける』が全体で65.0%となっている。また、カタカナについては『書ける』が62.6%となっている。一方で、漢字については『書ける』が全体で40.7%となっており、他二つに比べ、割合が低くなっている。

日本での居住期間別にみると、年数が長くなるにつれ3つ全てで『書ける』人の割合が高くなっている。

5 多言語化の対応について

(1) 多言語での案内について

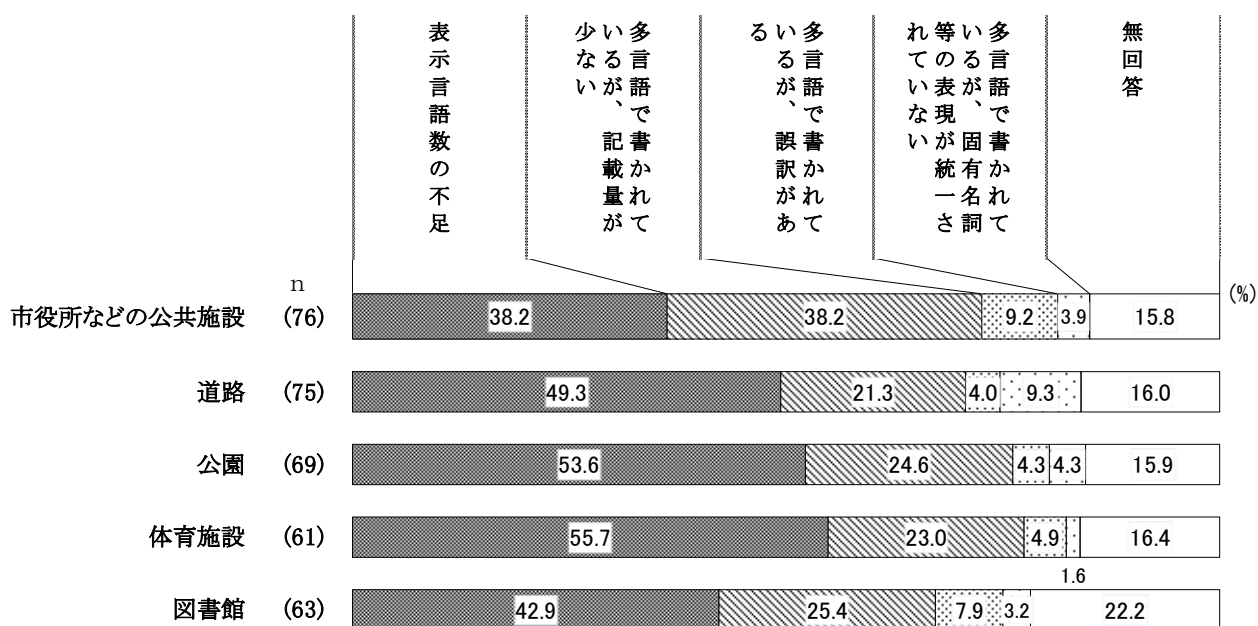
問19 下記の施設などを利用する際、多言語での案内が十分だと感じていますか。



多言語での案内について①充実度では、「十分」と「やや十分」を合わせた『十分』については、「道路」(57.2%)、「公園」(56.6%)、「市役所などの公共施設」(55.4%)の順に高くなっている。

一方、「やや不十分」と「不十分」を合わせた『不十分』については、「市役所などの公共施設」(22.8%)、「道路」(22.5%)、「公園」(20.7%)の順に高くなっている。

多言語での案内について ②不十分の理由



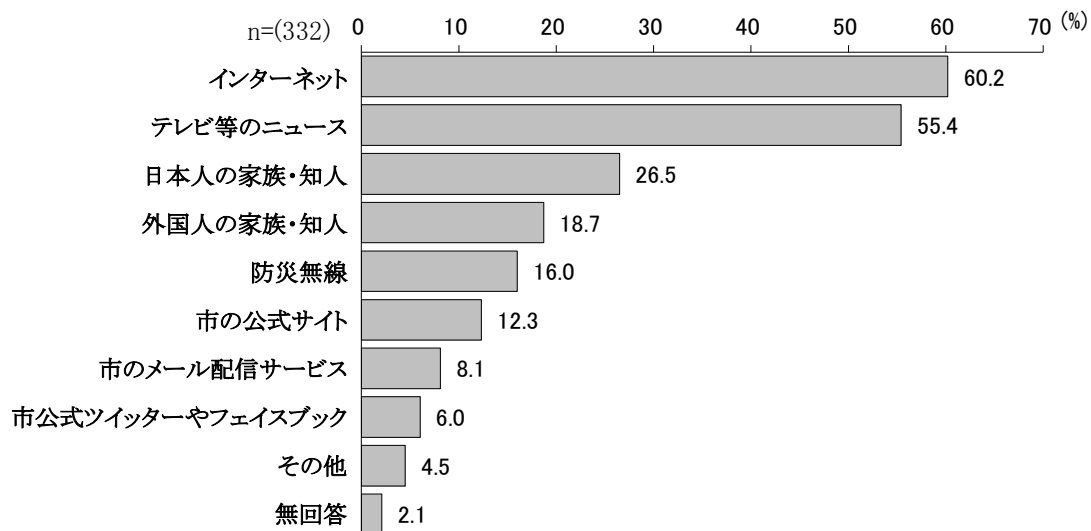
多言語での案内について②不十分の理由では、全ての施設において「表示言語数の不足」と回答した人の割合が高く、特に「体育施設」(55.7%)、「公園」(53.6%)、「道路」(49.3%)の順に高くなっている。

また、「他言語で書かれているが、記載量が少ない」については「市役所などの公共施設」が他の施設に比べて高くなっている。

6 新型コロナウイルス感染症や災害時・緊急時の対応

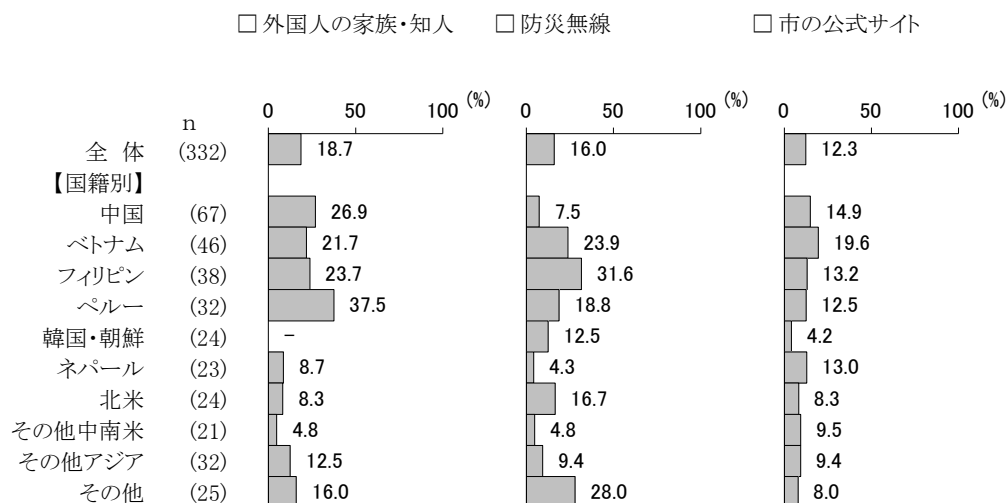
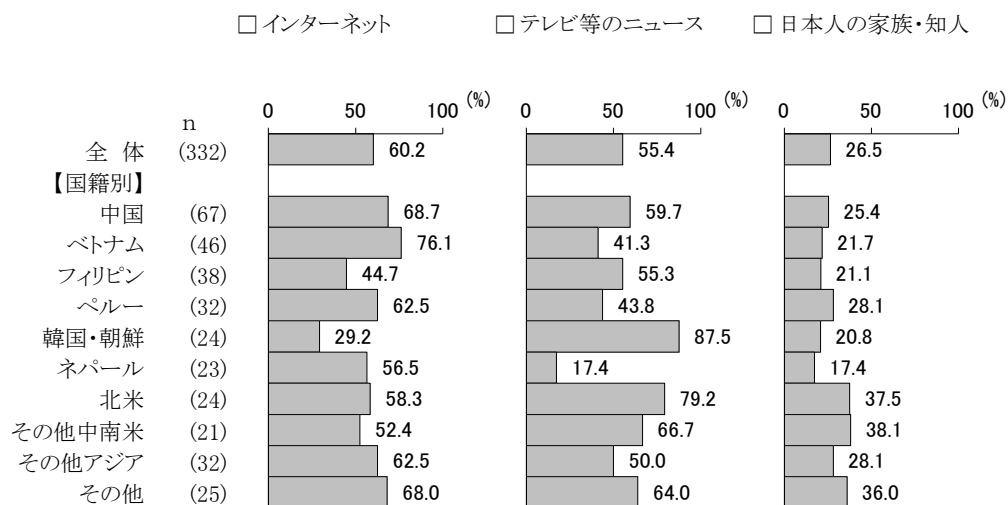
(1) 新型コロナウイルス感染症や災害の情報の収集方法

問20 あなたは、新型コロナウイルス感染症や台風、地震などの災害の情報をどのような方法で調べますか。(〇はいくつでも)



新型コロナウイルス感染症や災害の情報の収集方法では、「インターネット」が60.2%で最も多く、以下、「テレビ等のニュース」(55.4%)、「日本人の家族・知人」(26.5%)、「外国人の家族・知人」(18.7%)となっている。

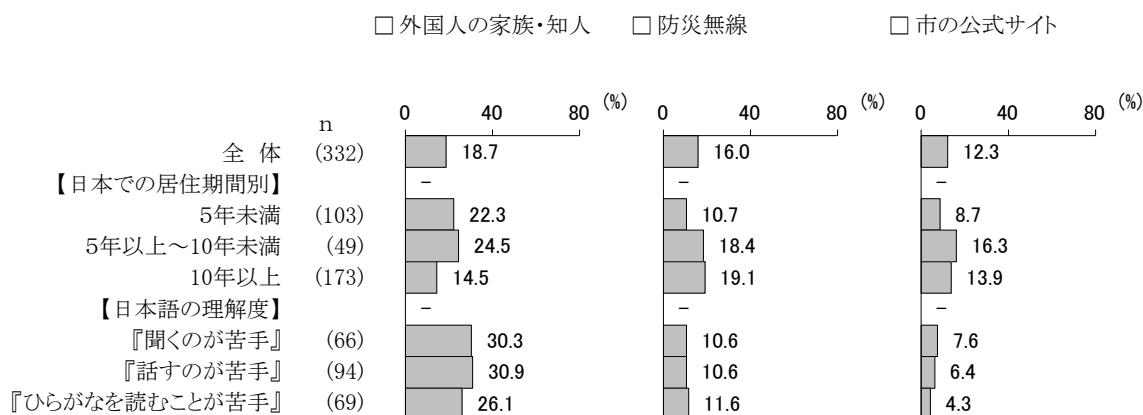
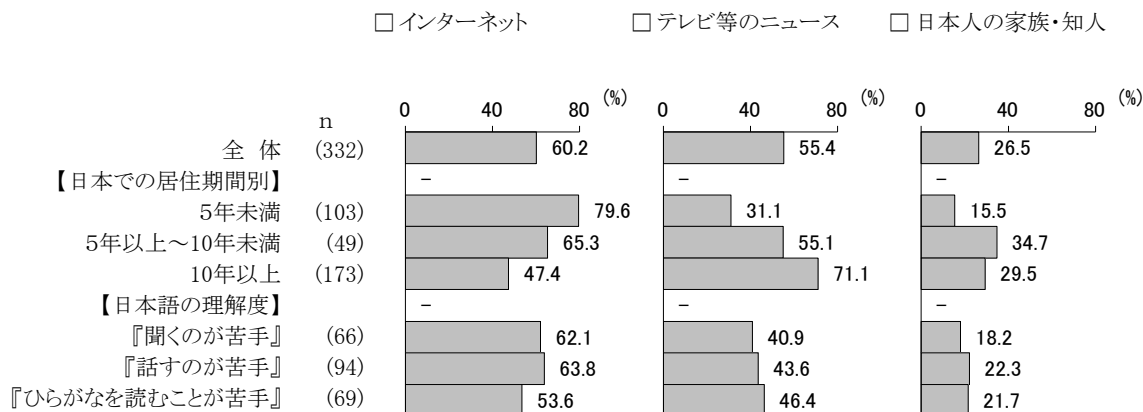
新型コロナウイルス感染症や災害の情報の収集方法 国籍別



上位 6 回答のみ抜粋

国籍別にみると、「インターネット」についてはベトナム(76.1%)、中国(68.7%)、その他(68.0%)が全体より高くなっている。「テレビ等のニュース」については韓国・朝鮮(87.5%)、北米(79.2%)、その他中南米(66.7%)、その他(64.0%)、「日本人の家族・知人」についてはその他中南米(38.1%)、北米(37.5%)、その他(36.0%)、「外国人の家族・知人」についてはペルー(37.5%)、中国(26.9%)、フィリピン(23.7%)、「防災無線」についてはフィリピン(31.6%)、その他(28.0%)、ベトナム(23.9%)、「市の公式サイト」についてはベトナム(19.6%)が全体より高くなっている。

新型コロナウイルスや災害の情報の収集方法 日本での居住期間・日本語の理解度別



上位6回答のみ抜粋

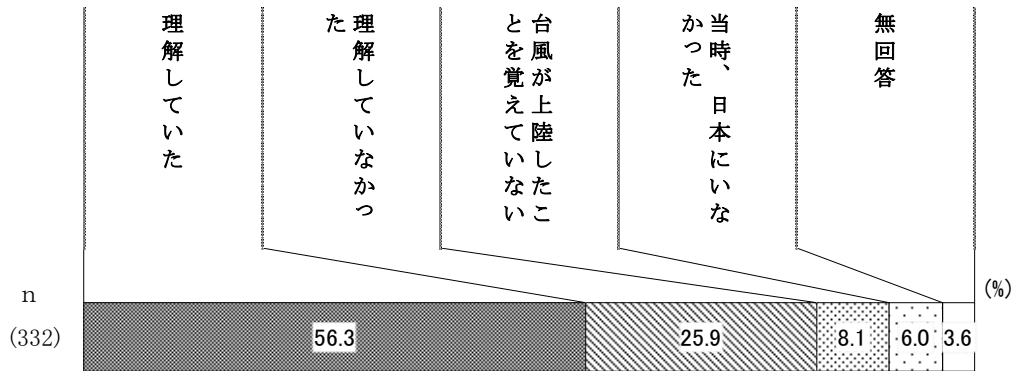
日本での居住期間別にみると、「インターネット」については5年未満(79.6%)、5年以上～10年未満(65.3%)が全体より高くなっている。「テレビ等のニュース」については10年以上(71.1%)、「日本人の家族・知人」については5年以上～10年未満(34.7%)、「外国人の家族・知人」については5年以上～10年未満(24.5%)が全体より高くなっている。

日本語の理解度別にみると、「外国人の家族・知人」については『聞くのが苦手』(30.3%)、『話すのが苦手』(30.9%)、『ひらがなを読むことが苦手』(26.1%)で全体より高くなっている。

一方、「テレビ等のニュース」、「日本人の家族・知人」、「防災無線」、「市の公式サイト」については、『聞くのが苦手』・『話すのがが苦手』・『ひらがなを読むことが苦手』のいずれも全体に比べて低くなっている。

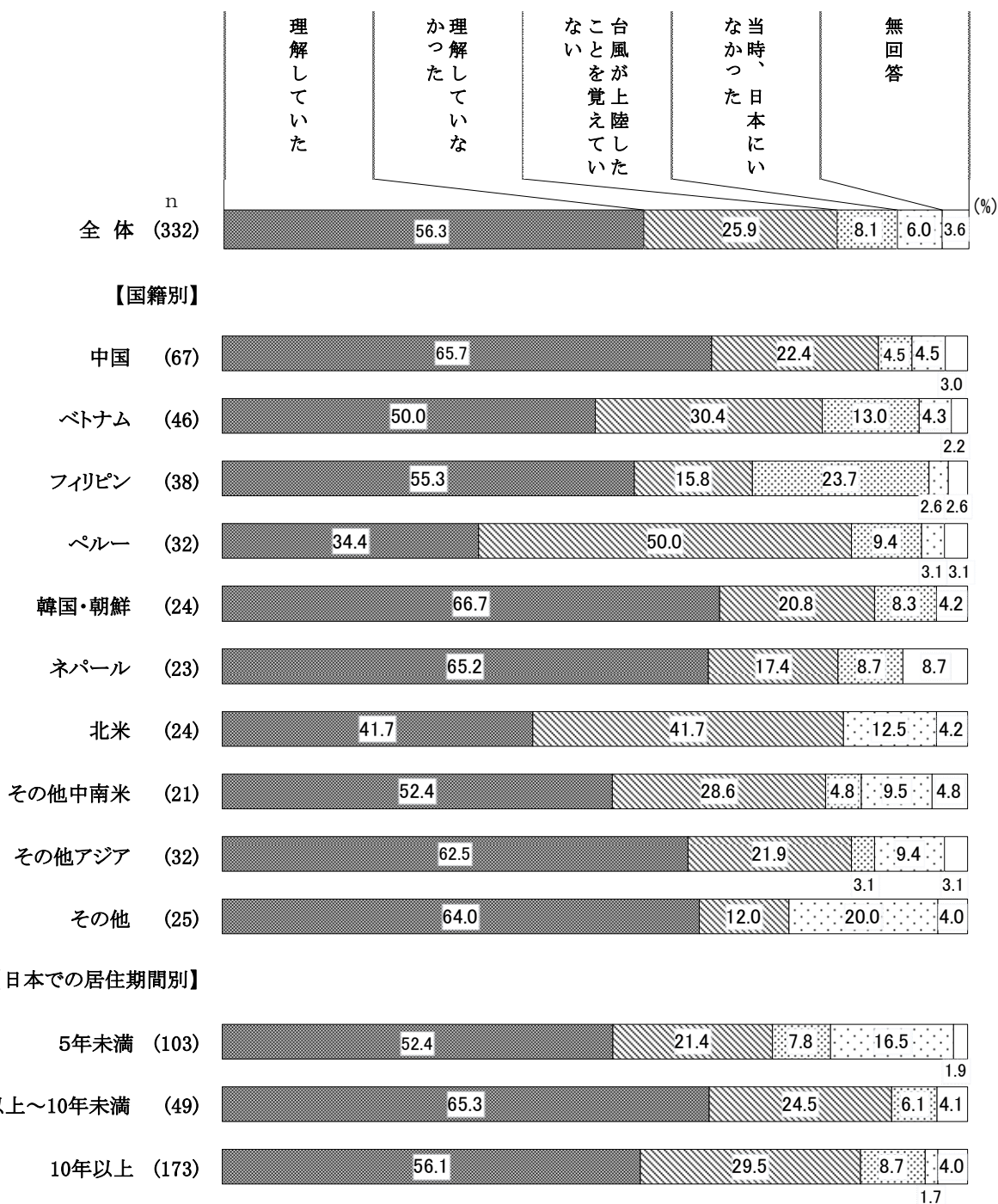
(2) 昨年(2019年)の台風(台風第19号)の避難指示の認知度

問21 昨年(2019年)の10月12日に、日本に大きな台風(台風第19号)が上陸した際、市では避難指示を発令しました。市で避難指示が出ていたことを理解していましたか。(〇は一つだけ)



昨年の台風の避難指示の認知度では、「理解していた」が56.3%で最も多く、以下、「理解していなかった」(25.9%)、「台風が上陸したことを覚えていない」(8.1%)、「当時、日本にいなかった」(6.0%)となっている。

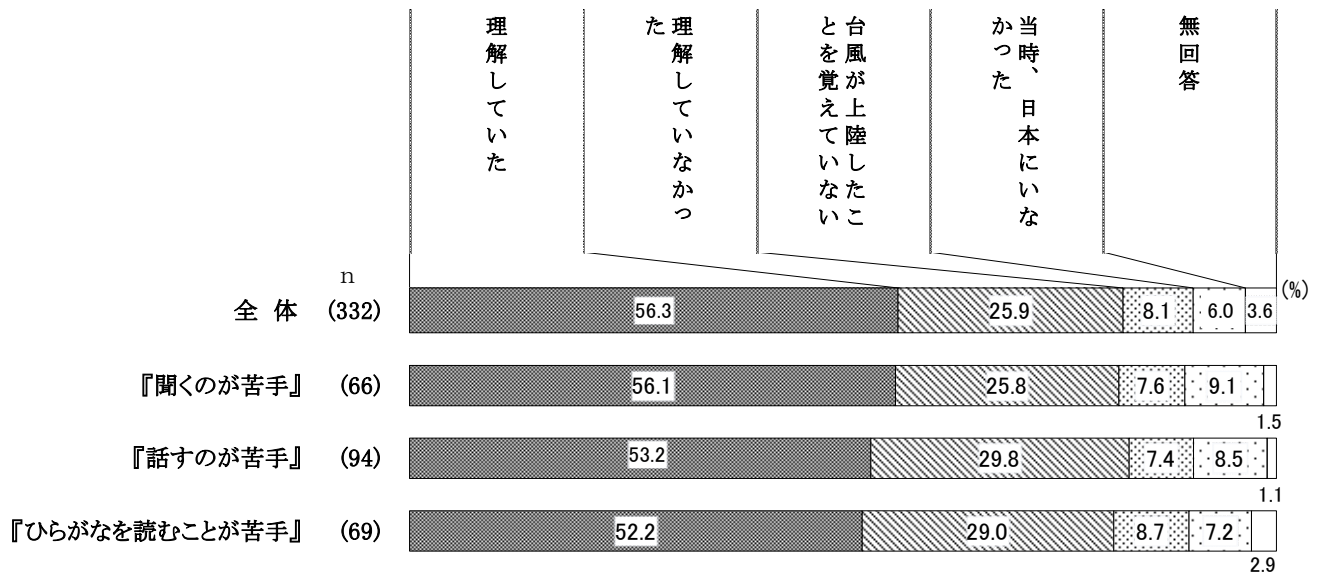
昨年の台風の避難指示の認知度 国籍・日本での居住期間別



国籍別にみると、「理解していた」については韓国・朝鮮(66.7%)、中国(65.7%)、ネパール(65.2%)、その他(64.0%)、その他アジア(62.5%)が全体より高くなっている。また、「理解してなかった」についてはペルー(50.0%)、北米(41.7%)、「台風が上陸したことを覚えていない」についてはフィリピン(23.7%)、「当時、日本にいなかった」についてはその他(20.0%)、北米(12.5%)が全体より高くなっている。

日本での居住期間別にみると、「理解していた」については5年以上～10年未満(65.3%)が全体より高くなっている。

昨年の台風の避難指示の認知度 日本語の理解度別



日本語の理解度別にみると、『聞くのが苦手』・『話すのがが苦手』・『ひらがなを読むことが苦手』のいずれも全体との間に大きな差は見られなかった。

(3) 新型コロナウイルス感染症や災害の対策で困ったこと

問22 新型コロナウイルス感染症や台風、地震などの災害の対策で困ったことはどんなことですか。具体的にお書きください。

新型コロナウイルス感染症や台風、地震などの災害対策で困ったことを自由に記述していただいたところ、134票の様々な意見が寄せられた。1票に複数の意見が記入されている場合があるため、意見数の合計は141件となっている。その中から、抜粋した意見を分野ごとに記載した。なお表現・表記方法については原則として回答を尊重し、そのままの掲載としているが、内容については意見の趣旨を損なわないよう、一部要約したものもある。

分類	件数
外国語対応について	33
避難・物資の普及等について	23
仕事について	15
情報提供について	10
外出自粛について	4
新型コロナウイルス感染症の検査・ワクチンについて	4
出国・入国について	2
その他	50
合計	141

主な意見

1. 外国語対応について

- ・外国語対応の防災案内パンフレットがありません。もし今後可能ならば、外国語ができる防災案内の専門職員に具体的な案内などをしてほしいです。
- ・日本語が分からないから、ラジオ放送の内容は基本的に分かりません。緊張してとても怖いです。もしメールで情報を配信してもらえれば、安心できると思います。後は防災対策として準備した防災用品が足りているかどうか心配です。三歳くらいの子どものがいるので、防災訓練に参加したことがなくて、ちょっと不安です。
- ・緊急時の大声のアナウンスは理解出来ません。ウェブサイトに日時を入れて情報を掲載すれば、外国人居住者はそれを見て、理解が出来ると思います。
- ・言葉、言語の問題があります（日本語が分かりません）。日本語のお知らせやガイドラインなど、すべて読めません。

- ・避難所に関する情報が不足していました。市は警報を鳴らした後日本語で話すので、支援に関して何が言われているのかわからない外国人が間違いなくいました。また、誰かが新型コロナウイルス感染症に感染しても、日本語で情報が伝えられるので、理解できず、どこで誰とコミュニケーションを取ればいいのかかわからない外国人はいると思います。
- ・詳細な情報がまだ把握できません。新型コロナウイルス感染症に感染したかもしれないときに、どこに連絡して何をすべきなのか等外国人向けガイドラインがありません。
- ・私が聞くアナウンスは常に日本語なので、英語での情報を知りたいときはインターネット上の翻訳サービスを使用する必要があります。

2. 避難・物資の普及等について

- ・最初のころマスクを買えるところがなくて困りました。また、大きな台風や地震が起きたときに避難や食料など生活用品の確保が心配です。
- ・自分は避難の必要があるかどうか分かりません。
- ・台風や地震が発生した時に、どうやって避難すればいいのか、どこに避難すればいいのか、いつ避難したらいいのかがよく分かりません。
- ・妻（日本の市民）と私は台風の避難通知を知りませんでした。台風19号のときの避難を意識して、羽村市の広報を読んでいます。

3. 仕事について

- ・日本は新型コロナウイルス感染症対策として在宅勤務が必須ではないこと。強制でなければ多くの企業では在宅勤務を実施しません。毎日、満員電車出勤するのが不安です。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、仕事が少なくなって収入も減りました。
- ・新型コロナウイルス感染症のため、働きに行けない日々です。

4. 情報提供について

- ・一般的な情報についてはインターネットなどで入手できますが、地域情報については入手しづらいです。
- ・新型コロナウイルス感染症に感染した時の対応法をもっと知りたいです。健康センターに相談する以外のことや、個人ではどんなことをしたらよいか全然分かりません。対策情報をもっと知りたいです。

第3章 外国人住民用調査結果の詳細

- ・停電になった時どうすればいいか分かりません。

5. 外出自粛について

- ・中々外出できなくなって手続き上困っています。
- ・新型コロナウイルス感染症は心配です。特に日本の子ども達は外出したり、通りで遊んだりできないのでかわいそうです。

6. 新型コロナウイルス感染症の検査・ワクチンについて

- ・検査機関が少ないと思います。
- ・全員の検査をしてほしいです。多くの人が抗体を持っているかもしれません。

7. 出国・入国について

- ・仕事の減少が収入の減少に繋がりました。妻と子どもは日本への入国を許可されていません。
- ・1月にギニアに行きました。3月に日本に帰国する必要がありましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、帰ることができず、また、すべての空港が閉鎖されていたため、7か月半滞在しました。

8. その他

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策は徹底していないため、毎日感染者が増え続けています。いつ終息できるか先行きが見えません。学校は毎日オンライン授業ばかりで、留学する意味が分からなくなりました。
- ・日本の感染拡大防止対策は中国みたいに厳しくないと感じます。
- ・新型コロナウイルス感染症に関する注意情報があるのは理解しています。しかし台風19号の際に出された避難情報は、我々に対してではなく、川の近くに住んでいる人たちのためのものだと理解していました。
- ・特にありません。事前の準備を常にしています。どのように生き延びるのかということに関する知識を学んでいます。
- ・子どもがいるので心配ですが、地震や台風、その他について政府の行っている対策を見ると、特に心配しなくてよい気がします。私達の住む地域は行政が市民のために行っていることのおかげで非

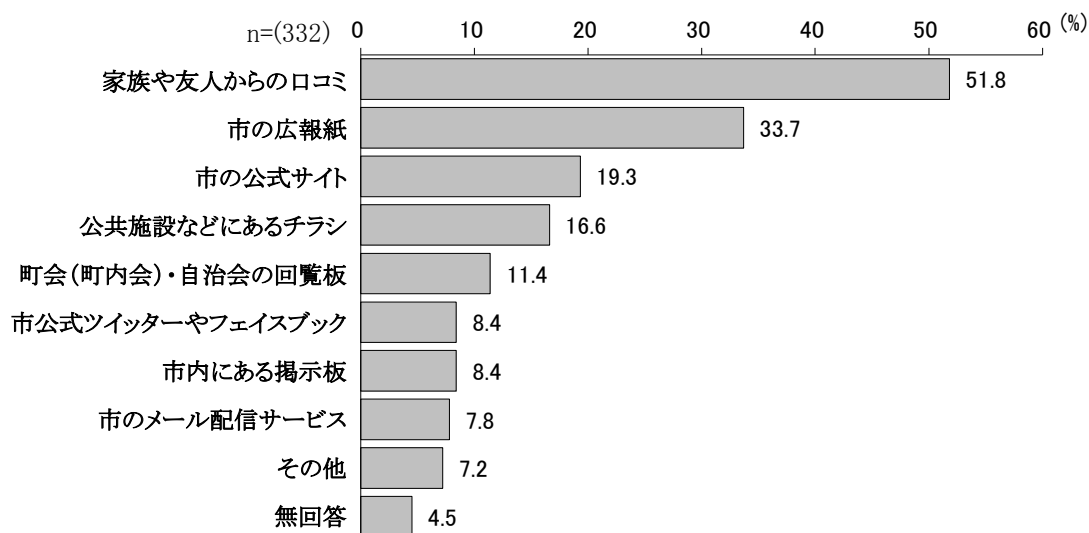
常に安定しています。

- ・台風については問題があったことはありません。新型コロナウイルス感染症については、生活の方式が変わったため、たくさん問題があります（例えば、出かける時にマスクをつけることなど）。

7 必要な情報・サービスについて

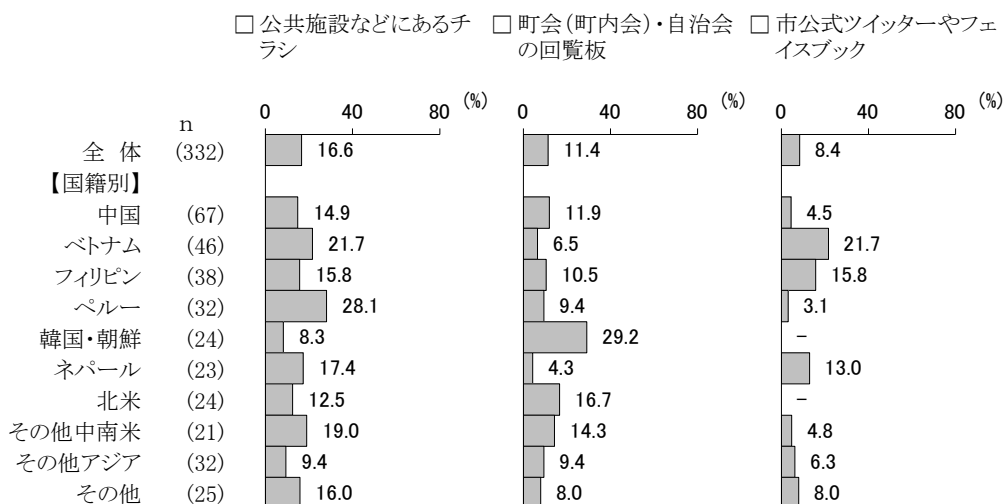
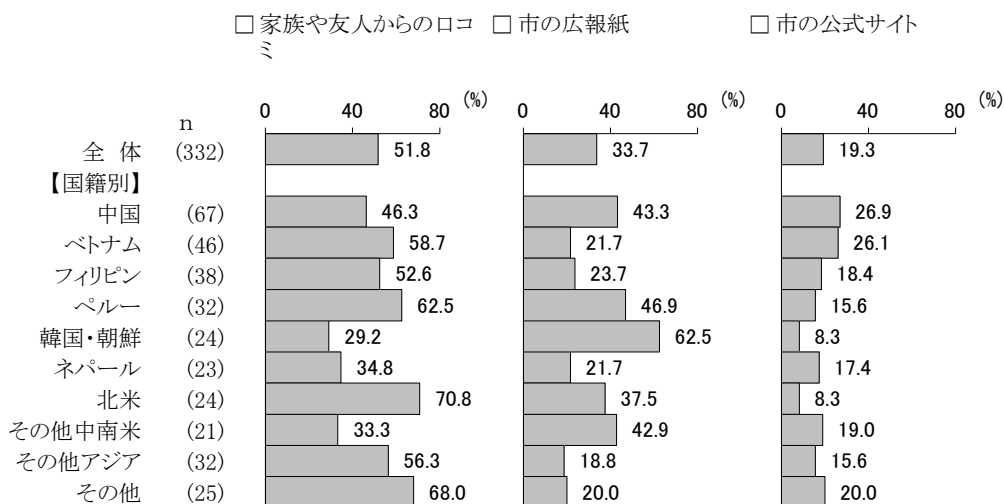
(1) 市や地域のお知らせなどの情報入手媒体

問23 あなたは、市や地域のお知らせなどの情報を入手するために、どのような媒体を使いますか。(〇はいくつでも)



市や地域のお知らせなどの情報入手媒体では、「家族や友人からの口コミ」が51.8%で最も多く、以下、「市の広報紙」(33.7%)、「市の公式サイト」(19.3%)、「公共施設などにあるチラシ」(16.6%)となっている。

市や地域のお知らせなどの情報入手媒体 国籍別

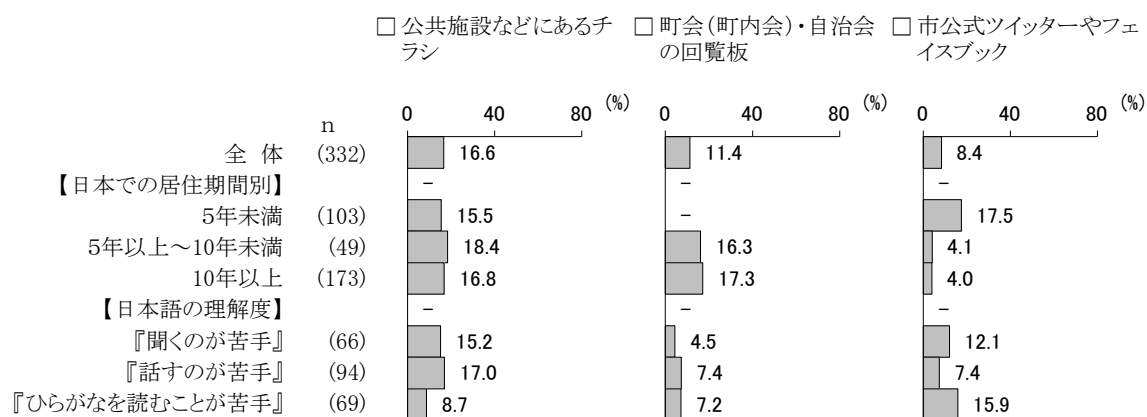
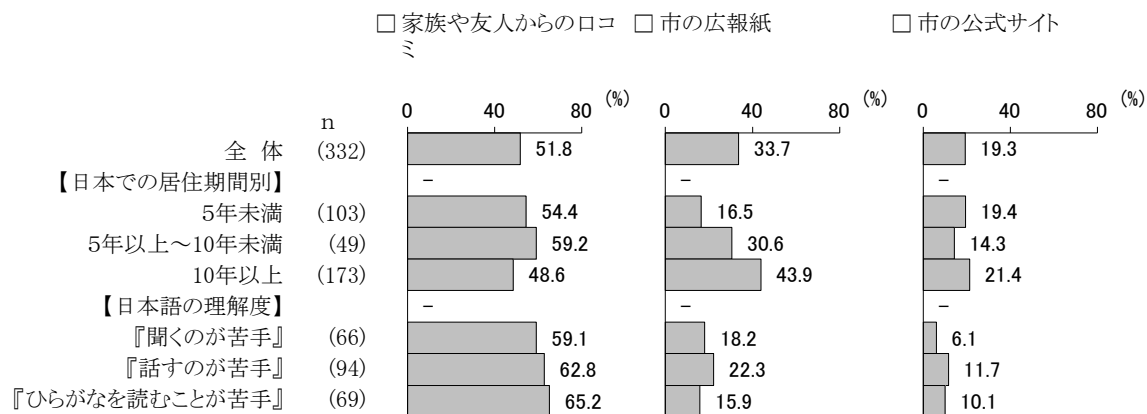


上位6回答のみ抜粋

国籍別にみると、「家族や友人からの口コミ」については北米(70.8%)、その他(68.0%)、ペルー(62.5%)、ベトナム(58.7%)が全体より高くなっている。また、「市の広報紙」については韓国・朝鮮(62.5%)、ペルー(46.9%)、中国(43.3%)、その他中南米(42.9%)、「市の公式サイト」については中国(26.9%)、ベトナム(26.1%)、「公共施設などにあるチラシ」についてはペルー(28.1%)、ベトナム(21.7%)、「町会(町内会)・自治会の回覧板」については韓国・朝鮮(29.2%)、北米(16.7%)、「市公式ツイッターやフェイスブック」についてはベトナム(21.7%)、フィリピン(15.8%)が全体より高くなっている。

第3章 外国人住民用調査結果の詳細

市や地域のお知らせなどの情報入手媒体 日本での居住期間・日本語の理解度別



上位6回答のみ抜粋

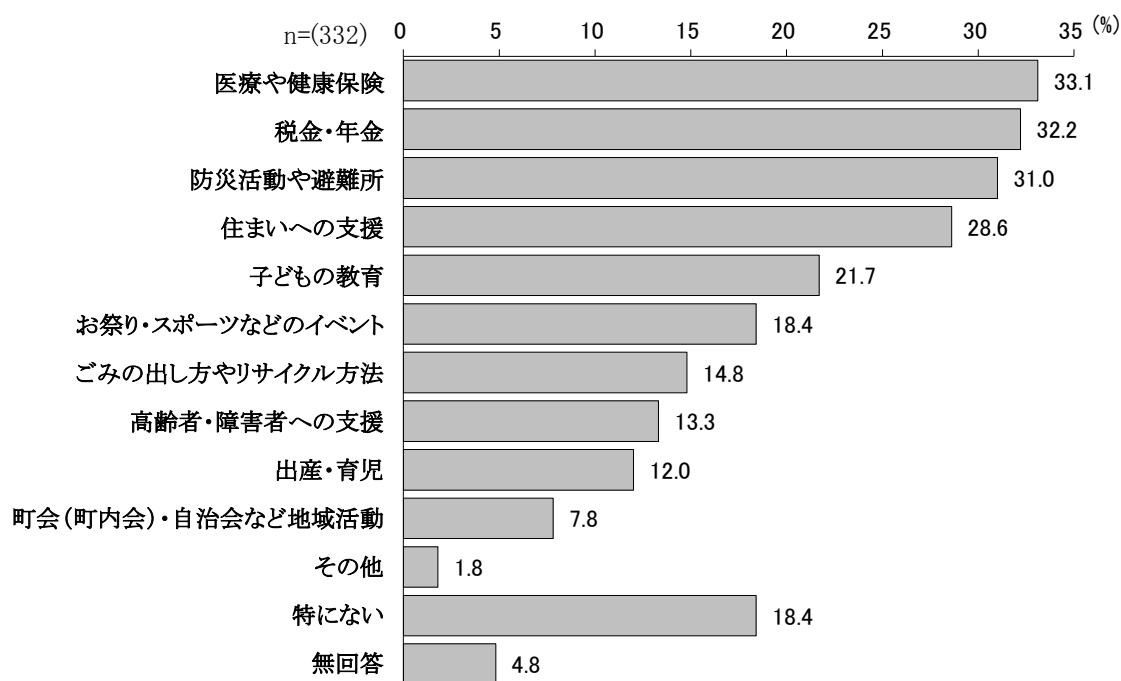
日本での居住期間別にみると、「家族や友人からの口コミ」については5年以上～10年未満(59.2%)が全体より高くなっている。また、「市の広報紙」については10年以上(43.9%)、「町会(町内会)・自治会の回覧版」については10年以上(17.3%)、「市公式ツイッターやフェイスブック」については5年未満(17.5%)が全体より高くなっている。

日本語の理解度別にみると、「家族や友人からの口コミ」については『ひらがなを読むことが苦手』(65.2%)、『話すのが苦手』(62.8%)、『聞くのが苦手』(59.1%)で全体より高くなっている。また、「市公式ツイッターやフェイスブック」については『ひらがなを読むことが苦手』(15.9%)が全体より高くなっている。

一方、「市の広報紙」と「市の公式サイト」「町会(町内会)・自治会の回覧版」については、『聞くのが苦手』・『話すのがが苦手』・『ひらがなを読むことが苦手』のいずれも全体に比べて低くなっている。

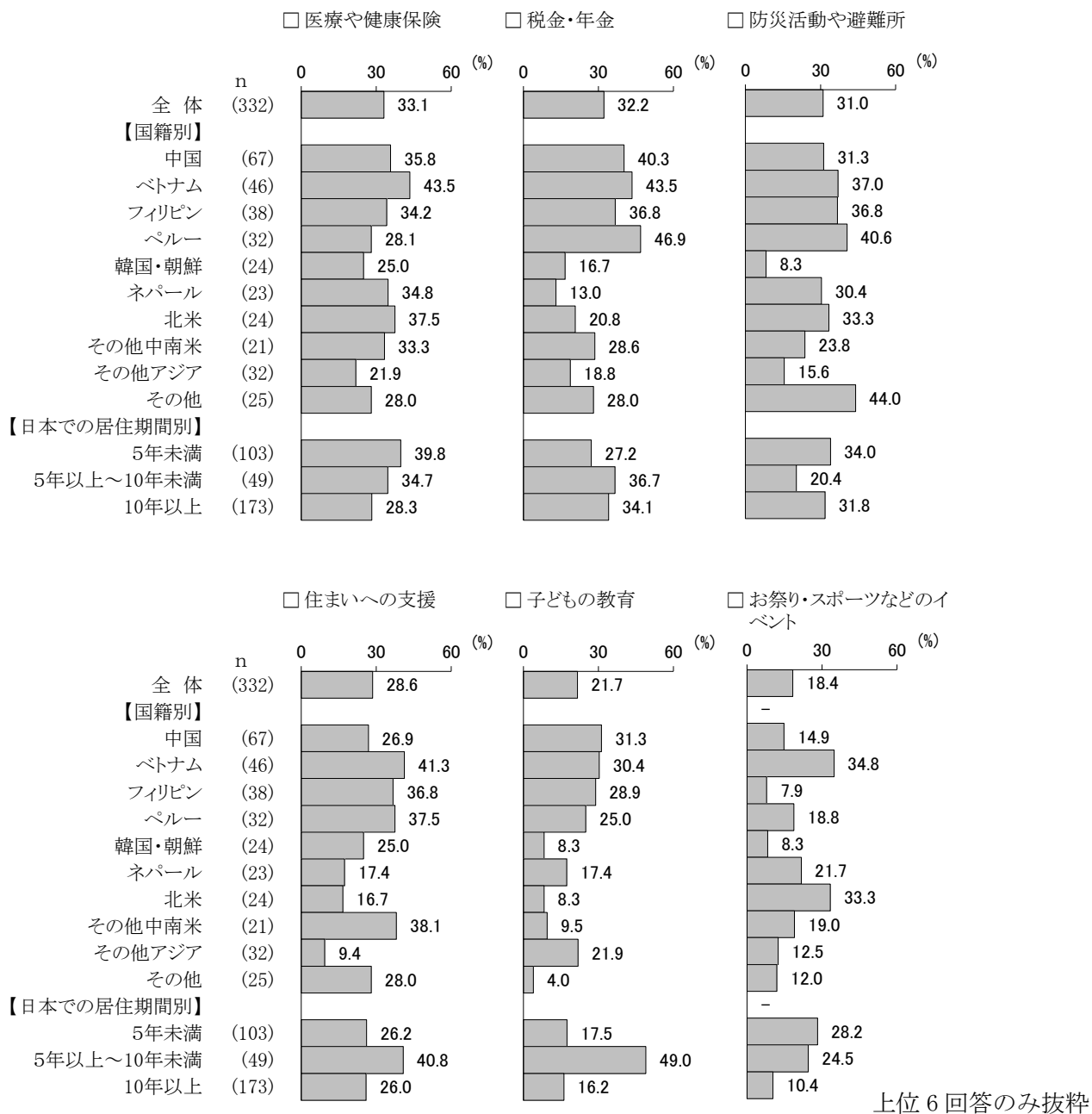
(2) 生活する上で知りたい情報

問24 市で生活していく上で、どんな情報をもっと知りたいですか。(〇はいくつでも)



生活する上で知りたい情報では、「医療や健康保険」が33.1%で最も多く、以下、「税金・年金」(32.2%)、「防災活動や避難所」(31.0%)、「住まいへの支援」(28.6%)となっている。

生活する上で知りたい情報 国籍・日本での居住期間別



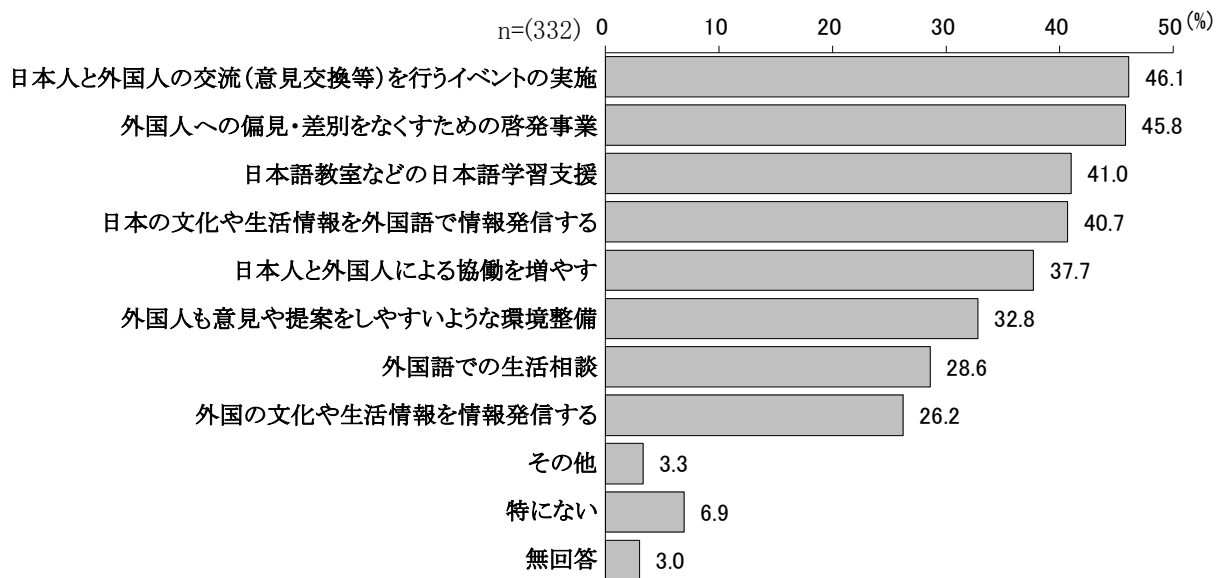
国籍別にみると、「医療や健康保険」についてはベトナム(43.5%)が全体より高くなっている。また、「税金・年金」についてはペルー(46.9%)、ベトナム(43.5%)、中国(40.3%)、「防災活動や避難所」についてはその他(44.0%)、ペルー(40.6%)、ベトナム(37.0%)、フィリピン(36.8%)、「住まいへの支援」についてはベトナム(41.3%)、その他中南米(38.1%)、ペルー(37.5%)、フィリピン(36.8%)、「子どもの教育」については中国(31.3%)、ベトナム(30.4%)、フィリピン(28.9%)、「お祭り・スポーツなどのイベント」についてはベトナム(34.8%)、北米(33.3%)が全体より高くなっている。

日本での居住期間別にみると、「医療や健康保険」については5年未満(39.8%)が全体より高くなっている。また、「住まいへの支援」については5年以上～10年未満(40.8%)、「子どもの教育」については5年以上～10年未満(49.0%)、「お祭り・スポーツなどのイベント」については5年未満(28.2%)、5年以上～10年未満(24.5%)が全体より高くなっている。

8 多文化共生のまちづくり

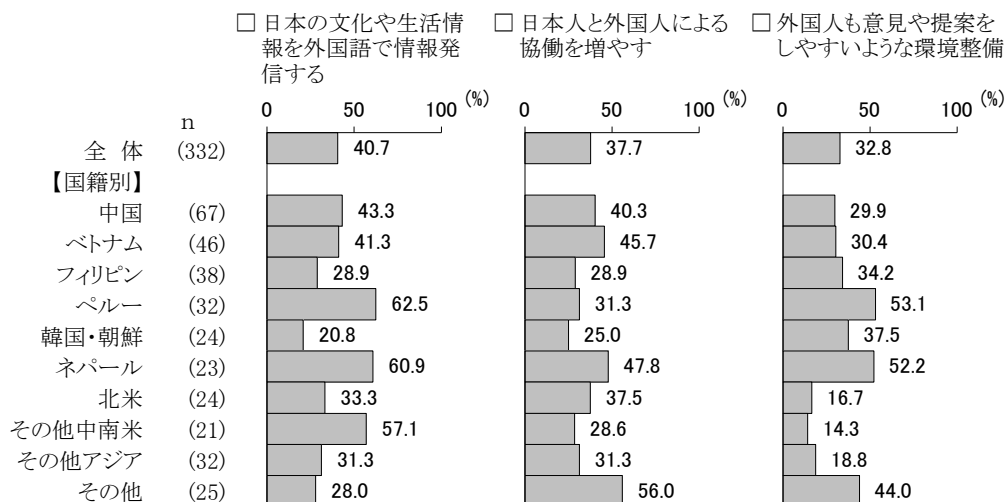
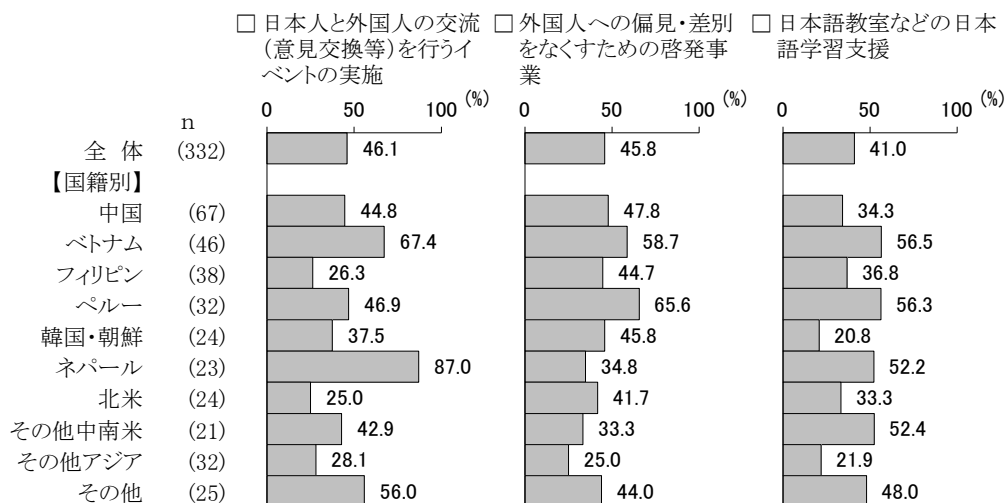
(1) 「多文化共生のまちづくり」の推進のために市でやるべきこと

問25 「多文化共生のまちづくり」を進めるために、今後の市の取り組みとして、どのようなことを進めるべきだと思いますか。(〇はいくつでも)



「多文化共生のまちづくり」の推進のために市でやるべきことでは、「日本人と外国人の交流（意見交換等）を行うイベントの実施」が46.1%で最も多く、以下、「外国人への偏見・差別をなくすための啓発事業」（45.8%）、「日本語教室などの日本語学習支援」（41.0%）、「日本の文化や生活情報を外国語で情報発信する」（40.7%）となっている。

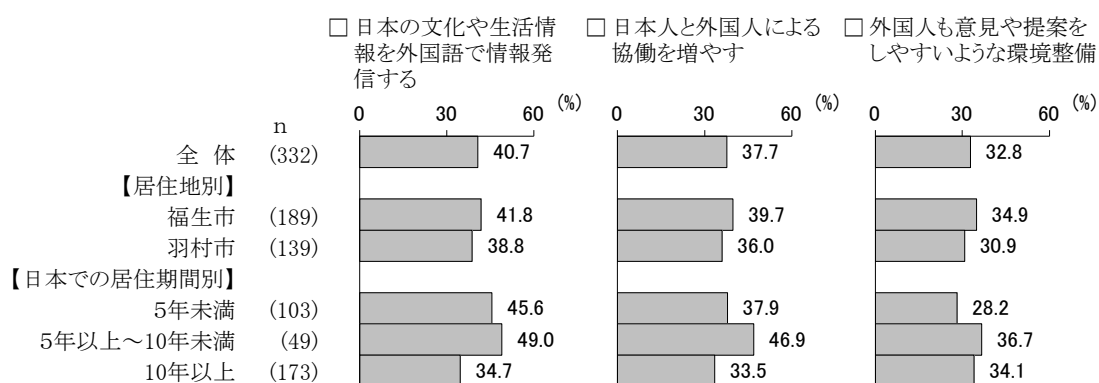
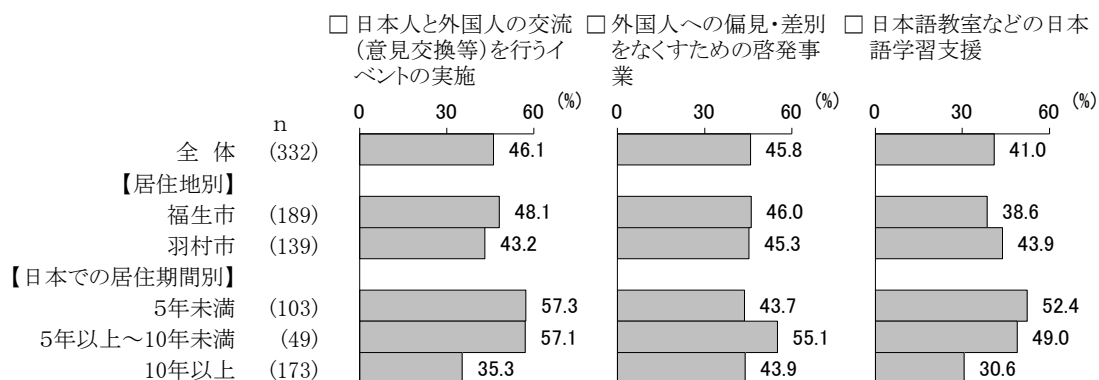
「多文化共生のまちづくり」の推進のために市でやるべきこと 国籍別



上位6回答のみ抜粋

国籍別にみると、「日本人と外国人の交流（意見交換等）を行うイベントの実施」についてはネパール(87.0%)、ベトナム(67.4%)、その他(56.0%)が全体より高くなっている。また「外国人への偏見・差別をなくすための啓発事業」についてはペルー(65.6%)、ベトナム(58.7%)、「日本語教室などの日本語学習支援」についてはベトナム(56.5%)、ペルー(56.3%)、その他中南米(52.4%)、ネパール(52.2%)、その他(48.0%)、「日本の文化や生活情報を外国語で情報発信する」についてはペルー(62.5%)、ネパール(60.9%)、その他中南米(57.1%)、「日本人と外国人による協働を増やす」についてはその他(56.0%)、ネパール(47.8%)、ベトナム(45.7%)、「外国人も意見や提案をしやすいような環境整備」についてはペルー(53.1%)、ネパール(52.2%)、その他(44.0%)が全体より高くなっている。

「多文化共生のまちづくり」の推進のために市でやるべきこと 居住地・日本での居住期間別



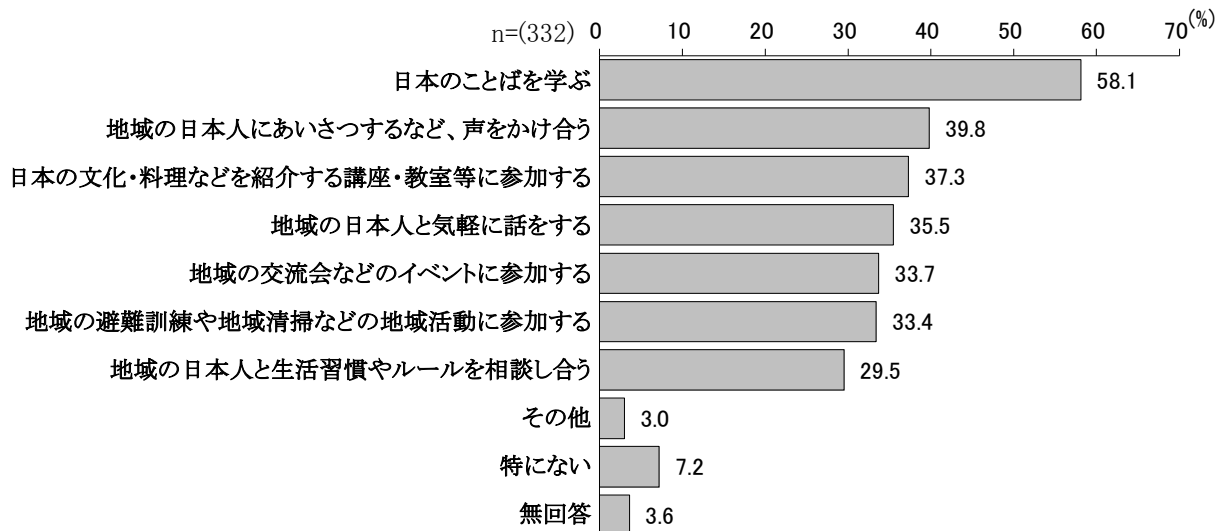
上位6回答のみ抜粋

居住地別にみると、「日本語教室などの日本語学習支援」については羽村市(43.9%)が福生市(38.6%)より5.3ポイント高くなっている。

日本での居住期間別にみると、「日本人と外国人の交流(意見交換等)を行うイベントの実施」については5年未満(57.3%)、5年以上～10年未満(57.1%)が全体より高くなっている。また、「外国人への偏見・差別をなくすための啓発事業」については5年以上～10年未満(55.1%)、「日本語教室などの日本語学習支援」については5年未満(52.4%)、5年以上～10年未満(49.0%)、「日本の文化や生活情報を外国語で情報発信する」については5年以上～10年未満(49.0%)、「日本人と外国人による協働を増やす」については5年以上～10年未満(46.9%)が全体より高くなっている。

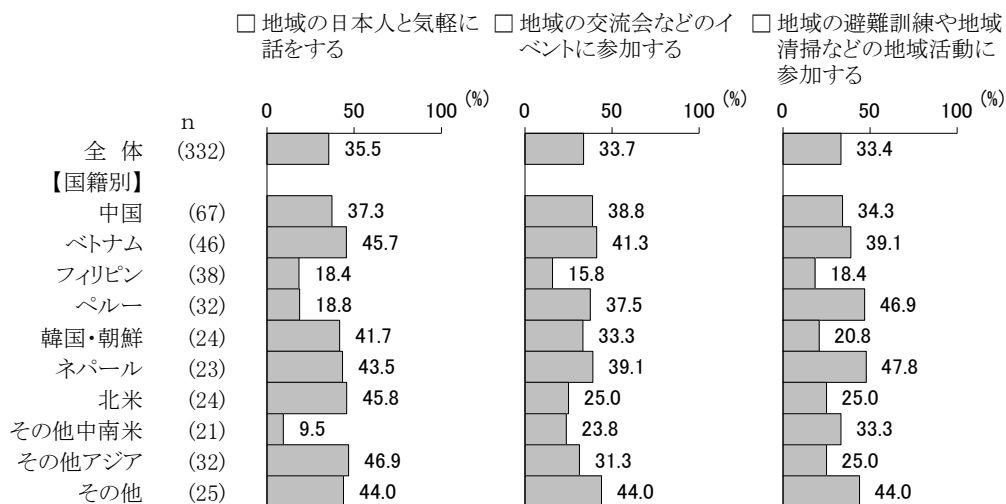
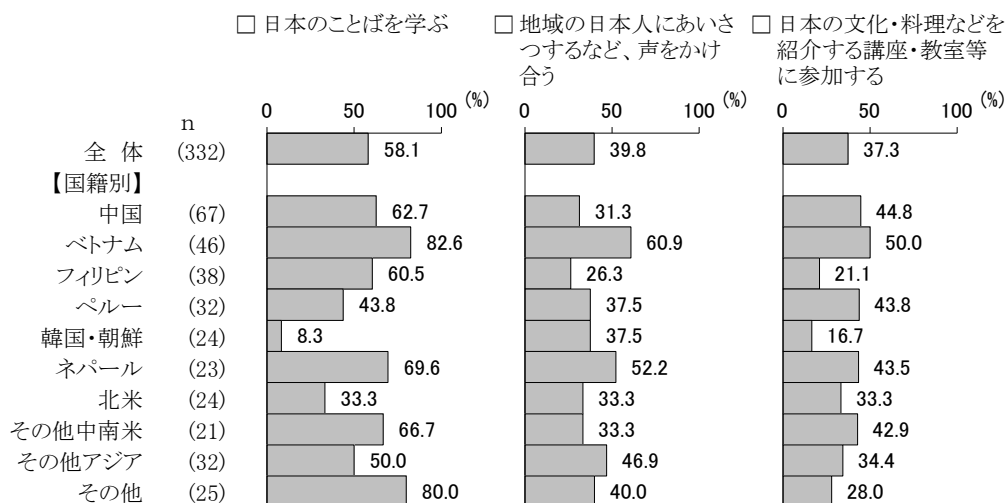
(2) 「多文化共生のまちづくり」の推進のために自分でできること

問26 「多文化共生のまちづくり」を進めるために、あなたができると思うことはどんなことですか。(〇はいくつでも)



「多文化共生のまちづくり」の推進のために自分でできることでは、「日本のことばを学ぶ」が58.1%で最も多く、以下、「地域の日本人にあいさつするなど、声をかけ合う」(39.8%)、「日本の文化・料理などを紹介する講座・教室等に参加する」(37.3%)、「地域の日本人と気軽に話をする」(35.5%)となっている。

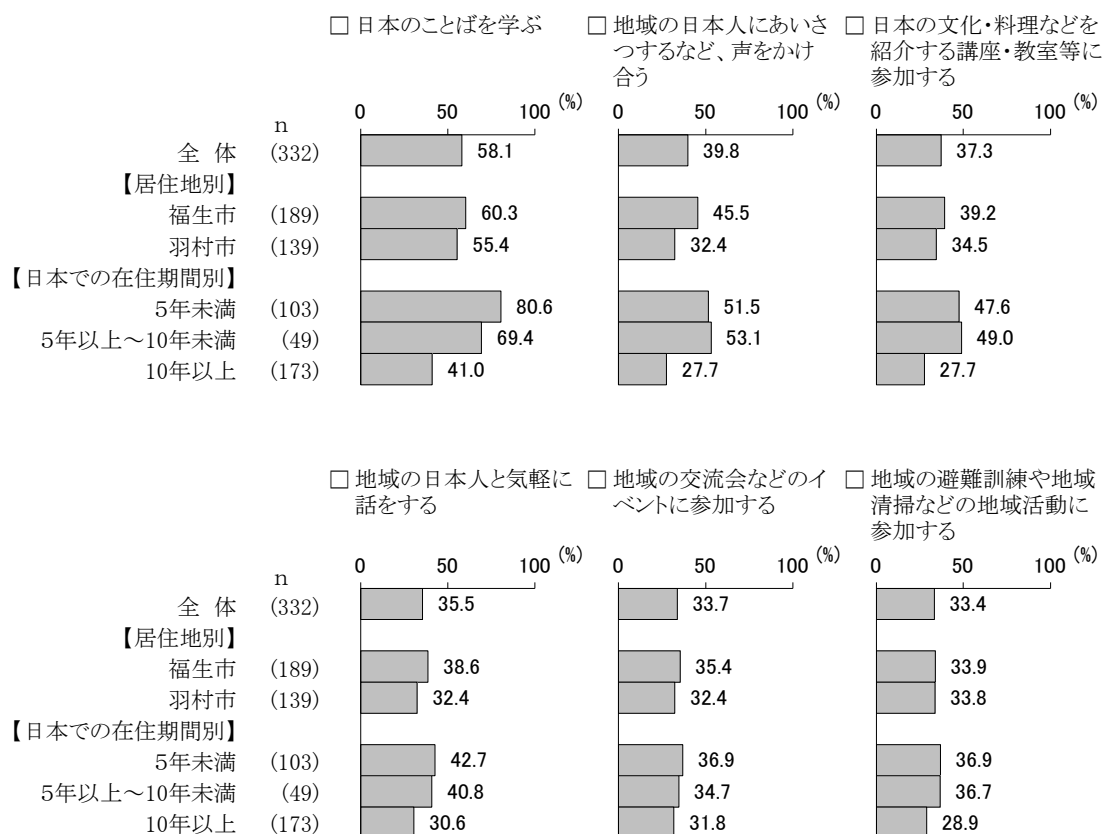
「多文化共生のまちづくり」の推進のために自分でできること 国籍別



上位6回答のみ抜粋

国籍別にみると、「日本のことばを学ぶ」についてはベトナム(82.6%)、その他(80.0%)、ネパール(69.6%)、その他中南米(66.7%)が全体より高くなっている。また、「地域の日本人にあいさつするなど、声をかけ合う」についてはベトナム(60.9%)、ネパール(52.2%)、その他アジア(46.9%)、「日本の文化・料理などを紹介する講座・教室等に参加する」についてはベトナム(50.0%)、中国(44.8%)、ペルー(43.8%)、ネパール(43.5%)、その他中南米(42.9%)、「地域の日本人と気軽に話をする」についてはその他アジア(46.9%)、北米(45.8%)、ベトナム(45.7%)、その他(44.0%)、ネパール(43.5%)、「地域の交流会などのイベントに参加する」についてはその他(44.0%)、ベトナム(41.3%)、ネパール(39.1%)、中国(38.8%)、「地域の避難訓練や地域清掃などの地域活動に参加する」についてはネパール(47.8%)、ペルー(46.9%)、その他(44.0%)、ベトナム(39.1%)が全体より高くなっている。

「多文化共生のまちづくり」の推進のために自分でできること 居住地・日本での居住期間別



上位6回答のみ抜粋

居住地別にみると、「地域の日本人にあいさつするなど、声をかけ合う」については福生市(45.5%)が羽村市(32.4%)より13.1ポイント高くなっている。また、「地域の日本人と気軽に話をする」については福生市(38.6%)が羽村市(32.4%)より6.2ポイント高くなっている。

日本での居住期間別にみると、「日本のことばを学ぶ」については5年未満(80.6%)、5年以上～10年未満(69.4%)が全体より高くなっている。「地域の日本人にあいさつするなど、声をかけ合う」については5年未満(51.5%)、5年以上～10年未満(53.1%)、「日本の文化・料理などを紹介する講座・教室等に参加する」については5年以上～10年未満(49.0%)、5年未満(47.6%)、「地域の日本人と気軽に話をする」については5年未満(42.7%)、5年以上～10年未満(40.8%)が全体より高くなっている。

(3) より住みやすいまちにするためにできること

問27 日本人と外国人とが共に認め合い、協力し合いながら、より住みやすいまちにするために、あなたのご意見を自由に書いてください。

日本人と外国人とが共に認め合い、協力し合いながら、より住みやすいまちにするためのご意見を自由に記述していただいたところ、159票の様々な意見が寄せられた。1票に複数の意見が記入されている場合があるため、意見数の合計は188件となっている。その中から、抜粋した意見を分野ごとに記載した。なお表現・表記方法については原則として回答を尊重し、そのままの掲載としているが、内容については意見の趣旨を損なわないよう、一部要約したものもある。

分類	件数
偏見・差別を無くし、相互に尊重することについて	40
多文化交流イベントの開催について	36
語学学習・学校について	23
多言語への対応・サポートの充実について	23
外国人が日本を理解することについて	18
日本人が諸外国の文化等を理解することについて	10
経済的支援について	2
その他	36
合計	188

主な意見

1. 偏見・差別を無くし、相互に尊重することについて

- ・町内会に外国人を入れることにより、偏見や差別を減らし警戒心を抑えることができます。
- ・外国人として、まず市役所でもらった資料は真面目に読んで、基本ルールを守っています（郷に入れば郷に従え）。外国人が参加できる公益活動を多く開催して、日本人と外国人がお互いに認め合って助け合うとよいと思います。このアンケートに感謝しています。自分がすごく心配していることや困ったことを伝えられて本当に良かったです。ありがとうございます。
- ・日本人は外国人に対する先入観を捨ててほしいです。
- ・大多数の外国人は協力しつつ、日本社会に受け入れられながら生活することを望んでいます。しかし、常に多くの日本人に不安と不信感があります。でも中にはとても優しくて親切な日本人もいます。また外国人の中にも一定の割合で不適切な行動をする人もいますが、大多数はそうではありません。

第3章 外国人住民用調査結果の詳細

- ・外国人の子ども達まで被害を受けるので、両親は日本人の子ども達に、子どものころから外国人差別について教育してほしいです。この国のいじめは大きな問題です。
- ・人と仲良くすること、理解し、お互いに助け合うことが必要だと思います。自主的に手助けし、自己中心的にならないこと、人の気持ちを考え理解すること、長く忍耐することが必要だと思います。
- ・外国人だという先入観・偏見・差別はなくさなければいけないと思っています。

2. 多文化交流イベントの開催について

- ・町内会に入らなくても色々参加できるようにしてほしいです。町内会は日本人の仲間でもとまりすぎていて入りたくありません。
- ・日本の文化と習慣について、外国人に教えたり、案内したらいいと思います。また、相談や、日本人と外国人の交流会をしたらよいと思います。
- ・周辺の川の掃除や何か簡単な仕事のボランティア活動などを一緒にすれば、お互いを理解できると思います。周辺の公園や空き家の掃除などもいいかもしれません。また、市が外国人居住者にこのようなアンケートなどができたらいいと思います。このような計画を話し合うことは、多文化共生社会を作ることに役立つと思います。市は今まで市の計画の会議に外国人が参加したことがありますか？
- ・多文化共生の場所が少ないです。交流できる時間と回数が少ないと思います。福生市の多文化共生の交流会は毎週1回で2時間だけですが、私は毎日行きたいです。
- ・自治体が日本人と外国人が交流できる祭り・イベント等を開催したらよいと思います。地域のガイドライン、お知らせ等は日本語だけではなく多言語で作成する必要があると思います。
- ・日本人に対して様々な文化があることを伝え、知識を広めたり理解を深めてもらうことが必要だと思います。いろいろな国の社会的イベントを通じて、各国の文化を浸透させたらよいと思います。
- ・様々な国の人の集まりを行い、暮らしやすくなるために意見を出したり、意見を聞くのがよいと思います。また、その地域で行うべきこと、行うべきでないことを伝えるとよいと思います。

3. 語学学習・学校について

- ・日本語教室などの日本語を学ぶ手助けをすることが必要だと思います。また、外国語通訳のいる市役所や病院に最適です。
- ・日本語教室の開催が必要だと思います。ここで外国人と市民の交流もできるし、困ったときも相談

できるし、お互いのことをよく理解したうえでより良い環境づくりに貢献できる場になると思います。外国人の総合相談窓口を作り、外国人も自治体に意見を言える場を作ってほしいです。学校、病院等の公共施設はベトナム語対応できる体制になればいいと思います。

- ・日本語学校を増やしてほしいです。きちんと日本語を勉強して、もっとコミュニケーションが取れるようになりたいです。
- ・日本人とのコミュニケーションがうまく取れるように我々が日本語も勉強するべきだと思います。また、外国人も地域の環境保護活動、災害の訓練等に参加できるようにお願いします。

4. 多言語への対応・サポートの充実について

- ・外国人特有の問題に直面することがありますが、助けてもらえないことの方が多いです。そういう時には助けになるように外国人へのサポートが必要だと思います。
- ・市役所やホットラインで、英語で相談できるサービスがあり、外国人が無料で日本語を勉強する機会が増えることを願っています。
- ・もっと情報が欲しいです！特に地域のコミュニティラジオ（日本語と主要な外国語の新聞、ニュースレター、ウェブサイトなどの情報を、駅や公園、通りなど様々な公共の場所で発信するラジオ）を立ち上げてほしいです。外国人の人々は情報を必要としています。もっと外国語の情報が欲しいです。
- ・お知らせやチラシが日本語（漢字つき）のみで書かれているので、翻訳が難しいのであればふりがなをふってもらいたいです。そうすれば少しずつ理解できると思います。

5. 外国人が日本を理解することについて

- ・日本のルールと習慣を尊重することが必要だと思います。常に人に親切に接し、誤解を避けるために日本語を学び、正しいコミュニケーションを取るのがよいと思います。
- ・外国人は日本の日常生活により溶け込みやすくなるよう、もっと多くの情報を得てそれらを理解する力をつけなければならないと思います。自分たちが異なる文化圏から来たことはわかっていますが、時に、自国とは大きく異なる社会において正しいふるまい方を知らないがために、間違いを犯し、誤解されることがあります。多くの日本人は外国人を受け入れてくれようとはしますが、100パーセントの満足度を得られないこともあると思います。お互いのことを受け入れるための基本原則はコミュニケーションだと思います。
- ・市のサービスはちゃんとしているので特に何も言うことはありません。私達外国人がコミュニティの向上のために法律に従うことが必要だと思います。

6. 日本人が諸外国の文化等を理解することについて

- ・私の考えでは、日本人は忍耐強く、友好的で、勤勉です。しかし他の国の人と心を開いて話すこと、笑うことができない伝統と振る舞いが見られます。もっとも重要なこととして、一人の外国人を見るとすぐに怖がる傾向が日本人たちに見られます。そして外国人を見下げる反応を示す忙しい日本人たちが多少います。日本人は、話すことを怖がったり、外国人だということで見下げることをやめるべきです。外国人たちは日本の政府が来ることを許して、ここ（日本）に外国人たちが必要で呼んだのですから、従業員、学生、事業者全てに敬意を示す必要があるように見えます。そして日本に長い間住んで日本が私の故郷だと言ったとしても、日本にいつまでも住んでいられるのか、確実ではありません。それは外国人たちにとって不幸なことです。外国人も日本の規則に従いながらここ（日本）で貢献すべきです。
- ・他の国々、彼らの歴史と彼らの考え方の理解を促すために、幼稚園の年齢から高校までのより多くの教育が必要だと思います。日本人は日本の外の今のイベントや文化や様々な方法について知識が少ないと思います。若いうちから、アジア地域の歴史について深く全ての真実を学ぶことが重要だと思います。

7. 経済的支援について

- ・本当に助けを必要としている人たちに支援することが必要だと思います。（たとえば母子家庭を調査し、支援をする）

8. その他

- ・うまく書けないですが特にはないです。周りの日本人の方や職場の日本人の方はとっても暖かく接してくださっています。日本の文化は素晴らしい文化です。日本人の気配りや思いやりはすごいです。外国人として日本で生活していくために日本人みたいなマナー遵守と人との付き合い方ができるように頑張りたいと思います、羽村のまちが好きです。
- ・日本の人々はとても親切で親しみやすいです。まちを外国人にやさしいものにするためには、色々な媒体を使って意識を高めることが良いと思います。
- ・日本での仕事は問題ないですが、税金や年金など支払う額が大変大きいです。また毎日仕事と家の往復で、自由が無いです。